

段上遺跡第12次発掘調査概要報告

2002. 3

東大阪市教育委員会

段上遺跡第12次発掘調査概要報告

2002. 3

東大阪市教育委員会

はしがき

わが東大阪市の東にそびえ立つ生駒山地のふもとには、先人の残した貴重な文化遺産、遺跡が数多く眠っています。瓢箪山駅の南に広がる縄手地区には、縄手遺跡・馬場川遺跡など縄文時代の集落跡として学史上著名な遺跡をはじめ、山腹には後期の群集墳である山畠古墳群があり、太古からの人々の活動の跡をしのぶことができます。

段上遺跡もそうした遺跡の一つで、これまでの調査の結果、縄文時代から古墳時代の遺構や遺物が発見されています。今回の調査では、弧状にめぐる弥生時代後期の溝が検出され、その内部には完全な形を保った壺・甕・高杯などの土器が立錐の余地なく詰まっておりました。その他、古墳時代の掘立柱建物、弥生時代中期の井戸・土坑など大きな成果を挙げることができました。その詳細は本書に記すとおりです。

本市としましては、これら遺跡調査の成果をいち早く公表し、埋蔵文化財の保護・顕彰に努めてまいりたいと存じております。本書が埋蔵文化財調査の報告書としてだけでなく、地域の歴史を掘り起こす冊子として広く読まれることを期待します。

最後になりましたが、調査の実施にあたり多大なご協力を賜りました、大阪府八尾土木事務所ほか関係機関に対し、厚くお礼申し上げます。

平成14年3月

東大阪市教育委員会



溝100出土弥生土器蓋



溝100出土弥生土器

例　　言

- 1 本書は、主要地方道大阪東大阪線道路改良事業に伴う段上遺跡第12次発掘調査の概要報告書である。
- 2 調査は、大阪府八尾土木事務所の依頼を受けて、東大阪市教育委員会文化財課が実施した。
- 3 調査にかかる費用は大阪府八尾土木事務所が負担・用意した。
- 4 現地の調査は平成12年10月1日から平成13年3月29日まで、遺物整理は平成13年4月1日から平成14年3月31日まで実施した。
- 5 現地調査は菅原章太・岩間俊之を担当として実施した。遺物整理は横原美智子を担当として実施した。
- 6 本書の執筆は、Ⅰ・Ⅱを菅原、Ⅲを岩間、Ⅳを横原が行った。Ⅴは菅原・岩間・横原の全員がまとめた。
- 7 遺構実測図の水準高は、T.P.値を用いた。
- 8 遺構写真は菅原・岩間が撮影し、遺物写真は株式会社コミュニケーションに委託の上、撮影した。
- 9 現地の土色および土器の色調は、農林水産省農林水産技術事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』(2000年版)に準拠し、記号表示も同書に従った。
- 10 基準杭・調査杭の打設は興垂測量株式会社に、空中写真測量は株式会社アコードに、それぞれ委託の上実施した。
- 11 現地調査・遺物整理及び報告書刊行にあたっては、下記の方々から多大なご協力をいただいた。
記して謝意を表する。

　　大阪府八尾土木事務所・生命工芸株式会社・安西工業株式会社

- 12 現地調査および報告書作成にかかる遺物整理には、下記の方々の参加を得た。

　　八田美代子・西村　慶子・高畠慎太郎・國分　陽介・大木祥太郎・田中　実
　　川田　純子・田中　良輔・前島　ちか・辰巳　友邦・中谷　士伸・朝平　琴
　　水沼　優・佐藤　由美・宮浦　和也・藤本　留美・大久　和子・釜田有理絵
　　南部　優里・植田　律子

本文目次

はしがき	
例言	
I. 調査に至る経過	1
II. 位置と環境・既往の調査	2
III. 調査の概略	4
1) 地区割	4
2) 調査の方法	4
3) 番序	4
4) 遺構	7
IV. 出土遺物	20
1) 土器	20
2) 絵画文・記号文のある土器	81
3) 溝100出土の生駒西龍産土器	82
4) 石製品	83
V.まとめ	87
1) 段上遺跡第12次調査地の集落様相概観	87
2) 溝100とその出土遺物	87

挿図目次

第1図 調査地点位置図	1
第2図 試掘トレンチ位置図	3
第3図 段上遺跡とその周辺の遺跡	3
第4図 調査地区割図	4
第5図 A・B区南壁、B区西壁断面図	6
第6図 A区第1遺構面平面図	8
第7図 B区第1遺構面平面図	9
第8図 第2遺構面平面図	11・12
第9図 第3遺構面平面図	11・12
第10図 溝100内土器出土状況	13・14
第11図 溝100内土器出土状況立面図	15
第12図 井戸14・土坑15実測図	16
第13図 試掘調査出土土器実測図	20
第14図 溝100出土土器実測図	22
第15図 溝100出土土器実測図	23
第16図 溝100出土土器実測図	24
第17図 溝100出土土器実測図	25

第18図	溝100出土土器実測図	27
第19図	溝100出土上器実測図	30
第20図	溝100出土土器実測図	33
第21図	溝100出土土器実測図	35
第22図	溝100出土土器実測図	37
第23図	溝100出土土器実測図	38
第24図	溝100出土土器実測図	39
第25図	溝100出土土器実測図	41
第26図	溝100出土土器実測図	43
第27図	溝100出土上器実測図	45
第28図	溝100出土土器実測図	48
第29図	溝100出土土器実測図	49
第30図	溝100出土土器実測図	52
第31図	溝100出土土器実測図	53
第32図	溝100出土土器実測図	55
第33図	溝100出土土器実測図	57
第34図	溝100出土土器実測図	59
第35図	溝100出土土器実測図	61
第36図	溝100川上器実測図	63
第37図	溝100出土土器実測図	64
第38図	溝100出土土器実測図	66
第39図	溝100出土土器実測図	68
第40図	溝33・82・87・88・95・98・99出土土器実測図	69
第41図	上坑6・8・井戸14出土土器実測図	72
第42図	土坑30出土土器実測図	73
第43図	ピット136・171・183出土土器実測図	74
第44図	第4層出土土器実測図	75
第45図	第4層・第5層出土土器実測図	76
第46図	第5層・第5層～第6層・第6層出土土器実測図	78
第47図	側溝出土土器実測図	79
第48図	絵画文・記号文のある上器拓影	80
第49図	絵画文・記号文のある上器拓影	81
第50図	石製品実測図	84

表 目 次

表1	ピット一覧表	18・19
表2	溝100出土土器比率	83
表3	石製品観察表	85・86
表4	石製品の個体別表およびグラフ	86

図 版 目 次

図版1	上 調査地と周辺 下 調査地全景	下 溝100出土弥生土器広口壺・無頸壺
図版2	上 先行部第1遺構面検出状況 中 先行部第2遺構面検出状況 下 先行部第3遺構面検出状況	図版21 溝100出土 弥生土器広口壺 図版22 溝100出土 弥生土器広口壺 図版23 溝100出土 弥生土器広口壺 図版24 溝100出土 弥生土器広口壺 図版25 溝100出土 弥生土器広口壺 図版26 溝100出土 弥生土器広口壺 図版27 溝100出土 弥生土器無頸壺 図版28 溝100出土 弥生土器台付鉢・小形壺・ 無頸壺・広口壺
図版3	上 A区第1遺構面(動溝)検出状況 下 B区第2遺構面(動溝)検出状況	図版29 溝100出土 弥生土器長頸壺
図版4	上 A区第2遺構面検出状況 下 B区第2遺構面検出状況	図版30 溝100出土 弥生土器長頸壺
図版5	上 A区溝100内土器出土状況 下 A区溝100内土器出土状況	図版31 溝100出土 弥生土器長頸壺
図版6	上 A区溝100内土器出土状況 下 A区溝100内土器出土状況	図版32 溝100出土 弥生土器長頸壺
図版7	上 A区溝100内土器出土状況 下 A区溝100内土器出土状況(下層)	図版33 溝100出土 弥生土器長頸壺
図版8	上 B区溝100内土器出土状況 下 B区溝100内土器出土状況	図版34 溝100出土 弥生土器反頸壺
図版9	上 B区溝100内土器出土状況 下 B区溝100内土器出土状況	図版35 溝100出土 弥生土器長頸壺・短頸壺
図版10	上 B区溝100内土器出土状況 下 B区溝100内土器出土状況	図版36 上 溝100出土 弥生土器長頸壺 下 溝100出土 弥生土器長頸壺
図版11	下 B区溝100内土器出土状況 下 B区溝100内土器出土状況	図版37 溝100出土 弥生土器長頸壺
図版12	上 B区溝100内土器出土状況 下 B区溝100内土器出土状況	図版38 上 溝100出土 弥生土器長頸壺・短頸壺 下 溝100出土 弥生土器長頸壺・短頸壺
図版13	上 A区第2遺構面完掘状況(東側) 下 A区第2遺構面完掘状況(西側)	図版39 上 溝100出土 弥生土器長頸壺・広口壺 下 溝100出土 弥生土器短頸壺
図版14	上 十坑6内右泡丁出土状況 下 B区第2遺構面掘削状況	図版40 上 溝100出土 弥生土器甕 下 溝100出土 弥生土器甕
図版15	上 A区第3遺構面完掘状況 下 B区第3遺構面完掘状況	図版41 溝100出土 弥生土器甕
図版16	上 戸戸14完掘状況 下 戸戸14北壁断面	図版42 溝100出土 弥生土器甕
図版17	上 土坑15断面 下 土坑18断面	図版43 溝100出土 弥生土器甕
図版18	上 A区南壁断面 中 A区南壁断面 下 B区西壁断面	図版44 溝100出土 弥生土器甕
図版19	試掘調査出土 弥生土器長頸壺・甕・鉢・ 高杯・底部	図版45 溝100出土 弥生土器甕
図版20	上 試掘調査出土 弥生土器広口壺・ 甕・高杯・脚台	図版46 溝100出土 弥生土器甕
		図版47 溝100出土 弥生土器甕・台付甕
		図版48 上 溝100出土 弥生土器甕 下 溝100出土 弥生土器甕
		図版49 上 溝100出土 弥生土器甕 下 溝100出土 弥生土器甕
		図版50 上 溝100出土 弥生土器甕 下 溝100出土 弥生土器甕
		図版51 溝100出土 弥生土器甕
		図版52 上 溝100出土 弥生土器甕 下 溝100出土 弥生土器甕

- 図版53 上 溝100出土 弥生土器甕
下 溝100出土 弥生土器甕
- 図版54 上 溝100出土 弥生土器甕
下 溝100出土 弥生土器甕
- 図版55 溝100出土 弥生土器甕
- 図版56 溝100出土 弥生土器甕
- 図版57 上 溝100出土 弥生土器甕
下 溝100出土 弥生土器甕
- 図版58 上 溝100出土 弥生土器甕・鉢
下 溝100出土 弥生土器甕・鉢
- 図版59 溝100出土 弥生土器高坏
- 図版60 溝100出土 弥生土器高坏
- 図版61 溝100出土 弥生土器高坏
- 図版62 上 溝100出土 弥生土器高坏・脚台
下 溝100出土 弥生土器脚台
- 図版63 上 溝100出土 弥生土器高坏・鉢
下 溝100出土 弥生土器高坏・脚台
- 図版64 溝100出土 弥生土器鉢
- 図版65 溝100出土 弥生土器鉢
- 図版66 溝100出土 弥生土器鉢
- 図版67 溝100出土 弥生土器鉢
- 図版68 溝100出土 弥生土器鉢
- 図版69 溝100出土 弥生土器鉢
- 図版70 溝100出土 弥生土器鉢
- 図版71 溝100出土 弥生土器鉢
- 図版72 溝100出土 弥生土器鉢
- 図版73 溝100出土 弥生土器鉢
- 図版74 溝100出土 弥生土器鉢
- 図版75 溝100出土 弥生土器台
- 図版76 溝100出土 弥生土器台
- 図版77 溝100出土 弥生土器台・台付甕・把手付コップ形土器・ミニチュア土器
- 図版78 上 溝100出土 弥生土器壺蓋・筒形鉢
下 溝100出土 弥生土器無頸壺・甕蓋・ミニチュア土器
- 図版79 溝100出土 弥生土器甕・鉢 溝88出土
十師器高坏・甕 須恵器堤瓶・高坏脚台・
坏蓋 溝95出土 弥生土器高坏脚台
- 図版80 上 溝88出土 製塙土器 須恵器坏蓋・
無頸壺・壺・坏身
下 溝88出土 弥生土器広口壺・小形壺・高坏
溝33出土 弥生土器広口壺
- 図版81 上 溝87出土 土師器坏身 須恵器坏
蓋・坏身
下 溝98出土 須恵器坏蓋 土師器坏
- 身・皿
- 図版82 上 溝99出土 土師器鉢・甕 製塙土器
下 溝99出土 須恵器坏蓋・坏身
- 図版83 上 井戸14出土 弥生土器甕
下 井戸14出土 弥生土器広口壺・鉢・
甕 土坑6出土 弥生土器鉢
- 図版84 溝33出土 須恵器堤瓶 溝99出土 須
恵器坏身 土坑8出土 須恵器坏身
ピット183出土 弥生土器甕 ピット
171出土 弥生土器高坏 側溝出土
弥生土器台付鉢・鉢
- 図版85 上 土坑30出土 弥生土器壺 井戸14
出土 弥生土器甕
下 土坑30出土 弥生土器広口壺・無
頸壺
- 図版86 第4層出土 弥生土器広口壺・器台・甕・
長頸甕
- 図版87 上 第4層出土 須恵器高坏・甕
下 第4層出土 須恵器鉢・坏身
- 図版88 上 第4層出土 弥生土器広口壺・甕
下 第4層出土 土師器坏身・小型丸底
壺・羽釜 製塙土器
- 図版89 第4層出土 土師器甕・須恵器坏蓋・有
蓋高坏 製塙土器 第5層出土 弥生
土器甕 第5~6層出土 弥生土器
壺蓋・広口壺
- 図版90 上 第5層出土 土師器甕・羽釜・鉢・
坏身 須恵器坏蓋・坏身
下 第6層出土 弥生土器広口壺 第
5~6層出土 弥生土器広口壺
- 図版91 上 ピット136出土 須恵器坏身 側
溝出土 須恵器坏蓋・坏身
下 側溝出土 弥生土器高坏・甕
- 図版92 上 ピット139出土 石鑼 溝100出土
石鑼 第5層出土 石錐 七坑11出土
石錐 第7層出土 石槍 井戸14出土
石槍
下 第4層出土 滑石製双孔円板・叩き
石・砥石 溝99出土 滑石製勾玉 試
掘調査出土 滑石製紡錘車 上坑16出
上 石庖丁 溝100出土 石庖丁
- 図版93 絵画文・記号文のある土器
- 図版94 絵画文・記号文のある土器
- 図版95 絵画文・記号文のある土器

I. 調査に至る経過

大阪府では、国道170号線(外環状線)六万寺交叉点東側から府道枚方富田林泉佐野線へ至る新道路、主要地方道大阪東大阪線を計画された。この段階で、大阪府教育委員会の担当により路線内で試掘調査が実施され繩文～古墳時代の遺物が出土した。また周知の段上遺跡の範囲にあたり、大阪府八尾土木事務所と東大阪市教育委員会とは取扱いの協議を重ねた。先の試掘では湧水が激しく現地表下-1.5m以下については未調査であった。このため以深部の遺物包含状態についてデータを得るべく、平成6年2月～3月に財團法人東大阪市文化財協会の担当で再度試掘調査が実施された(第2次調査)。その結果、トレンチの深奥部で繩文時代の遺構が検出され、現地表下-4～5mまでが調査の対象とされた。発掘調査は路線の西側から進められ、平成6年8月～平成7年3月まで第3次調査、平成7年9月～平成8年2月まで第4次調査が財團法人東大阪市文化財協会の担当で実施された。発掘調査は東側へ進む予定であったが、大阪府から用地買収の事業を優先する旨の方針が出され、一時中断した。

平成12年5月、前記の事業が終了し、東側の未調査部分について埋蔵文化財発掘の通知が大阪府八尾土木事務所から提出された。発掘調査の実施については合意に達していたが、路線の東端近くでは地山層が地表下浅く検出されることが予想された。そこで、調査の掘削深度のデータを得る目的で、平成12年6月試掘調査を東大阪市教育委員会の担当で実施した。調査トレンチは第2図に示すとおりで、4カ所実施した。調査の結果、No.2とNo.4の間で地山層が急激に落ち込むことを確認した。よって、未調査部分のうち東側5分の3ほどが地表下-1.2mまで(浅掘り部)、西側5分の2ほどが地表下-4.5mまで(深掘り部)の調査掘削とする結論を得た。発掘調査は2カ年の予定で行なわれることになり、平成12年度は浅掘り部が選択された。なお、浅掘り部には里道があり電柱他の支障物の撤去に時間を費やすことが判明したため、里道部分は翌年度に調査を行なうことになった。平成12年度の発掘調査は平成12年10月1日から平成13年3月29日まで実施した。



第1図 調査地点位置図

Ⅱ. 位置と環境・既往の調査

段上遺跡は、東大阪市下六万寺町3丁目・末広町・六万寺町1丁目にわたる縄文時代中期から中世期にいたる集落遺跡である。

生駒山地西麓部には急峻な斜面を流下する小河川が形成する扇状地が随所で見られる。とくに東大阪市域には幅広の段丘や扇状地が発達している。前面に広がる海とに挟まれた地帯は縄文時代以来、遺跡の立地条件として好適であり、日下・神並・繩手・馬場川など学史的に著名な遺跡が点在する。市域東南部の山腹に水源を発する鳴川渓は扇頂部で2つの支谷に分岐するが、段上遺跡はこの2つの支谷、空川と長門川(河川名は現況による)が形成する扇状地の中央部から先端部にかけて立地する。標高でT.P.8~15mの範囲に遺跡が広がっている。今回の調査地は遺跡の東端部にある。

段上遺跡は昭和45年ごろ下六万寺町の畠地で弥生土器や須恵器の破片が採集され、周知の遺跡となった。その後、昭和58年に電気ケーブル埋設工事に伴い、人孔部について小規模な調査が実施された(第1次調査)。調査の結果、中期～後期の弥生土器が出土し、とくに中期の壺・釜等5点の一括遺物が見られた。穿孔のある壺があり方形周溝壺の存在が示唆されている。本遺跡は北の五合田遺跡と同じく昭和30年代に開発が進行した地域で、発掘調査を伴うような大規模な開発が極めて少なく、時日を推移した。大阪東大阪線道路新設事業に伴う第3次～第4次調査は本遺跡における初めての本格的な調査である。第3次調査では縄文時代中期～後期の土坑・自然流路、弥生時代中期の堅穴住居・土坑・柱穴・溝、弥生時代後期の土坑・溝、古墳時代前期の土坑・溝など、第4次調査では縄文時代中期～晩期に断続的に流下した自然流路、弥生時代中期の堅穴住居・溝・土坑・井戸、古墳時代中期の小型低丘墳2基などを検出し大きな成果を得た。また各時期の遺物も多量に出土した。とくに中期末～後期前半の縄文土器や家形埴輪などは貴重な発見である。第5次～第10次調査は下水管埋設に伴う調査で、弥生時代中期～後期、古墳時代後期の遺構・遺物が検出されている。第11次調査は国庫補助事業で弥生～古墳時代の遺物とともに奈良時代の遺物が出土し注目される。

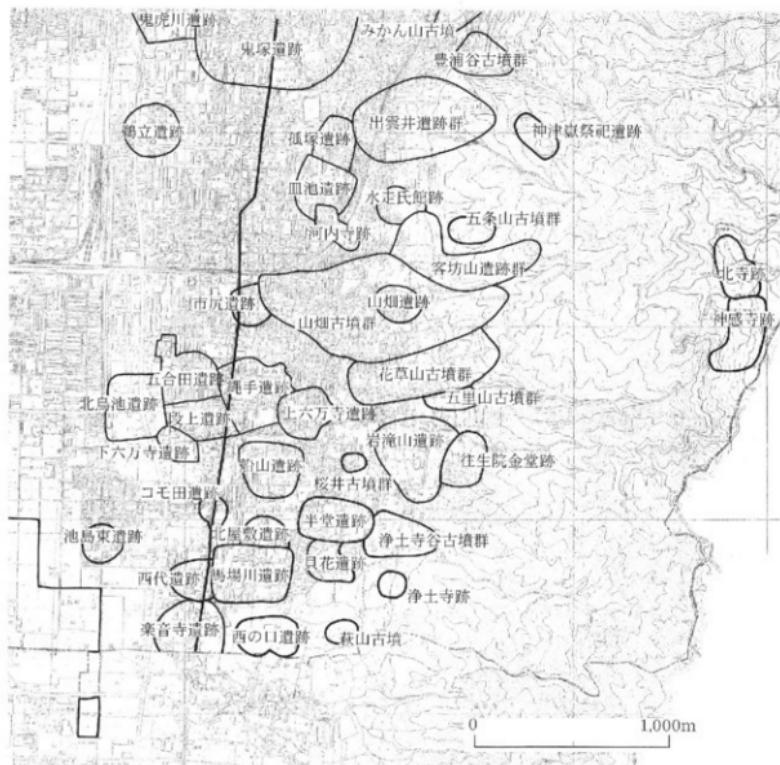
段上遺跡の調査成果と深く連関するのが東に接する繩手遺跡である。今回の調査地と指呼の間に位置する繩手小学校・繩手中学校の敷地で、縄文時代後期前半の住居址11棟が検出されている。繩手遺跡では石鍤などの漁撈具、石皿・磨石などの調理具が見られ、活発な生業活動が窺われる該期の中核的な集落といえる。繩手遺跡の南方には後期初頭・晩期前半に属する馬場川遺跡が所在し、多数の土偶が出土したことで知られている。弥生時代中期の集落ははるか北方の鬼塚・西ノ辻・鬼虎川の各遺跡まで隔離しており、本遺跡周辺は希薄である。むしろ新設道路敷地内にあたる第3～4次調査地や今回の調査地に中期集落の1つの核が求められる可能性がある。後期には、山畠遺跡・岩流山遺跡が扇頂部に位置し、高地性集落として夙に知られている。繩手遺跡ではその北端部で後期前半の土器が良好な状態で多量に出土している。前記の馬場川遺跡では後期後半の井戸が検出され、土器が一括出土した。本遺跡の西に接する北烏池遺跡では後期末から古墳時代前期初頭の土器が見つかり、該期の標識遺跡となっている。南方のコモ山遺跡でも立会調査で後期の土器が出土したことがある。古墳時代では、えの木塚古墳が注目される。繩手遺跡の内部にあたり小型の前方後円墳と推定されている。朱が塗布されたヒレ付き円筒埴輪のほか予持勾玉も出土した。4世紀末の築造と考えられている。

山腹の尾根筋には後期古墳が群集する。その中で山畠古墳群が著名である。最も低位置に築造されたのが瓢箪山古墳(52号墳)で南北長50mの双円墳とされている。山頂付近には神感寺跡が所在する。密教の山岳寺院で、出土遺物や伝世品から平安時代から室町時代まで存続したことが判明している。

このように段上遺跡周辺では、原始から連綿と続く、人々の多様な営みを窺うことができる。



第2図 試掘トレーニング位置図



第3図 段上遺跡とその周辺の遺跡

III. 調査の概要

1) 地区割 (第4図)

今回の調査は、主要地方道大阪東大阪線の改良事業に伴うものである。調査の範囲は、東西55.6m、南北13.2mである。調査区は里道によって調査区が東西に分断するため、東側をA区、西側をB区として、調査を行った。工事の都合により、A区の北東部を先行して調査した。A区、B区の調査面積は約767m²である。

また、各地区での地区割は、既往の調査と、平成13年度の調査との整合性をもたすため、国上座標系を使用した。(建設省告示(昭和43年)) 国家座標に基づく基準杭を打設し、5mメッシュで遺物の取り上げを行った。調査地での各地区の位置及び座標位置は、第4図の通りである。

2) 調査の方法

今回の発掘調査にあたっては、地表面から上部0.5mを重機で掘削・除去し、下部0.7mを人力で掘削、精査した。下部で構造や遺物の検出に努め、写真の撮影や平面図・断面図の作成を適宜行った。

3) 層序 (第5図)

A区の層序

第1層 振乱及び盛土。

第1A層 オリーブ黒灰色(5GY2/1)細礫混じり中粒砂。旧耕土。

第2層 灰オリーブ色(5Y5/2)細礫混じりシルト質中～細粒砂。床土。層厚は10～20cmである。

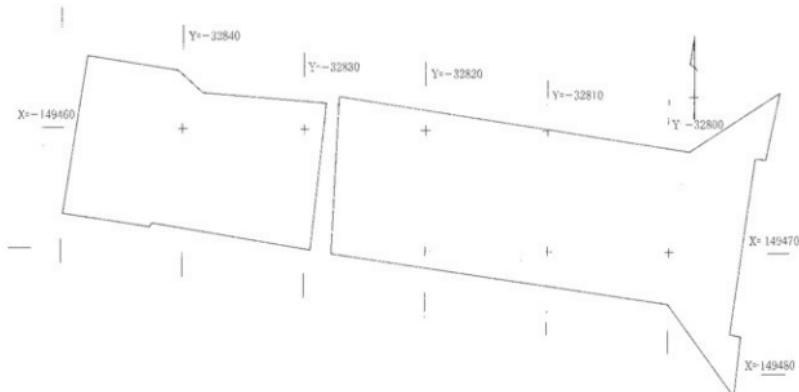
第3層 灰オリーブ色(5Y5/2)細礫混じりシルト質中粒砂。鉄分を含む。層厚は10～20cmである。

第3'層 灰オリーブ色(5Y5/2)細礫混じりシルト質中粒砂に灰オリーブ色(5Y5/2)細礫混じりシルト質中～細粒砂が混じる。東側でわずかにみられる。

第3a層 緑灰色(10GY5/1)粘質中粒砂。細礫を含む。

第3X層 近代の振乱土。

第4層 黄灰色(2.5Y4/1)シルト質細粒砂。細礫を含む。古墳～弥生時代の遺物包含層である。



第4図 調査地区割図

特に東側では包含層ごとにカットされており、再堆積した包含層である。弥生時代を主体にするが、須恵器も混在する。深さは10~30cmである。

第4 a層 第3層が多量に混じる。

第4 b層 第3層が中量混じる。

第4 c層 第3層が少量混じる。

第4 X層 暗褐色(7.5YR3/3)中~細礫、明黃褐色(10YR6/6)極細粒砂、緑灰色(5G5/1)極細粒砂の互層である。古墳時代の土器を多く含む。

第5 層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細礫混じりシルト質細粒砂。弥生時代の遺物包含層である。層厚は約20~30cmである。南側においてわずかにみられる。

第5 a層 褐色(7.5YR4/6)シルト。細礫を含む。

第6 層 青灰色(5BG5/1)細粒砂~シルト。

第7 層 青灰色(5BG5/1)シルト~中粒砂。

第8 層 オリーブ黒色(10Y3/2)粘土質細~中粒砂。

第8 a層 灰色(7.5Y4/1)粘土混じり粗粒砂~細礫。

B区の層序

第1 層 撥乱及び盛土。

第1 A層 オリーブ黒色(5GY2/1)細礫混じり中粒砂。旧耕土である。

第2 層 オリーブ灰色(5GY 5/1)細礫混じり中粒砂。層厚は10~44cmである。

第3 層 オリーブ灰色(5GY 5/1)細礫混じりシルト質中粒砂。鉄分を含む。層厚は10~44cmである。

第3 A層 第2層と第3層の混合土。第3層を主体にする。

第3 B層 第2層と第3層の混合土。第2層を主体にする。

第3 C層 灰色(7.5Y4/1)細礫混じり中粒砂。

第4 層 灰色(7.5Y4/1)細礫混じりシルト質細粒砂。層厚は4~30cmである。西側においては第4 A層が主体に変わる。

第4 A層 黒褐色(10YR2/3)細礫混じりシルト質細粒砂に少量のオリーブ灰色(5GY 5/1)細礫混中粒砂が混入する。層厚は20~32cmである。

第4 B層 黒褐色(10YR2/2)細礫。層厚は平均10cmである。西壁南側にわずかにみられる。

第4 C層 褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂。細礫を含む。

第5 層 第4層と第6層の混合土。層厚は2~20cmである。西側でわずかにみられる。

第6 層 褐色粗砂混じりシルト。弥生時代の遺物包含層。

第7 層 暗緑灰色(7.5Y4/1)中~粗粒砂。層厚は4~22cmである。

第8 層 暗青灰色(5BG4/1)粘土混じり中~粗粒砂。

第8 A層 灰色(10GY3/1)細礫。自然流路堆積層である。

溝100

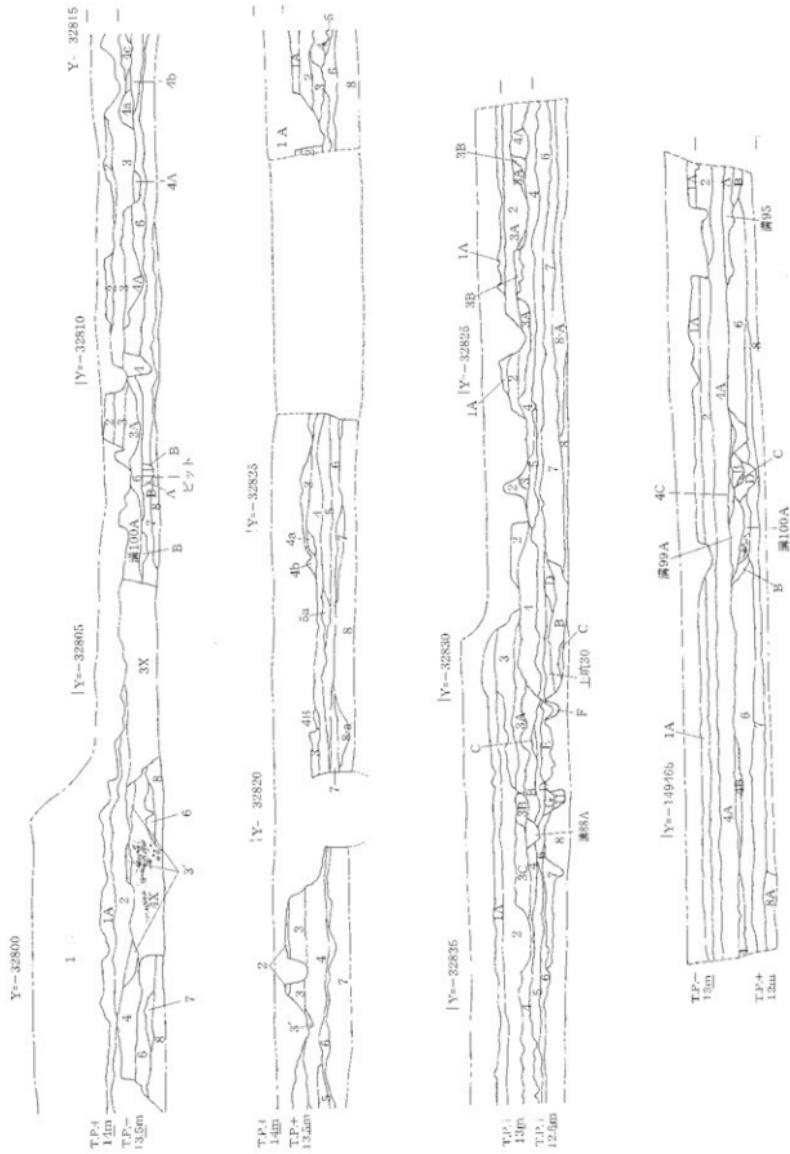
第A 層 オリーブ黒色(10Y3/2)細礫混じり粘質シルト。

第B 層 オリーブ黒色(10Y3/2)粘質シルトに褐色(10YR4/4)粗砂混じりシルトが混入する。

ピット

第A 層 灰色(N4/)細礫混じり粘土。

第B 層 緑灰色(10G5/1)細礫混じり細粒砂に、灰色(N4/)細礫混じり粘土がブロック状に混入する。



第5図 A・B区南壁、B区西壁断面図

溝88

- 第 A 層 付近のピットと同じ。
- 第 B 層 オリーブ黒色(7.5Y3/2)細礫混じり粘質シルト。
- 第 C 層 オリーブ黒色(7.5Y3/2)粘質シルト。
- 第 D 層 第6層にオリーブ黒色(7.5Y3/2)粘質シルトがブロック状に混入する。
- 第 E 層 黒褐色(2.5Y3/2)粘土に第6層が混入する。
- 第 F 層 第8層に黒褐色(2.5Y3/2)粘土が混入する。
- 第 G 層 第4層とほぼ同じ。細礫を多く含む。
- 第 H 層 第6層とほぼ同じ。

土坑30

- 第 A 層 暗緑灰色(7.5GY4/1)中～粗粒砂を主体に、褐色(10YR4/4)粗砂混じりシルトが少量混じる。
- 第 B 層 緑灰色(5Y4/1)粘土混じりシルト。
- 第 C 層 緑灰色(5Y4/1)細礫。

溝99

- 第 A 層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細礫混じり細礫～粗粒砂。
- 第 B 層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細礫混じりシルト。
- 第 C 層 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂。
- 第 D 層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粗～細粒砂。

溝100

- 第 A 層 オリーブ黒色(10Y3/2)細礫混じり粘質シルト。
- 第 B 層 オリーブ黒色(10Y3/2)粘質シルトに褐色(10YR4/4)粗砂混じりシルトが混入する。

溝95

- 第 A 層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト混じり中～細礫。
- 第 B 層 黄褐色(2.5Y5/3)細礫混じりシルト質細粒砂。

4) 造構

第1造構面（第6・7回）

第3層掘削後、第1造構面において、多数の鋤溝と溝、ピット2個、土坑2基を検出した。

A区の造構

鋤溝

南北方向に27条、東西方向に4条の鋤溝を検出した。概ね幅30～40cm、深さ2～4cm程度を測る。
遺存状況は悪い。

溝

西部において溝1を検出した。幅110～175cm、深さ3～9cmを測る。溝55は中央区やや東側において検出した。幅140cm、深さ6～12cmを測る。いずれも鋤溝と同様、南北方向にほぼ平行にはることから、耕作に伴う溝であるとおもわれる。

土坑

土坑4は北辺が調査の都合上、確認することが出来なかつたが、東西1.5m、深さ16～19cmを測る。
西部中央付近において土坑5を検出した。規模45×55cmの楕円形を呈し、深さ17cmを測る。

ピット

中央部やや南側においてピット2基を検出した。ピット100は直径20cmの円形を呈し、深さ13cm

を測る。ピット115は直径18cmの円形を呈し、深さ10cmを測る。柱痕跡は認められなかった。

B区の遺構

鍛溝

南北方向に33条、東西方向に6条の鍛溝を検出した。概ね幅30~40cm、深さ2~4cm程度を測る。遺存状況は悪い。

溝

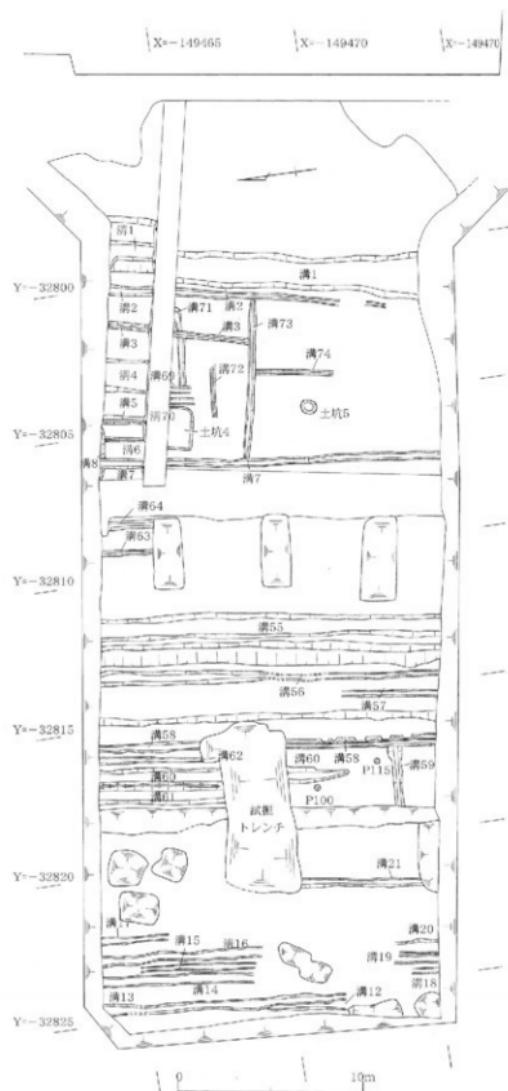
東部において溝22を検出した。幅45~80cm、深さ6~8cm。中央部からは溝33を検出した。幅50~90cm、深さ9~11cm。いずれも鍛溝と同様、南北方向にはほぼ平行にはしことから、耕作に伴う溝であるともわれる。

第2遺構面(第8図)

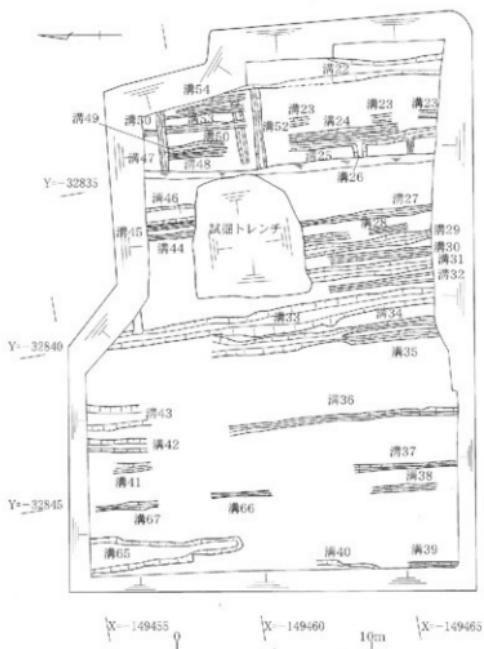
第4層削削後、第4層基底面において奈良~弥生時代後期の遺構を検出した。ピット146個、溝14条、土坑4基を検出した。

溝100(第10・11図)

A区の中央部南側からB区の西側にかけて、調査地を東西にはしる弧状の溝を検出した。A区において23m、B区においては17.8m、未調査部分を含めて全長が46.8mを測る。幅は狭い個所で1.4m、広い個所で2.1m、深さは15~30cmを測る。また、B区においては溝99に切られた状態で検出したため、南側の肩に関しては検出できなかった。A区においては上層の削平を強く受けていることもあり、A区中央はやや不定形である。弥生後期の土器が大量に出土した。



第6図 A区第1遺構面平面図



第7図 B区第1遭構面平面図

のピットは柱痕跡を残すことから、柱穴であると考えられる。掘立柱建物が建つことが考えられるが、復元するには至らなかった。規模は小規模のものが多い。

溝

9条が検出された。溝71は東部において、南北にはしる状態で検出された。幅27~53cm、深さ7~12cmを測る。溝69、72は溝71から枝状にはしる状態で検出された。古墳時代の遺物が出土した。溝70は溝71付近から弧状に北にはしる状態で検出された。幅35cm、深さ6cmを測る。69とつながる可能性も考えられる。古墳時代の遺物が出土した。中央部やや南側において東西にはしる状態で、74を検出した。全長4.3m、幅56cm、深さ2~6cmを測る。75は東西方向に弧状にはしり、溝74、ピット119に切られる状況で検出された。幅40cm、深さ8cmを測る。溝76は溝75から1m離れた地点においてほぼ平行にはしる状況で検出された。幅25cm、深さ4~7cmを測る。遺物は検出されなかった。西部において溝78溝100を切る状態で東西にはしる溝77を検出した。全長7.1m、幅30cm、深さ6cmを測る溝である。古墳時代の遺物が出土した。溝78は溝77に切られ、溝100とほぼ平行に東西にはしる状況で検出された。幅20~70cm、深さ16~6cmを測る。古墳時代の遺物が出土した。

土坑

土器の出土量は溝の中位が大多数を占め、ついで下位が多かった。上位ではほとんどが細片であった。B区では本来完形であった土器が、後世の遭構によって削平されていた。そのため土器は上にあたる部分を欠くという状況であった。土器は東へ行くほど強い削平を受けている。東側は西側より土器の密集度は低く、完形品も少ない。

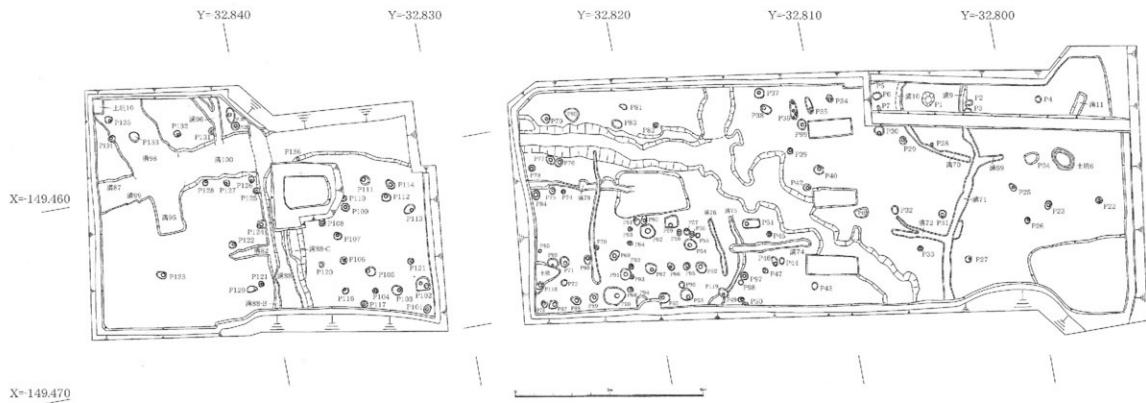
A区の遭構

ピット91個、溝9条、土坑3基を検出した。

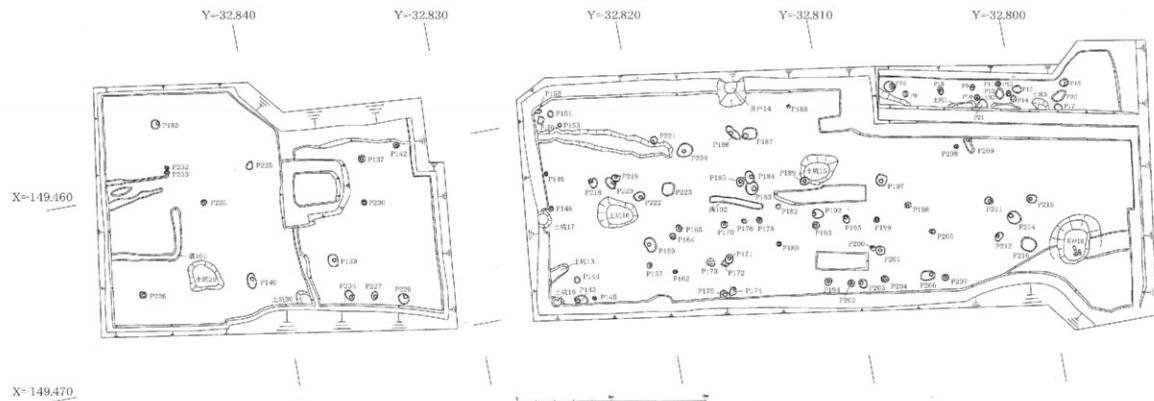
ピット群

91基が検出された。ただし、第2遭構面においては奈良時代、古墳時代、弥生時代後期の遭構が同一面で検出されたため、遭構の時期を明確にすることが出来なかった。ピットの規模、形状、出土遺物については表1に付す。

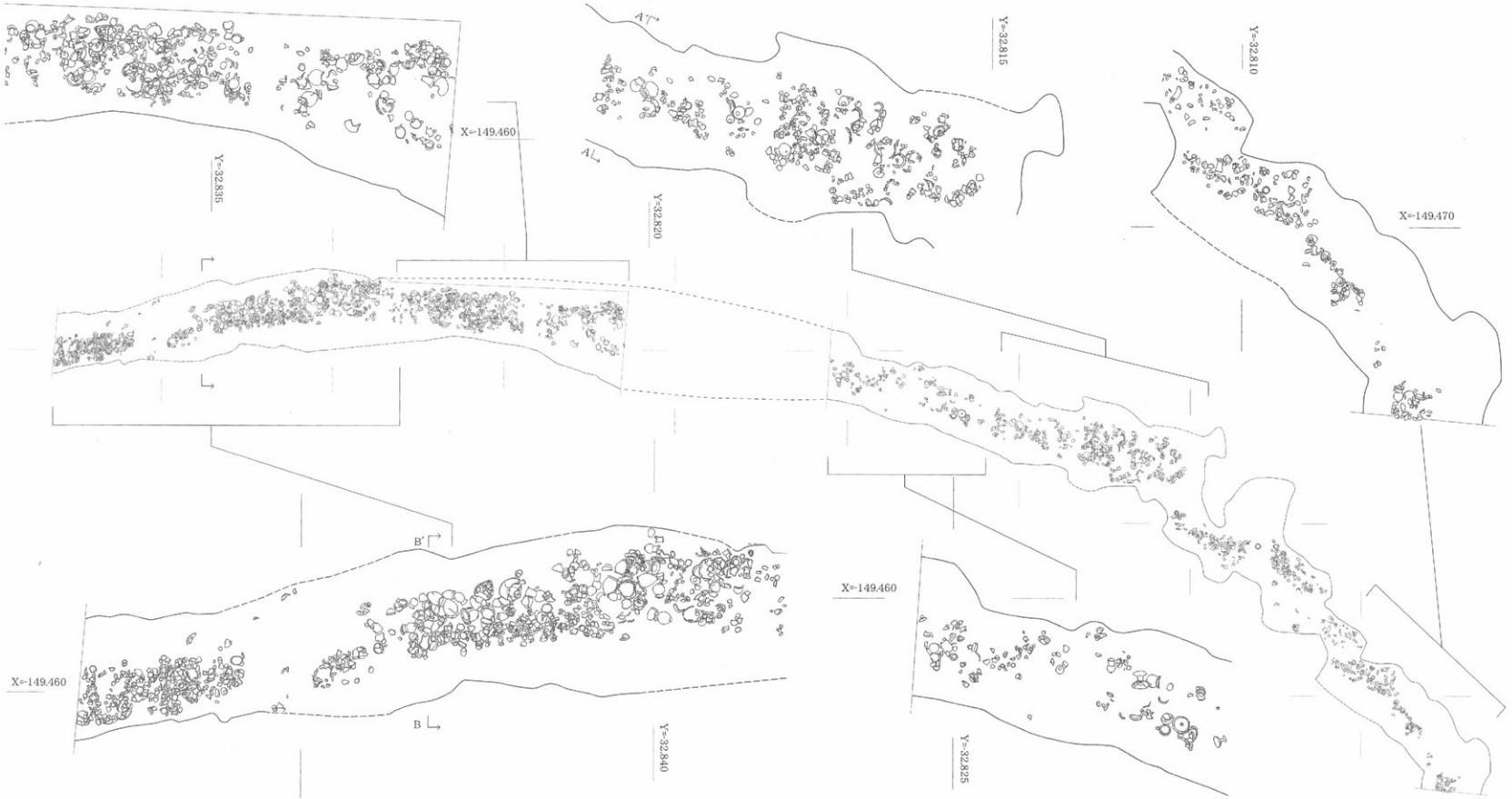
ピット24、28、32、43、48、72、81、82、94、96を除く他



第8図 第2造構面平面図

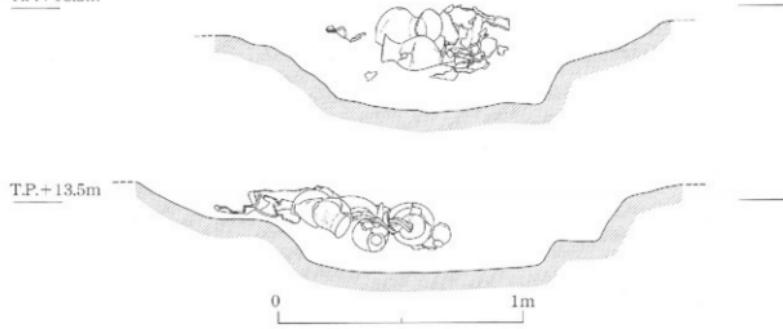


第9図 第3造構面平面図



第10図 溝100内土器出土状況

T.P.+13.2m



第11図 溝100内土器出土状況立面図

土坑9は中央部北側において、溝100を切る状態で検出された。北側は調査範囲外になるため、全形は把握することが出来なかった。溝になる可能性も考えられる。東西1.9m、深さ25cmを測る。古墳時代の遺物が出土した。土坑7は西部南側において検出された。深さ14cmを測る。古墳時代の遺物が出土した。

B区の遺構

ピット35個、溝5条、土坑1基を検出した。

ピット群

35個を検出した。B区においてもA区と同様、時期を明確にするには至っていない。ピット120、133を除き、柱痕跡を残すことから、柱穴であると考えられる。掘立柱建物が建つことが考えられるが、復元するには至らなかった。

溝

5条が検出された。中央部において、南北にはしる溝88を検出した。幅2.1mを測る。また溝88は東西の際が一段深く、中央がテラス状になった状態で検出され、深さは東、中央、西へ42~46cm、8~22cm、11~16cmとなる。さらに西側が溝100を切り、北へ伸びることから便宜上、西側を溝88-B、東側を溝88-Cと呼称した。奈良時代の遺物が出土した。中央部において溝88に切られる状況で南北にはしる溝82を検出した。幅50~60cm、深さ11cmを測る。奈良~古墳時代の遺物が出土した。溝96は中央部北側で検出した。南北にはしり、北側で枝状に分かれる。幅47cm、深さ7~13cmをはかる。古墳時代の遺物が出土した。西部北側において、溝100をほぼ直角に切り、南北にはしる溝95を検出した。南側は上層により削平されている可能性が高い。幅3.6m~6.0m、深さ10~14cmを測る。掘削後、下よりピット133、134、135、土坑10が検出された。古墳時代の遺物が出土した。北東から、溝100に重なる状況で溝99が検出された。ほぼ直線的に溝に重なるため、南側の肩はどちらのものとも決定しがたい。西側において、部分的に溝87を検出した。

土坑

北西隅において溝95を掘削後、土坑10を検出した。全形は北西部が調査範囲外になるため、確認することが出来なかった。深さは8cmである。弥生時代後期の遺物が出土した。

第3遺構面（第9図）

第5層掘削後、第6層上面において弥生時代中期の遺構が検出された。ピット89個、溝3条、土坑

11基が検出された。

A区の遺構

A区ではピット74個、溝1条、土坑10基、不明遺構1ヶ所が検出された。

ピット群（表1）

ピット10、14、19、143は第2遺構面では検出することが出来なかったが、新しい遺物が出土したことから、古墳時代の遺構であることが判明した。

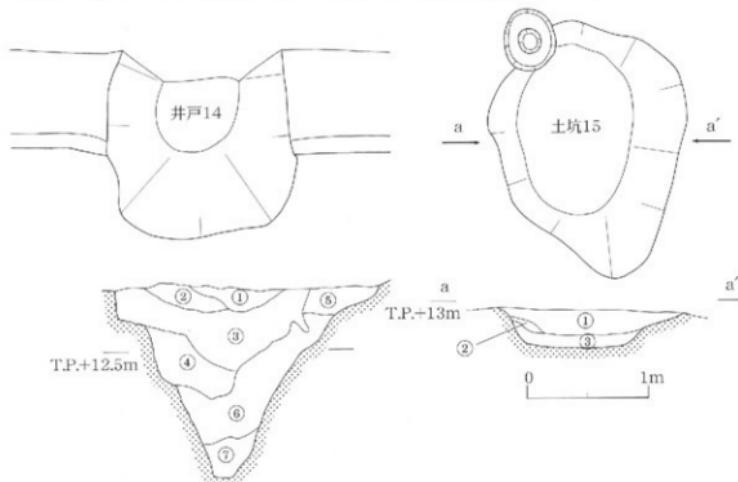
ピット群は調査区全面に一样に存在しているが、特に中央部付近から西部、B区にかけての検出が多い。またピット13、15、20、216、223を除き、他のピットには柱痕跡を残すことから、柱穴と考えられる。掘立柱建物が建つ可能性があるが、復元するには至らなかった。規模はやや大きく一辺65cm以上を測り、隅丸方形もしくは楕円形、円形を呈するピット19、159、183、187、197、214と、他の中へ小規模のピットに大別される。弥生時代中～後期の遺物が出土。

溝

中央部や西寄り付近において、東西方向にはしる溝102を検出した。全長約2.9m、幅40cmを測り、深さは5～10cmである。

土坑（第12図）

土坑1～3、13～19、が検出された。土坑1、2、3は調査先行部において壁にかかる状態で検出さ



井戸14 層序

- ① オリーブ黒色 (10Y3/1) 中～細粒混じりシルト。
- ② 暗オリーブ色 (7.5Y4/3) 細粒混じりシルト質細粒砂。
- ③ 黒色 (N2/2) 細粒と粘土混じりシルト。炭を多量に含む。
- ④ オリーブ黒色 (10Y3/1) 中～細粒と粘土混じりシルト。炭を含む。
- ⑤ 暗青灰色 (5BG4/1) 粘土混じり中～細粒砂を主体に才リーブ黒色 (10Y3/2) シルトをブロック状に含む。
- ⑥ 暗緑灰色 (7.5GY4/1) シルト～粘土。中礫を含む。
- ⑦ 暗緑灰色 (10GY4/1) シルト質粘土。

土坑15 層序

- ① 暗オリーブ灰色 (5GY3/1) 粘土質シルト。炭を含む。
- ② 緑灰色 (10G5/1) 中粒砂を主体にわずかに①が混じる。
- ③ オリーブ黒色 (10Y3/2) 粗粒砂混じり粘土。

第12図 井戸14・土坑15実測図

れた。調査の都合上、設けた畦を外すことが出来なかつたため、全形は不明であるが、深さは土坑1が4cm、土坑2は3cm、土坑3は6cmを測る。遺物は検出されなかつた。土坑13、17は西壁にかかるため、全形は不明である。土坑13は幅68cm、深さ12cmを測る。溝状に東西にはしる可能性も考えられる。遺物は検出されなかつた。土坑17は直径90cm、深さ38cmの円形状に収まると考えられる。弥生時代中期の遺物が出土した。土坑15はほぼ中央部で検出された。1.6×1.8mの不整形であり、深さ36cmを測る。南西部をピット189によって削平される。弥生時代中期の遺物が出土した。土坑16は西側中央で検出された。1.5×2.3mの不整形で、深さは53cmである。弥生中期の遺物が出土した。

井戸（第12図）

井戸14は北側が調査範囲外に入るため、全体の規模を把握することが出来ないが、東西は1.5m、深さ59cmを測る。弥生時代中期の遺物が出土した。井戸18は幅1.8×2.3mの楕円形を呈し、深さ62cmを測る。古墳時代の遺物が出土した。

不明造構

先行部西端において、造構2が検出された。工事の都合により調査出来ず、規模及び形狀については不明である。

B区の造構

ピット15個、溝1条、土坑1基が検出された。

ピット群（表1）

東部北側隅においてピット136を検出した。直径32cmの円形を呈し、深さ13cmを測る。ピット141は中央付近、南側で検出した。東部は概ねされており、南部は南壁により、全形を確認することが出来なかつた。深さ12cmを測る。ともに須恵器が検出されていることから、古墳時代の造構であり、第2造構面の造構であることが判明した。

ピット群は調査区に点在する形で検出された。ピット225を除く他のピットには柱痕跡を残すことから、柱穴と考えられる。先述のA区に比べ、ピット数は少ない。ピットの径は平均65cm程度であり、隅丸方形もしくは楕円形、円形を呈する。大～中規模のピット138～140、227、229、と平均30cm程度の小規模のピット137、225、226、230、232、233、235に大別される。調査地東部南側については掘立柱建物が建つ可能性があるが、復元するには至らなかつた。弥生時代中～後期の遺物が出土した。

溝

溝101は西部中央付近から南に伸び、L字状に西へ折れ、西壁にあたる。全長6.3m、幅は0.4m～0.5m、深さは5～8cmを測る。弥生時代中期の遺物が検出された。

土坑

西部南側において土坑120を検出した長辺2.1m、短辺1.8mを測る不整形であり、深さは25～35cmを測る。弥生時代中期の遺物が検出された。

表1 ピット一覧表

ピット	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	ピット	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
1	不整形	78×68	23	須・土・弥	53	不整形	68×67	22	土・弥
2	隅丸方形	42×30	7	土	54	楕円形	71×61	21	弥
3	楕円形	40×22	7	土	55	円形	27×23	8	
4	円形	38×34	8	上	56	円形	35×28	11	弥
5	?	36×14	11		57	円形	38×32	13	上・弥?
6	隅丸方形	50×46	11		58	楕円形	36×28	8	塙・弥
7	楕円形	29×15	3		59	隅丸方形	73×68	16	弥・石
8	円形	32×32	23		60	楕円形	40×32	11	須・弥
9	楕円形	34×25	3		61	不整形	40×33	16	弥
10	円形	33×33	?	土	62	不整形	84×77	11	須・弥
11	円形	29×29	15		63	円形	24×23	11	
12	円形	34×29	13		64	楕円形	33×24	9	
13	卵形	60×45	6	弥	65	円形	38×34	15	弥
14	円形	36×32	10	上	66	楕円形	46×35	11	弥
15	楕円形	53×41	8		67	不整形	63×57	9	須・弥
16	楕円形	51×41	15		68	円形	32×27	9	弥
17	円形	44×33	10		69	隅丸方形	60×45	17	
18	楕円形	45×30	12	弥	70	円形	23×23	13	須・上・弥
19	円形	62×60	16	上・弥	71	不整形	58×50	12	弥
20	不整形	82×50	5		72	円形	37×33	7	
21	?	?	?		73	不整形	40×36	16	須・弥
22	円形	38×38	17	土・弥	74	円形	25×23	11	
23	楕円形	55×38	17	塙・弥	75	円形	37×33	10	須
24	不整形	76×72	18		76	隅丸方形	48×42	15	
25	楕円形	48×32	23	弥・石	77	隅丸方形	58×46	14	
26	円形	36×30	19	弥	78	円形	35×35	14	
27	円形	36×35	20		79	円形	50×50	8	弥
28	円形	18×14	7		80	不整形	83×72	10	弥
29	円形	46×40	12		81	不整形	45×26	6	弥
30	円形	56×48	24	塙・弥	82	楕円形	32×27	8	弥
31	円形	42×40	23	弥	83	楕円形	59×45	11	弥
32	楕円形	46×36	7		84	不整形	52×42	15	弥
33	円形	30×28	21	須	85	円形	20×18	7	
34	楕円形	45×35	19	弥	86	不整形	65×50	13	弥
35	楕円形	93×33	20	弥	87	不整形	55×51	14	須・土・弥
36	楕円形	107×36	16, 14, 14, 14	弥	88	楕円形	58×43	10	須・弥
37	隅丸方形	53×50	19	塙・弥	89	円形	52×44	11	
38	楕円形	63×42	19	弥	90	不整形	120×97	11	弥
39	円形	36×32	19	弥	91	不整形	65×65	12	弥
40	円形	54×49	26	弥・石	92	円形	32×27	8	弥
41	隅丸方形	72×68	13	弥	93	円形	27×22	12	
42	円形	43×37	18	弥生	94	円形	67×?	7	
43	楕円形	42×32	7		95	隅丸方形	55×61	17	須・土・弥
44	楕円形	38×27	6		96	円形	36×31	6	
45	円形	30×27	18	弥	97	隅丸方形	42×40	10	弥
46	楕円形	53×30	9		98	楕円形	53×33	11	弥
47	円形	33×27	7		99	楕円形	58×47	11	弥
48	円形	28×27	6		100	円形	20×20	20	
49	楕円形	36×28	13		101	楕円形	46×37	21	
50	?	35×9	10	弥	102	隅丸方形	73×73	27, 25	弥
51	隅丸方形	93×51	23	須・弥・石	103	円形	56×53	16	弥
52	楕円形	66×57	13	上?・塙・弥・石	104	円形	32×28	17	弥

ビット	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	ビット	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	出土遺物
105	円形	53×53	10	弁	172	不整形	44×34	12	
106	円形	42×40	16	須・土・弥	173	円形	48×40	15	
107	円形	45×40	17	須・弥	174	不整形	46×38	18	弁
108	不整形	37×32	23	弥	175	不整形	58×40	17	
109	円形	46×43	13	須・土・弥	176	円形	30×26	4	
110	円形	33×23	20	弁	178	円形	34×32	14	
111	円形	52×49	18	上・弁	180	円形	28×26	11	
112	隅丸方形	51×49	12	塙・弥	182	円形	28×26	8	
113	楕円形	67×43	16	須・土・弥	183	円形	68×62	21	弁
114	楕円形	58×42	13	弥	184	楕円形	68×51	19	弥
115	不整形	32×27	7		185	不整形	50×42	15	弥
116	円形	38×33	10	弥	186	楕円形	100×40	17	弁
117	円形	38×36	18	上・塙・弁	187	隅丸方形	78×64	15	弁
118	不整形	46×36	17		188	円形	22×20	8	
119	楕円形	62×45	17	弥	189	楕円形	50×42	20	弁
120	楕円形	56×35	16		192	楕円形	62×52	25	弁
121	円形	33×32	15	須・土・弥	193	円形	38×38	12	弁
122	円形	42×39	26		194	不整形	40×40	19	
123	楕円形	55×38	17	弥	195	楕円形	45×35	19	弁
124	隅丸方形	50×43	22		197	隅丸方形	67×64	24	弁
125	隅丸方形	35×32	19	弥	198	円形	38×32	22	弥
126	楕円形	36×33	18	弥	199	円形	33×32	19	
127	楕円形	39×33	?	土	200	円形	33×26	20	
128	円形	33×28	13		201	隅丸方形	54×52	23	弁
129	円形	46×46	22	弥	202	円形	38×38	17	弁
130	楕円形	86×46	23	弥	203	円形	53×46	14	弁
131	円形	40×?	30	弥	204	円形	43×37	22	弁
132	隅丸方形	37×36	12	須・土・弥	205	楕円形	35×23	15	
133	円形	55×53	12	弥	206	隅丸方形	82×54	21	
134	円形	40×36	31	上・弁	207	円形	40×34	19	
135	隅丸方形	43×33	25	須・土・弥	208	円形	26×25	11	
136	円形	21×16	19		209	不整形	84×43	17	弁
137	円形	40×40	19		211	円形	45×43	17	弁
138	円形	52×48	19		212	楕円形	53×34	18	
139	隅丸方形	66×52	22	弥・石	214	円形	78×67	20	
140	楕円形	84×50	15	弥	215	円形	56×46	20	石
142	円形	32×32	13		216	円形	86×73	9	
143	円形	72×46	17	須・弥	218	不整形	54×46	13	弁
144	円形	36×34	8		219	隅丸方形	44×38	16	弁
145	楕円形	26×20	11		220	楕円形	72×38	10	弁
148	円形	30×26	12		221	円形	42×40	18	弁
149	円形	26×20	9	弥	222	隅丸方形	62×52	13	石
150	隅丸方形	50×36	9		223	隅丸方形	72×66	10	弥
151	円形	38×32	11	弥	224	不整形	90×72	15	弁
152	楕円形	38×22	10		225	楕円形	46×34	16	弁・骨
153	円形	26×22	6		226	円形	40×38	18	骨
157	?	30×28	16		227	楕円形	46×34	15	石
159	不整形	80×58	22	弥	229	楕円形	62×52	22	弥
162	?	28×22	13		230	円形	32×28	17	
164	円形	36×36	13	弁	232	円形	24×22	14	
165	円形	40×34	21		233	円形	30×26	14	
170	円形	38×36	12	弥	234	楕円形	62×40	16	弁
171	楕円形	52×44	17	弥・石	235	円形	32×32	12	

出土遺物：須・須恵器、十一・土器、塙・製塙土器、弥・弥生土器、石・石器、骨・動物遺体

IV. 出土遺物

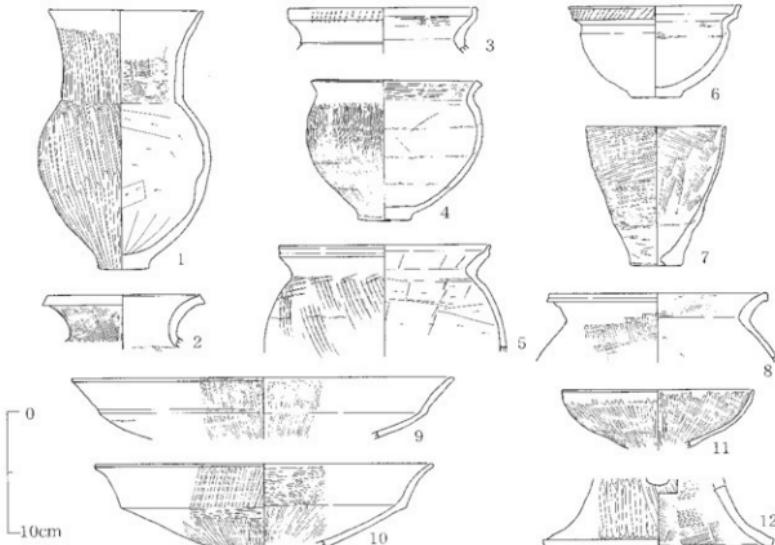
今回の調査で出土した遺物は、調査面積（767坪）に比して非常に多く、コンテナ約200個になる。遺物は遺構出土品もあるが、大半は溝である。

出土土器の器種として、壺は広口壺・長頸壺・短頸壺・無頸壺・台付無頸壺・ミニチュア壺・壺蓋、甕は大型甕・中型甕・小型甕・ミニチュア甕、鉢は大型鉢・小型鉢・高杯、器台などが見られる。これらはさらに、器形・文様・製作手法などの特徴からいくつかの型式に分けられる。以下において器種ごとに各型式の特徴を記述する。胎土においては、肉眼および顕微鏡での角閃石が確認できたものを河内産とし、以下において角閃石を含まない場合のみ他地域産と記す事とする。また溝100においては、弥生時代後期にあたる畿内第V様式に属す土器であるが、混入品が一部認められる。

1) 土器

試掘調査出土土器（第13図 1～12 図版19・20）

弥生時代後期に属す。1は長頸壺。平底から無花果形に近い体部に、直立気味の頸部からなだらかに外反する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。調整は内面頸部ハケメ（11/1.5cm）、体部ヘラケズリ、底部には工具痕が見られ、外面ハケメ（同原体）後密なヘラミガキが施される。外面に黒斑あり。口径12.4cm、器高21.4cm、底径4.3cm、体部最大径14.1cm。色調はにぶい橙色（5YR6/4）・にぶい黄橙色（10YR7/2）を呈する。2は広口壺。外弯する口頸部、口縁端部はわずかに上下に肥厚する。調整は内外面共頸部に同原体によるハケメ（8/cm）が施される。体部内面に黒斑あり。口径12.4cm、色調は内面にぶい黄橙色（10YR6/4）、外面にぶい褐色（7.5YR6/3）を呈する。3は広口壺。外傾する頸部に、上方に短く立ち上がる口縁部、口縁端部は面をもつ。調整は内面横方向のハケメ（8/cm）、外面口縁部にはクシ状工具（3/0.9cm）による刺突文、口頸部境に1条の沈線が施される。口径15.2cm。色



第13図 試掘調査出土土器実測図

調は内面灰白色（2.5Y8/2）、外面浅黄褐色（10YR8/3）を呈する。4・5・8は甕。4は球形の体部から外傾する短い口縁部、口縁端部は面をもっておわる。調整は内面口縁部・外面体部にハケメ（8/cm）、内面体部には粗い板状工具によるナデが施される。外面煤付着。口径13.0cm、器高11.5cm、底径4.4cm。色調は内面にぶい黄褐色（10YR6/3）、外面にぶい赤褐色（5YR5/4）を呈する。5はなで肩の体部から「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は上方につまみあげ尖り氣味におわる。調整は内面ヘラケズリ、外面にはタタキメ後ハケメ（3/cm）が施される。口径17.2cm。色調は内面黄灰色（2.5Y5/1）、外面橙色（7.5YR6/6）を呈する。8は「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は面をもち下方にわずかにつまみ出される。調整は内面口縁部ハケメ（6/cm）、体部ヘラケズリ、外面にはタタキメ後ハケメ（同原体）が施される。口径17.6cm。色調は橙色（7.5YR6/6）を呈する。6・7は鉢。6は橢形の体部から外反する口縁部、口縁端部は上方にのび、面をもち終わる。調整は内面ハケメのちナデ、外面口縁部にはクシ状工具（8/cm）による刺突文が施される。口径14.0cm、器高7.5cm、底径3.8cm。体部最大径12.2cm。色調は内にぶい褐色（7.5YR5/4）を呈する。7は内傾しながら直線的に口縁部までのびる。調整は内面ハケメ（8/1.8cm）、外面タタキメ、底部には焼成前の穿孔が施される。口径11.4cm、器高11.4cm、底径4.0cm。色調は内面にぶい赤褐色（5YR5/4）、外面橙色（5YR6/6）を呈する。9～11は高杯。9・10は杯部に稜をもち、さらに大きくひらく口縁部をもつ。調整は内外面共ジグザグ状のヘラミガキが施される。9は口径31.0cm。色調は内面にぶい黄褐色（10YR6/4）、外面にぶい橙色（7.5YR6/4）を呈する。10は口径27.4cm。色調は内にぶい褐色（7.5YR5/4）を呈する。11は橢形の杯部をもつ。調整は内外面共密なヘラミガキが施される。口径15.4cm。色調は内面にぶい黄褐色（10YR5/3）、外面にぶい黄褐色（10YR6/3）を呈する。12は脚台。高杯の脚部と思われるが定かではない。ラッパ状にひらく唇部をもつ。調整は内面ハケメ（3/cm）、外面ハケメ（同原体）後ヘラミガキが施され、脚柱部に円孔を穿つ。唇部径18.5cm。色調は橙色（7.5YR7/6）を呈する。

溝100出土土器（第14～39図 図版20～79）

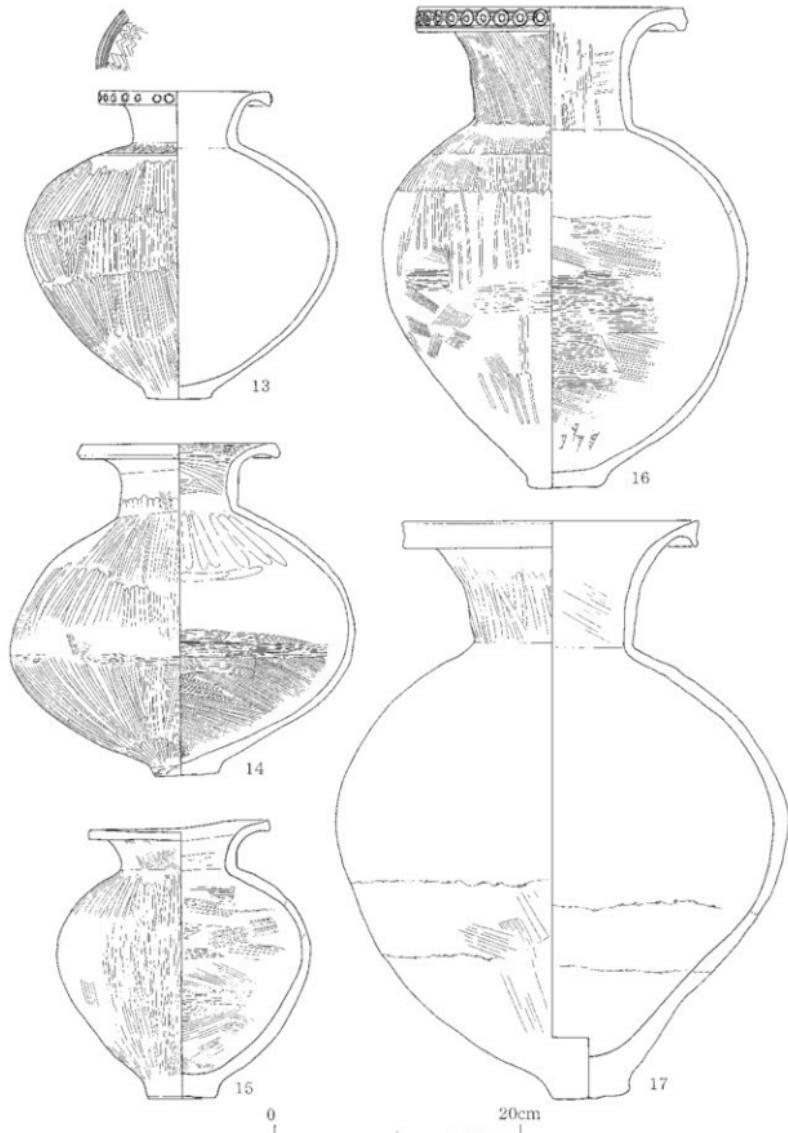
出土土器の器種としては、広口壺・無頸壺・小形壺・短頸壺・長頸壺・台付直口壺・甕・台付甕・高杯・鉢・器台・壺蓋・甕蓋・把手付コップ形土器・ミニチュア土器などがある。器形・文様・製作手法などの特徴からいくつかの型式に分けられる。以下、器種ごとに各型式の特徴を記述する。

広口壺（第14～18図 図版20～28）

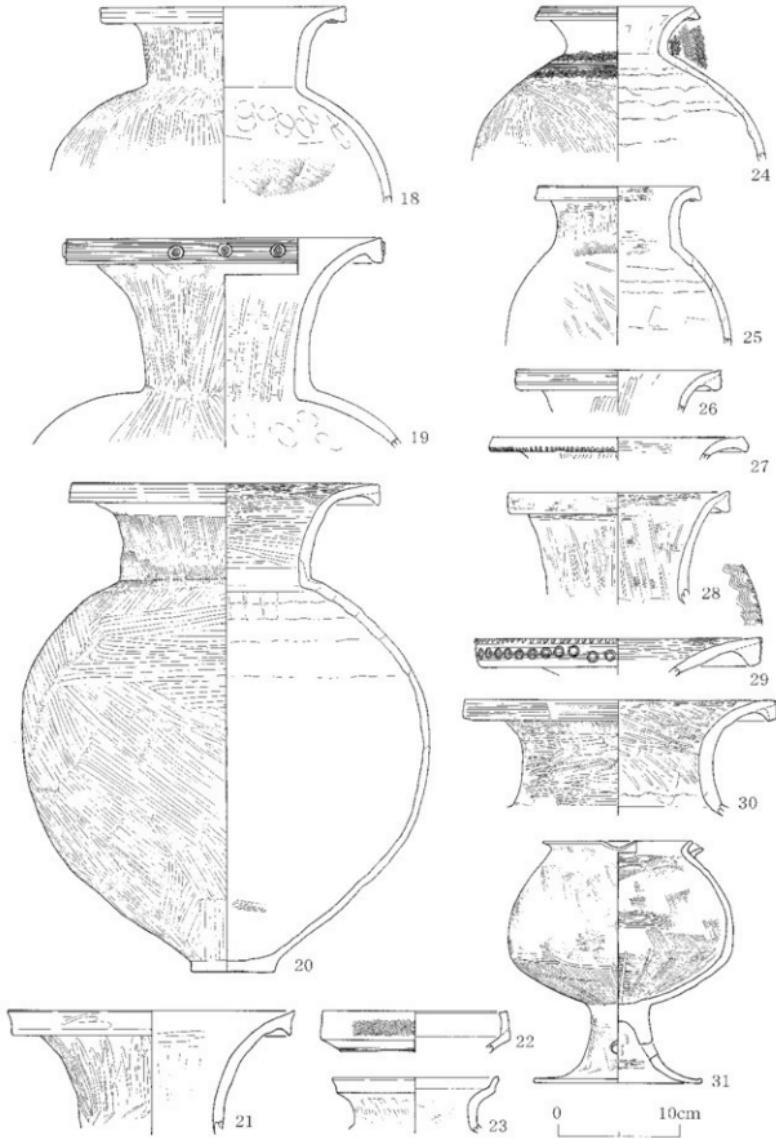
口縁部の形態から、下方に拡張するもの（広口壺A）、頸部から口縁部にかけて「S」字状になだらかに外弯するもの（広口壺B）、無花果形の体部から屈曲して大きく外弯する口頸部、口縁端部はわずかに肥厚するもの（広口壺C）、直立する頸部から屈曲して口縁部は外折するもの（広口壺D）、直線的に外方にのびる頸部、口縁部は内弯するもの（広口壺E）がある。

広口壺A（第14～16図 16・17・19～21・24～30・32～39 図版20～23）

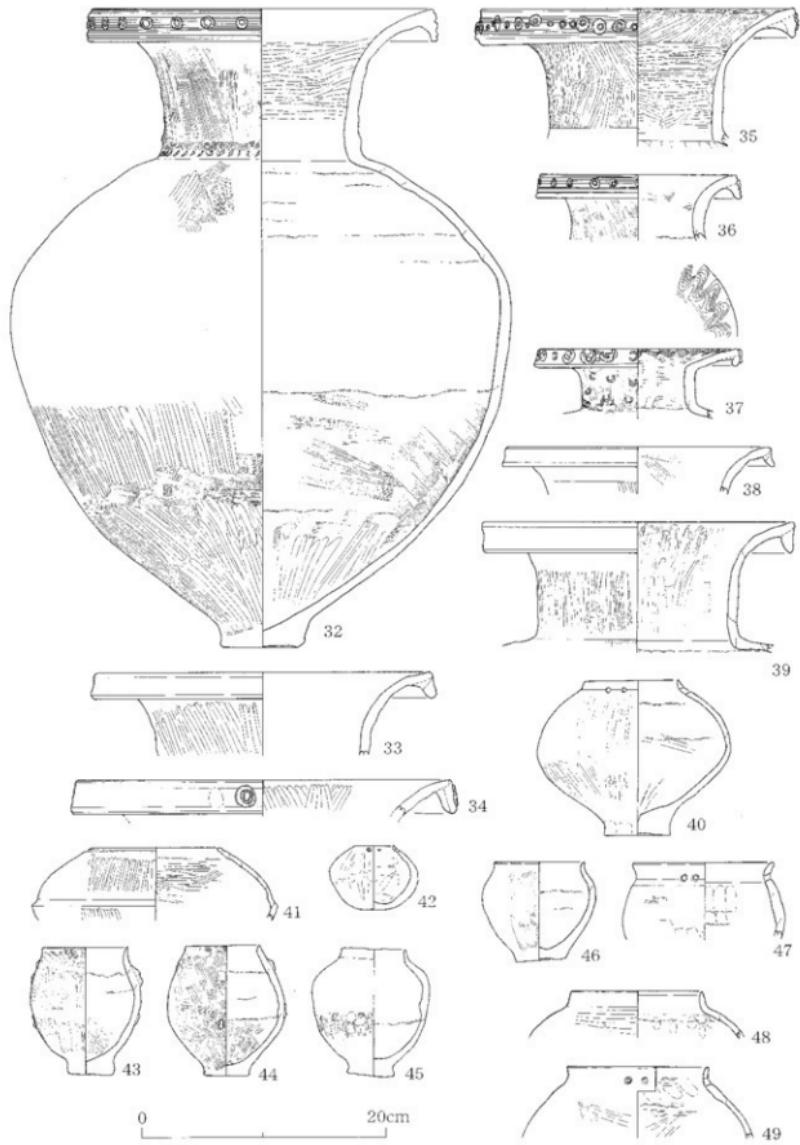
球形にちかい体部に、短く直立した頸部から、外反する口縁部、口縁端部は下方に拡張する形態の壺。16・17・19・20は大形に属す壺。16の調整は内外面共ハケメ（10/cm）後ヘラミガキ、口縁部端面には3条の凹線文と円形竹管文が施される。口径21.6cm、器高39.3cm、底径5.7cm、体部最大径29.7cm。色調は内面にぶい褐色（7.5YR5/3）、外面にぶい橙色（5YR6/3）を呈する。17の調整は一部に板状工具によるナデとヘラミガキが見られるが、風化のため詳細不明。口径24.2cm、器高47.4cm、底径6.2cm、体部最大径36.7cm。色調は橙色（5YR6/6）を呈する。19の調整は内外面共ハケメ（5/cm）後ヘラミガキ、口縁部端面には5条の凹線文と円形浮文に竹管文が施される。口径25.5cm。色調は橙色（5YR6/



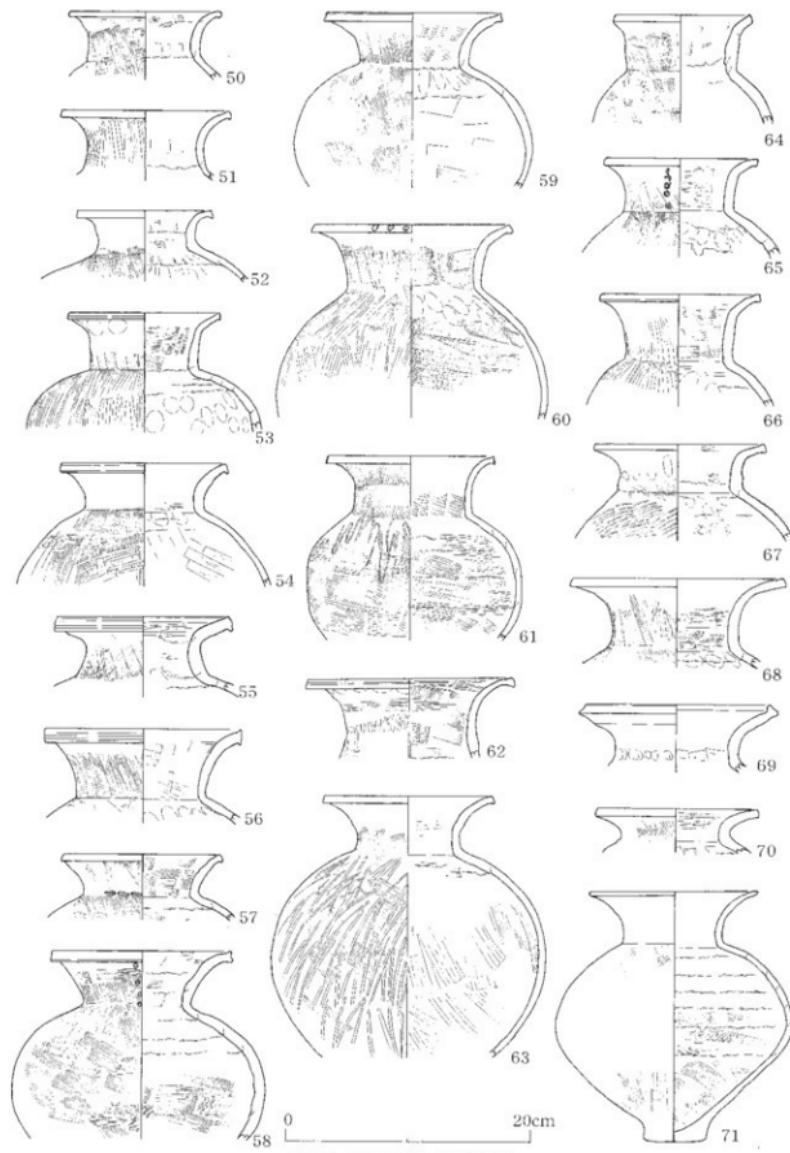
第14図 满100出土土器実測図



第15図 溝100出土土器実測図



第16図 満100出土上器実測図

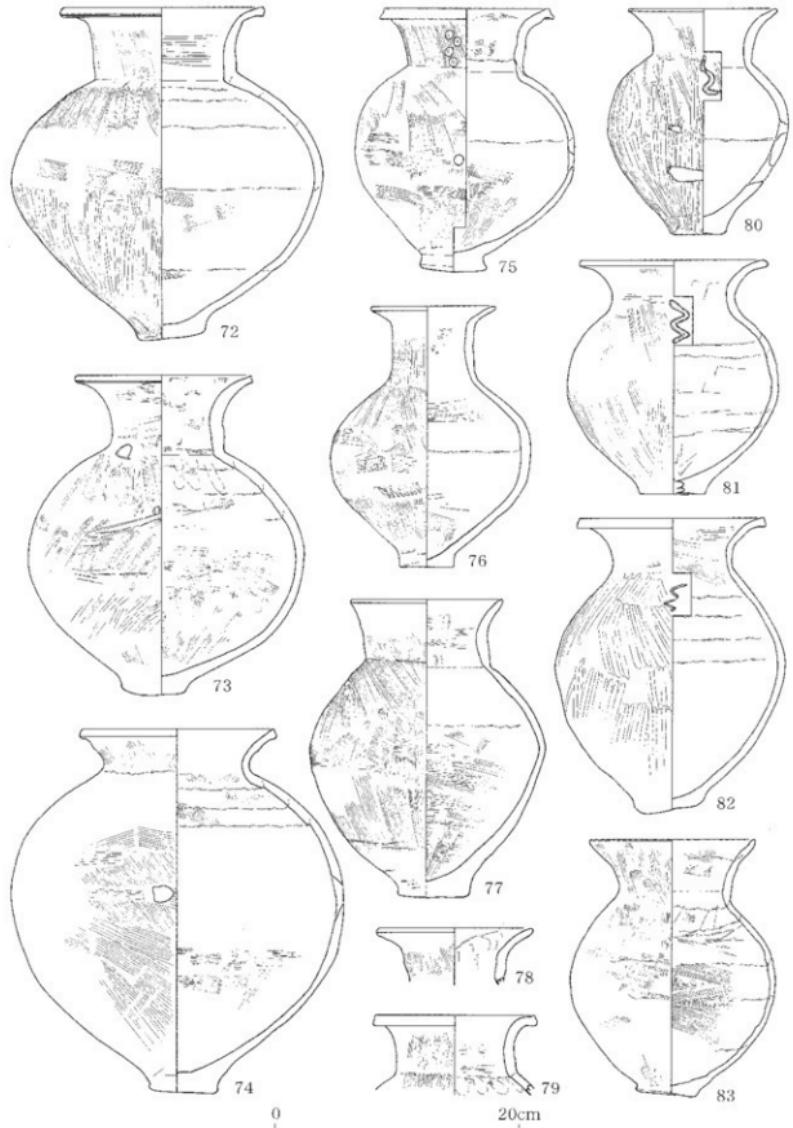


第17図 溝100出土土器実測図

6)を呈する。20の調整は内面口頭部・外面体部へラミガキ、外面頭部にはハケメ(10/cm)が施される。外面肩部のヘラミガキは分割性をもつ。口径25.1cm、器高40.0cm、底径6.5cm、体部最大径33.2cm。色調は内面灰黄色(2.5Y6/2)、外面にぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。21の調整は内面著しい磨減のため詳細不明、外面にはヘラミガキが施される。口径23.2cm。色調は内面にぶい赤褐色(5YR5/4)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。24はやや口頭部が短い。調整は内面頭部工具痕、外面にはヘラミガキ後肩部に2帯の櫛描波状文(5/0.8cm)と直線文(同原体)、口縁部端面にはクシ状工具による沈線文(3/0.8cm)が施される。口径12.4cm。色調は内面灰黄色(2.5Y6/2)、外面褐色(7.5YR4/6)を呈する。25は短い口縁部。調整は内外面共ハケメ(9/cm)後外面へラミガキが施される。口径12.8cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/6)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。26の調整は内外面共ヘラミガキ、口縁部端面には2条の凹線文が施される。口径16.6cm。色調は内面褐色(10YR4/4)、外面灰黃褐色(10YR4/2)を呈する。27の調整は内外面共ハケメ(4/cm)、口縁部端面下方にはキザミメが施される。口径20.2cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。28の調整は内外面共ハケメ(8/cm)後へラミガキ、口縁部端面にも同原体によるハケメが施される。口径17.8cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。29は器台の可能性もあり。調整は内面ハケメ、外面工具痕、口縁部端面には4条の凹線文と円形浮文に竹管文、口縁部端面上方にキザミメ、内面口縁部には櫛描波状文が施される。外面に赤色顔料による朱と黒斑あり。口径23.2cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。30の調整は内外面共ハケメ(10/cm)後へラミガキ、内面頭部下半に一部ヘラケズリ、口縁部端面にも同原体によるハケメが施される。口径25.2cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR6/4)、外面褐色(7.5YR4/6)を呈する。32は口体部と底部に接合面は見られなかったが、同一個体と思われる。調整は内面と外面体部ハケメ(15/1.5cm)後へラミガキ、外面頭部に同原体によるハケメ、頭体部境にはヘラによるキザミメ、口縁部端面に4条の凹線文と円形竹管文が施される。口径27.4cm。色調は内面口頭部明赤褐色(5YR5/6)、体部上半暗灰黃色(2.5Y4/2)、体部下半オリーブ黄色(5Y6/3)、外面橙色(5YR6/8)・灰黃褐色(10YR5/2)を呈する。33の調整は内面著しい磨減のため詳細不明、外面にはヘラミガキが施される。口径27.0cm。色調は内面暗灰黄色(2.5Y5/2)、外面黄褐色(10YR5/8)を呈する。34の調整は内面へラミガキ、口縁部端面には円形浮文に竹管による押捺が施される。口径30.4cm。色調は橙色(7.5YR6/8)を呈する。35の調整は内外面共へラミガキ、口縁部端面には2条の凹線文と円形浮文に竹管文が施される。内面に黒斑あり。口径25.2cm。色調は内外面共明褐色(7.5YR5/6)を呈する。36の調整は内外面共ハケメ(7/cm)、口縁部端面には4条の凹線文と円形浮文に竹管文が施される。口径15.8cm。色調にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。37の調整は内外面共ハケメ(5/cm)、内面口縁部櫛描波状文(8/1.1cm)、外面頭部には無数のU字形竹管文、口縁部端面にはU字形竹管文とその上からさらに円形浮文にU字形竹管文が施される。口径16.0cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。38の調整は内外面共へラミガキが施される。口径21.2cm。色調は内面灰灰色(2.5Y5/1)・にぶい橙色(5YR6/4)、外面橙色(7.5YR7/6)を呈する。39の調整は内外面共ハケメ後へラミガキが施される。口径25.0cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/8)、外面灰黃褐色(10YR5/2)を呈する。

広口壺B (第17~18図 70・74・80~83 図版25・27・28)

球形にちかい体部に、短くなどらかに外弯した口縁部、口縁部端面に文様をもつものはあるが、端部は拡張しない形態の壺。70の調整は内面口縁部へラミガキ、内面体部と外面にはハケメ(6/cm)が施される。口径13.0cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。74の調整は内外面共ハケメ(7/cm)



第18図 溝100出土上器実測図

が施される。体部最大径部位に1ヶ所の円孔を穿つ。口径15.4cm、器高30.0cm、底径5.6cm、体部最大径27.0cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。80~82は肩部に「W」の字形を横向きにしたようなヘラによる記号がつく。80の調整は内面ナデ、外面にはハケメ(6/cm)後ヘラミガキが施される。体部下半部に大・小形2ヶ所の円孔を穿つ。口径12.0cm、器高18.5cm、底径4.6cm、体部最大径14.7cm。完形。色調明赤褐色(5YR5/6)を呈する。81の調整は内面工具痕、外面にはクシ状工具によるナデが施される。口径14.8cm、器高19.3cm、底径5.4cm、体部最大径17.7cm。色調はにぶい橙色(5YR6/4)を呈する。82の調整は内面ハケメ(4/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径15.0cm、器高24.4cm、底径4.1cm、体部最大径18.7cm。色調は内面黒褐色(10YR3/1)、外面にぶい黄橙色(10YR7/3)を呈する。83の調整は内外面共ハケメ(10/cm)が施される。口径13.3cm、器高21.1cm、底径4.5cm、体部最大径16.7cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR6/4)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。

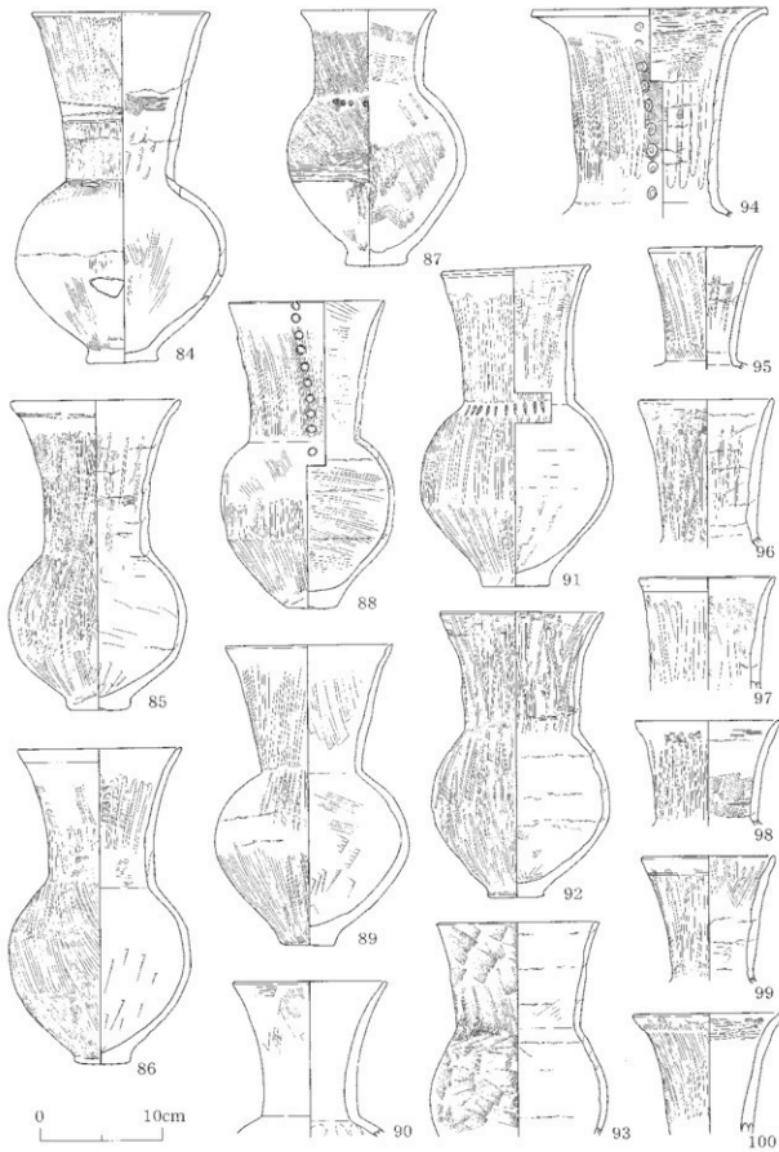
広口壺C (第14~17図 13・56~58・71 図版23~25)

や偏平な無花果形の体部に、ラッパ状にひらく口頸部、口縁端部はわずかに拡張する形態の壺。13の調整は内面ナデ、外面体部にはヘラミガキが施される。内面口縁部櫛描波状文、外面頭部体部境同原体による波状文・直線文(4/1.2cm)が見られる。口径13.9cm、器高25.3cm、底径5.4cm、体部最大径25.5cm。色調は内面にぶい赤褐色(5YR5/4)、外面にぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。56の調整は内外面共にハケメ(12/cm)が施され、口縁部端面にはクシ状工具による4条の沈線文が見られる。口径16.0cm。色調は内面にぶい赤褐色(5Y5/4)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。57の調整は内外面共ハケメ(12/cm)が施され、頭部体部に一部ヘラ状工具による刺突文が見られる。口径12.5cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。58の調整は内外面共ハケメ(10/cm)が施され、外面頭部には縦一列に円形竹管文が見られる。口径14.4cm、体部最大径20.6cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR6/4)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。71の調整は内外面共ハケメが施されるが摩滅のため詳細不明。口径13.2cm、器高20.5cm、底径5.1cm、体部最大径19.1cm。色調は内面褐灰色(7.5YR5/1)、外面にぶい橙色(5YR7/3)を呈する。

広口壺D(第14~15・17~18図 14・15・18~50~55~59~69~72~73~75~76~78~79 図版22~23・25~26)

直立する頸部から、口縁部は屈曲して外反する。口縁部端面に文様をもつものはあるが、端部は拡張しない形態の壺。14の体部は偏平な球形をもつ。調整は内外面共ハケメ(6/cm)後ヘラミガキが施される。口径15.8cm、器高27.3cm、底径5.1cm、体部最大径27.9cm。色調は明褐色(7.5YR5/6)を呈する。15の体部はほぼ球形をもち、中央部が上げ底気味の底部をもつ。調整は内面頸部ヘラケズリ、体部ハケメ(8/cm)、外面頸部同原体によるハケメ、体部にはヘラミガキが施される。口径14.4cm、器高22.8cm、底径5.2cm、体部最大径20.6cm。完形。色調はにぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。18の調整は内面ハケメ(14/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径20.0cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。50の口縁端部は丸味をもつ。調整は内面ハケメ(10/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径12.1cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。51の口縁端部は下方につまみ出す。調整は内面工具痕、外面にはハケメ(8/cm)後ヘラミガキが施される。口径13.4cm。色調は内面黄褐色(2.5Y5/3)、外面褐灰色(5YR4/1)を呈する。52の口縁端部は下方につまみ出す。調整は内外面共ハケメ(9/cm)が施され、内面肩部にシボリメが見られる。黒底あり。口径10.8cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。53の

口縁端部は下方につまみ出す。調整は内面頭部ハケメ(6/cm)、体部ナデ、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。内面に黒斑あり。口径12.2cm。色調は内面暗灰色(N3/)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。54の口縁端部は下方につまみ出す。調整は内面ハケメ(9/cm)、外面にはタタキ(3/cm)後ハケメ(同原体)が施される。口径13.4cm。色調は褐色(7.5YR4/4)を呈する。55の口縁部端面に2条の凹線文、口縁部下端を下方につまみ出す。調整は内面口縁部ヘラミガキ、頭部ハケメ(9/cm)、外面には同原体のハケメが施される。口径14.0cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。59の調整は内外面共ハケメ(7/cm)が施される。口径14.0cm、体部最大径19.4cm。色調にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。60の口縁部端面に円形竹管文が見られ、口縁端部を下方につまみ出す。調整は内面ハケメ(5/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される口径15.5cm。体部最大径22.4cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。61の外面肩部に暗文状の波状文、口縁部端面にはクシ状工具による沈線文が見られ、口縁端部を下方につまみ出す。調整は内外面共ハケメ(5/cm)が施される。口径13.2cm、体部最大径17.4cm。色調は内面橙色(7.5YR6/6)、外面明褐色(7.5YR5/6)を呈する。62の口縁端部は下方につまみ出す。調整は内外面共ハケメ(10/cm)後内面口縁部にはヘラミガキが施される。口径16.6cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/4)を呈する。63の口縁端部はわずか下方につまみ出す。調整は内面ハケメ(3/cm)、外面にはハケメ(7/cm)後ヘラミガキが施される。口径13.6cm、体部最大径22.4cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。64は直立する頭部から短い口縁部をもつ。調整は内外面共ハケメ(7/cm)が施される。口径10.8cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。65の外面頭部に縦一列に円形竹管文が見られる。調整は内面頭部・外面ハケメ(8/cm)、内面体部にはナデが施される。口径12.4cm。色調はにぶい黄橙色(10YR5/4)を呈する。66の調整は内面板状工具によるナデ、外面部には同工具によるナデ後ヘラミガキが施される。口径12.8cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。67の調整は内面ハケメ(11/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(4/cm)が施される。口径13.6cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。68の調整は内外面共ハケメ(6/cm)が施される。口径17.0cm。色調は内面褐色(7.5YR4/6)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。69の口縁端部は上方につまみ出す。調整は内面頭部ヘラケズリ、外面頭部にはユビ圧痕が施される。口径14.6cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。72の口縁部端面に1条の沈線が見られる。調整は内面頭部ヘラミガキ・体部ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径16.2cm、器高27.4cm、底径5.3cm、体部最大径25.3cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR6/3)、外面にぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。73の外面肩部にヘラによる円形文、体部最大径部位に円形文と2条の直線文が見られる。調整は内外面共ハケメ(10/cm)が施される。口径14.1cm、器高26.4cm、底径5.3cm、体部最大径22.4cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。75の外面頭部に4個の円形竹管文、体部最大径部位に円孔を穿つ。口縁端部は下方につまみ出す。調整は内外面共ハケメ(11/cm)が施される。口径13.4cm、器高21.6cm、底径5.3cm、体部最大径17.8cm。完形。色調は内面淡橙色(5YR8/4)、外面淡橙色(5YR8/4)を呈する。76の口縁端部は丸くおさめる。調整は内外面共ハケメ(6/cm)が施される。口径10cm、器高21.5cm、底径4.4cm、体部最大径16.3cm。色調は内面灰褐色(5YR5/2)、外面にぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。78の内面口縁部に半円状のヘラによる線刻が見られる。口縁端部は丸くおさめる。調整は内外面共ハケメ(10cm)が施される。口径12.4cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/6)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。79の調整は内面ハケメ、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径13.0cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。



第19図 溝100出土土器尖測図

広口壺E（第18・20図 22・23・109 図版20・39）

外方に聞く頸部から、屈曲して内弯気味に立ち上がる口縁部をもつ形態の壺。22の外面口縁部に柳描波状文（原体11/1.2cm）、頸部には同原体による柳描直線文が見られる。口縁部端面は上方に面をもつ。調整は内外面共ナデが施される。外面に黒斑あり。口径14.8cm。色調は内面にぶい黄褐色（10YR5/4）、外面明褐色（7.5YR5/6）を呈する。23の口縁部端面は丸くおさめる。調整は内外面共ハケ状工具によるナデが施される。口径13.4cm。色調はにぶい褐色（7.5YR5/4）を呈する。109は広口壺に属すかどうか困難な形態。調整は内外面共にハケメ（5/cm）が施される。口径11.6cm、器高23.9cm、底径5.0cm、体部最大径17.9cm。完形。色調はにぶい黄橙（10YR5/4）を呈する。

無頸壺A（第16図 40・46～49 図版27・28）

球形の体部から口縁部をもつ形態の壺。40は扁平な球体から、わずかに上方に直口する口縁部。口縁端部は尖り気味におわる。口頸部境に2個1単位の紐孔を穿つ。調整は内面工具によるナデ、外面にはヘラミガキが施される。口径7.5cm、器高12.8cm、底径5.2cm、体部最大径15.7cm。色調は内面にぶい褐色（7.5YR6/3）、外面灰褐色（7.5YR6/2）を呈する。46はなで肩の無花果形の体部に、わずかに立ち上がる口縁部。口縁端部は丸くおさめる。調整は内面ナデ、外面にはハケメ（10/cm）が施される。口径7.4cm、器高8.3cm、底径3.8cm、体部最大径9.3cm。色調はにぶい橙色（5YR6/4）を呈する。小形壺に属すとも考えられる。47はなで肩の体部から、短く外反する口縁部。口縁端部はやや丸みをもつ。口頸部境に2個1単位の紐孔を穿つ。調整は内外面共磨滅のため詳細不明。口径11.2cm、色調は内面暗灰黄色（2.5Y5/2）、外面灰黃褐色（10YR5/2）を呈する。48は肩の張る体部に、直口する口縁部。口縁端部はやや尖り気味におわる。調整は内面ナデ、外面にはヘラミガキが施される。口径10.4cm。色調は橙色（7.5YR6/6）を呈する。49はなで肩の体部に、直口する口縁部。口縁端部は上方に面をもつ。口頸部境に2個1単位の紐孔を穿つ。調整は内面ハケメ（7/cm）、外面にはハケメ（同原体）後ヘラミガキが施される。外面に黒斑あり。口径11.4cm。色調はにぶい黄褐色（10YR5/3）を呈する。

無頸壺B（第16図 41・42 図版27）

球形の体部から、そのまま上端を口縁とする形態の壺。41は台付無頸壺。脚部は欠失。体部最大径部位に凸帯状の段をもつ体部から、口縁端部は丸くおさめる。調整は内外面共ヘラミガキが施される。口径10.4cm、体部最大径20.0cm。色調は内面暗灰黄色（2.5Y4/2）、外面黒褐色（2.5Y3/2）を呈する。42は丸底から、口縁端部は尖り気味におわる。口縁端部に2個1単位の紐孔を穿つ。調整は内面ナデ、外面にはヘラミガキが施される。口径3.1cm、器高5.2cm。完形。色調はにぶい褐色（7.5YR6/3）を呈する。

小形壺（第16図 43～45 図版28）

43は双耳の把手をもつ小形の直口壺。把手は痕跡を残すにとどまる。平底から内弯しながら立ち上がる体部に、口縁部は直口する。口縁端部は尖り気味におわる。調整は内外面共ハケメ（8/cm）が施される。口径7.0cm、器高10.4cm、底径3.7cm、体部最大径9.0cm。色調は褐灰色（7.5YR6/1）を呈する。44は把手付壺。把手は痕跡を残すにとどまる。平底から内弯しながら立ち上がる体部に、口縁端部内側に面をもつ。調整は内外面共ハケメ（5/cm）が施される。口径6.0cm、器高10.8cm、底径3.4cm、体部最大径9.6cm。色調は内面明褐色（7.5YR5/6）、外面にぶい橙色（7.5YR6/4）を呈する。45は平底か

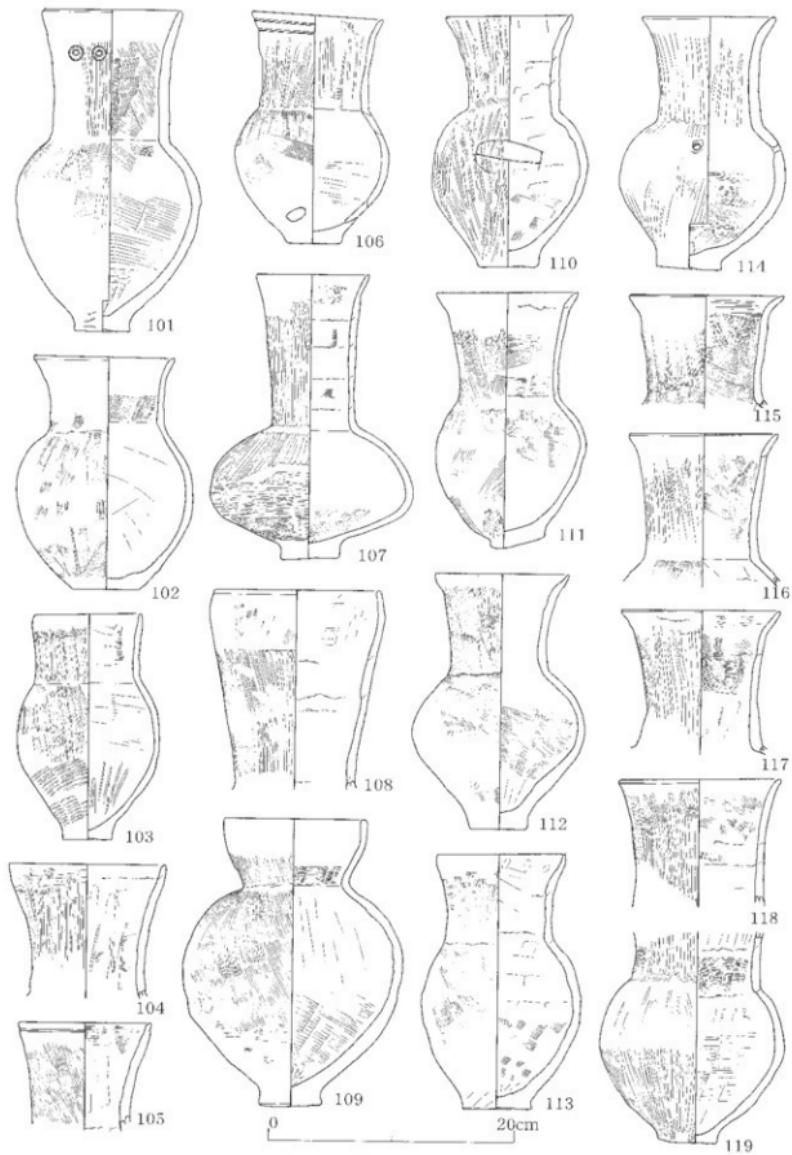
ら内弯しながら立ち上がる体部に、口縁端部は直口する。調整は内面ナデ、外面にはハケメが施される。口径5.0cm、器高10.6cm、底径3.6cm、体部最大径9.3cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。

短頸壺（第18～21図 77・122・123・125・129～131 図版26・35・38・39）

丈高の器体に、直線的に外方に開く口頸部をもつ形態の壺。長頸壺との区別が困難なもの(77・125・129・131)がある。77は短く立ち上がる頸部から、口縁部は外反する。外面底部付近に文様かどうかは定かではないが、工具による線刻状の直線文がめぐる。調整は内外面共ハケメ(9/cm)が施される。口径12.4cm、器高24.5cm、底径5.9cm、体部最大径19.2cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。122は無花果形をもつ体部から、口縁部はわずかに外反する。口縁端部は丸くおさめる。調整は外面にハケメ(6/cm)が見られるが、磨滅のため詳細不明。外面に黒斑あり。口径12.6cm、器高27.6cm、底径5.0cm、体部最大径20.2cm。色調は内面褐灰色(5YR5/1)、外面にぶい橙色(5YR7/4)を呈する。123は外反する口縁部に、口縁端部は丸くおさめる。調整は内外面共ハケメ(6/cm・15/cm)が施される。外面に煤付着。口径12.2cm、体部最大径20.0cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/3)、外面にぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。125の調整は内外面共ハケメ(9/cm)が施される。口径11.6cm、器高16.7cm、底径5.5cm、体部最大径13.0cm。完形。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。129は小形に属す。調整は内外面共ハケメが見られるが、風化のため詳細不明。口径7.2cm、器高11.4cm、底径4.4cm、体部最大径8.1cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。130は丸みをもつ体部から、口縁部は直口する。調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径9.3cm、器高13.4cm、底径4.7cm、体部最大径13.1cm。131の調整は内外面共ハケメ(9/cm)が施される。口径9.6cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。

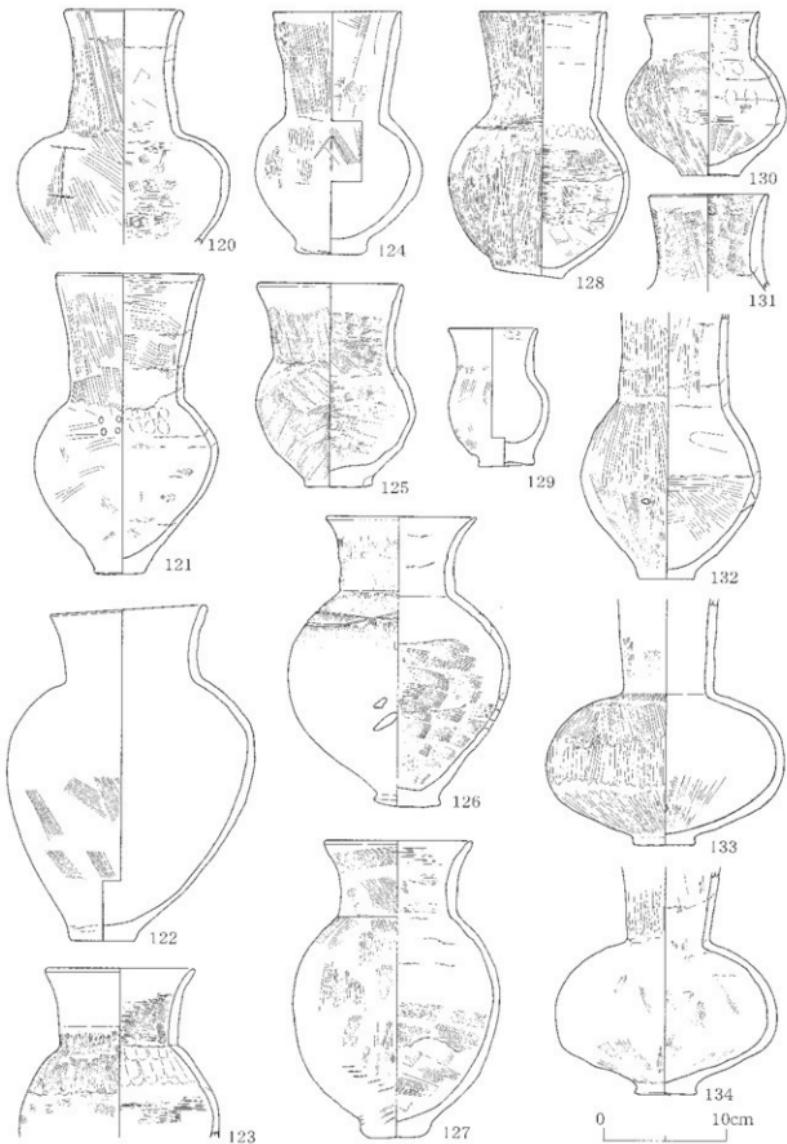
長頸壺（第19～21図 84～108・110～121・124・126～128・132～134 図版29～39）

無花果形または球形に近い体部から、頸部は長く、大きく外弯する口縁部をもつ形態の壺。口頸部が器高の1/2以上のもの(84～86・88・89・91・107・111・114・124)、口頸部が器高のほぼ1/2のもの(92・93・110・112・121・128)、口頸部が器高の1/2以下のもの(87・101～103・106・113・126・127)がある。口縁部の形態から直口する口縁部をもち短頸壺との区別が困難なもの(103)、直線的に外方にのびるもの(93・128)、扁平な球形の体部に、長く直立する頸部から、外反する口縁部をもつもの(107・120・133・134)がある。また、多種多様な記号や文様を施すものが見られる。84は頸部中央に4条のへらによる沈線文、頸体部境・体部最大径部や下に穿孔。調整は内面板状工具によるナデ、外面にはハケメ(5/cm)後ヘラミガキが施される。口径14.4cm、器高28.9cm、底径5.4cm、体部最大径17.8cm。色調は赤褐色(5YR4/8)を呈する。85は口縁部にへらによる沈線文が見られる。調整は内外面共ハケメ(8/cm)後ヘラミガキが施される。外面に黒斑あり。口径13.6cm、器高25.5cm、底径5.0cm、体部最大径14.4cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面にぶい黄橙色(10YR7/4)を呈する。86の調整は内外面共ハケメ(8/cm)後ヘラミガキが施される。口径13.3cm、器高26.0cm、底径4.5cm、体部最大径19.8cm。色調は内面灰黄褐色(10YR6/2)、外面にぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。87の頸体部境に円形竹管文と、体部最大径部位に櫛描直線文風のハケメが見られる。調整は内外面共ハケメ(8/cm)が施される。口径10.7cm、器高21.1cm、底径4.8cm、体部最大径14.5cm。色調はにぶい橙色(5YR6/3)を呈する。88は口頸部に縦一列に円形竹管文が10個見られる。調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。完形。口径12.4cm、器高25.3cm、底径4.0cm、体部最大径14.0cm。色調は内外面共にぶい橙色(7.5YR7/3)を呈する。89の調整は内面板



第20図 溝100出土土器実測図

状工具によるナデ、外面にはハケメ後ヘラミガキが施される。口径13.4cm、器高24.8cm、底径4.4cm、体部最大径15.8cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。90の調整は内面ナデ、外面には工具によるナデが施される。他地城産。口径12.3cm。色調は浅黄橙色(10YR8/3)を呈する。91の頸部部境にヘラによるキザミメが10個見られる。調整は内外面共ハケメ(8/cm)後ヘラミガキが施される。口径11.7cm、器高26.4cm、底径5.5cm、体部最大径15.6cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR7/3)、外面にぶい橙色(10YR7/3)を呈する。92の調整は内外面共ハケメ(9/cm)後ヘラミガキが施される。口径13.2cm、器高23.6cm、底径4.7cm、体部最大径14.5cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。93の体部から頸部はなだらかに移行する。調整は内面ナデ、外面にはハケメ(12/cm)が施される。口径13.4cm。調整は内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面にぶい黄褐色(10YR4/3)を呈する。94は口縁部に縦一列に円形竹管文が9個見られる。調整は内外面共ハケメ(7/cm)後ヘラミガキが施される。口径18.8cm。色調内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。95の調整は内外面共ヘラミガキが施される。口径9.0cm。色調は明赤褐色(5YR5/6)を呈する。96の内面ヘラミガキ、外面にはハケメ(8/cm)後ヘラミガキが施される。口径10.7cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。97の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはヘラミガキが施される。口径10.8cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。98の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径11.6cm。色調は明褐色(7.5YR5/6)を呈する。99は口縁部に1条の沈線文が見られる。調整は内外面共ハケメ(8/cm)後ヘラミガキが施される。口径10.8cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)・褐灰色(10YR5/1)を呈する。100の調整は内外面共ヘラミガキが施される。口径12.2cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。101の口縁部に2個の竹管文が見られる。調整は内外面共ハケメ(4/cm)が施される。口径11.0cm、器高26.6cm、底径4.4cm、体部最大径15.0cm。色調はにぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。102の調整はハケメ(8/cm)が施される。口径11.4cm、器高19.1cm、底径5.2cm、体部最大径14.3cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。103の調整は内面ハケメ(10/cm)・底部放射状のヘラミガキ、外面にはハケメ(同原体)後タキメ(3/cm)が施される。口径8.5cm、器高18.5cm、底径4.0cm、体部最大径11.6cm。色調は内面灰褐色(5YR5/2)・にぶい橙色(5YR6/4)、外面にぶい橙色(2.5YR6/4)を呈する。104の調整は内面板状工具によるナデ、外面にはハケメ後ヘラミガキが施される。口径12.6cm。色調は明褐色(7.5YR5/6)を呈する。105の外面口縁部に1条の沈線状の段が見られる。調整は内外面共ハケメ(12/cm)が施される。口径10.6cm。色調は明褐色(7.5YR5/6)を呈する。106の口縁部に2条の沈線文、体部下位に円孔を穿つ。調整は内外面共ハケメ(8/cm)後ヘラミガキが施される。口径10.5cm、器高19.1cm、底径4.2cm、体部最大径12.5cm。色調は内面にぶい橙色(5YR6/3)、外面にぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。107の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面には密なヘラミガキが施される。口径9.2cm、器高23.5cm、底径4.6cm、体部最大径16.5cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR4/3)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。108の調整は内面ハケメ、外面にはハケメ後ヘラミガキが施される。口径13.4cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。110の体部中央に記号状の線刻が見られる。調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。外面に黒斑あり。口径10.2cm、器高20.7cm、底径5.0cm、体部最大径12.7cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。111の調整は内外面共ハケメ(8/cm)が施される。口径11.5cm、器高21.1cm、底径4.5cm、体部最大径12.3cm。色調は内面灰白色(7.5YR8/2)、外面にぶい橙色(5YR7/4)・褐灰色(10YR5/1)を呈する。112の頸部部境にヘラによる沈線文が見られる。調整は内外面共ハケメ(6/cm)が施される。完形。口径10.8cm、器高21.0cm、底径4.7cm、体部最大径14.2cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈す



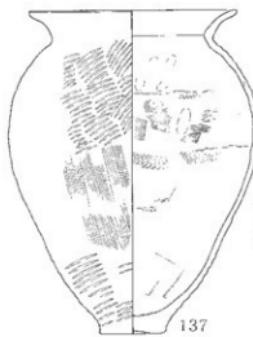
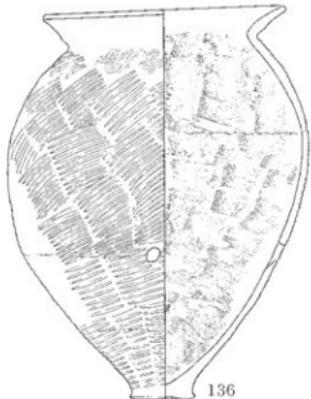
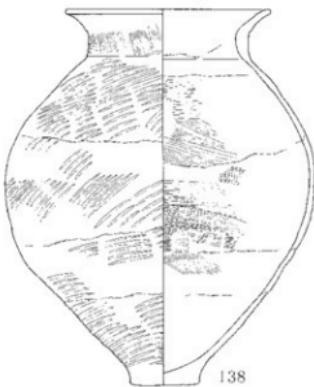
第21図 溝100出土器実測図

る。113の調整は内外面共ハケメ(8/cm)が施される。完形。外面に煤付着。口径10.3cm、器高21.0cm、底径5.7cm、体部最大径13.0cm。色調は内面黄褐色(10YR5/6)、外面にぶい黄橙色(10YR5/4)を呈する。114は肩部に円孔を穿つ。調整は内外面共ハケメ後ヘラミガキが施される。口径10.8cm、器高20.9cm、底径5.1cm、体部最大径13.4cm。色調はにぶい橙色(5YR6/4)を呈する。115の調整は内外面共ハケメ(5/cm)が施される。口径12.4cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。116の調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径11.8cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面灰黄褐色(10YR4/2)を呈する。117の調整は内面ハケメ(10/cm)、外面にはヘラミガキが施される。口径12.6cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。118の調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径13.1cm。色調はにぶい黄色(2.5Y6/3)を呈する。119は口縁部欠失。調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。底径4.4cm、体部最大径14.8cm。色調は褐灰色(7.5YR7/2)を呈する。120の頸部と体部にヘラによる記号文が見られる。調整は内面ハケメ(4/cm)を、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。外面に黒斑あり。口径9.6cm、体部最大径17.0cm。色調は明赤褐色(5YR5/6)を呈する。121の肩部に4個1単位の竹管文が見られる。調整は内面ハケメ(5/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径11.8cm、器高24.7cm、底径4.2cm、体部最大径14.9cm。色調は明褐色(7.5YR5/6)を呈する。124の体部にヘラによる記号文が見られる。調整は内外面共ハケメ(7/cm)が施される。口径10.4cm、器高20.0cm、底径5.9cm、体部最大径13.6cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR7/3)・褐灰色(10YR4/1)、外面にぶい黄橙色(10YR7/3)を呈する。126の肩部にヘラによる沈線文、体部下位に2個の穿孔が見られる。調整は内外面共ハケメ(7/cm)が施される。完形。口径12.2cm、器高23.8cm、底径5.8cm、体部最大径18.0cm。色調は内面明赤褐色(5YR5/8)、外面にぶい橙色(5YR6/4)を呈する。127の調整は内面ハケメ(11/cm)、外面にはタタキメ(3/cm)・ハケメ(同原体)が施される。外面に黒斑あり。完形。口径10.7cm、器高21.1cm、底径4.8cm、体部最大径16.5cm。色調は灰黄褐色(10YR5/2)を呈する。128の調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径10.2cm、器高21.8cm、底径5.5cm、体部最大径14.5cm。色調はにぶい黄橙色(10YR5/3)を呈する。132は口縁部欠失。体部中央に円孔を穿つ。調整は内外面共ハケメ(6/cm)後ヘラミガキが施される。底径4.5cm、体部最大径14.6cm。色調は内面褐灰色(10YR5/1)・にぶい橙色(7.5YR7/4)、外面にぶい橙色(7.5YR7/3)を呈する。133は口縁部欠失。頸部部間にヘラによるキザミメが見られる。調整は内面ハケメ(5/cm)、外面にはハケメのちヘラミガキが施される。底径5.0cm、体部最大径19.3cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。134は口縁部欠失。調整は内面ハケメ、外面にはハケメ後ヘラミガキが施される。外面に黒斑あり。底径5.0cm、体部最大径18.0cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。

筒形鉢(第38図 395 図版78)

395は394とセットになると思われる。長く直立する口縁部に、裾広がりの凸部をもつ。底部は欠失。口縁部に2孔の純孔を2ヶ所穿つ。形態の最も近いものは岡山県の百間川兼基遺跡に類例がある。(『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告51』 岡山県教育委員会 1982年 P89-図407) 外面に赤色顔料(ベンガラ?)を付す。調整は内面ナデ、外面にはハケメ(12/cm)が施される。口径9.0cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/6)を呈する。

壺(第22~29図 135~236 図版40~58)

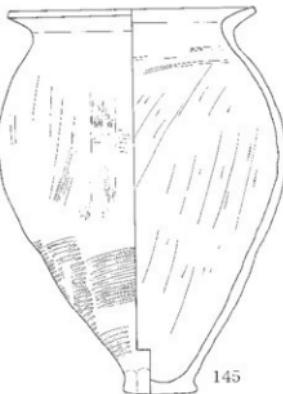


0 10cm

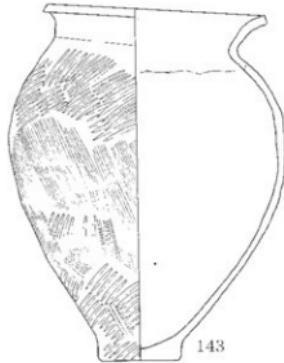
第22図 溝100出土土器実測図



142



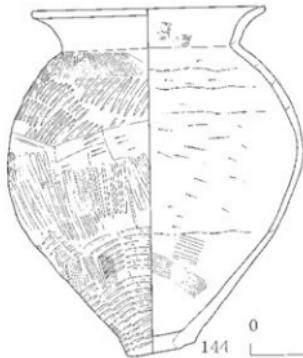
145



143

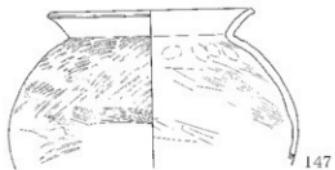


146



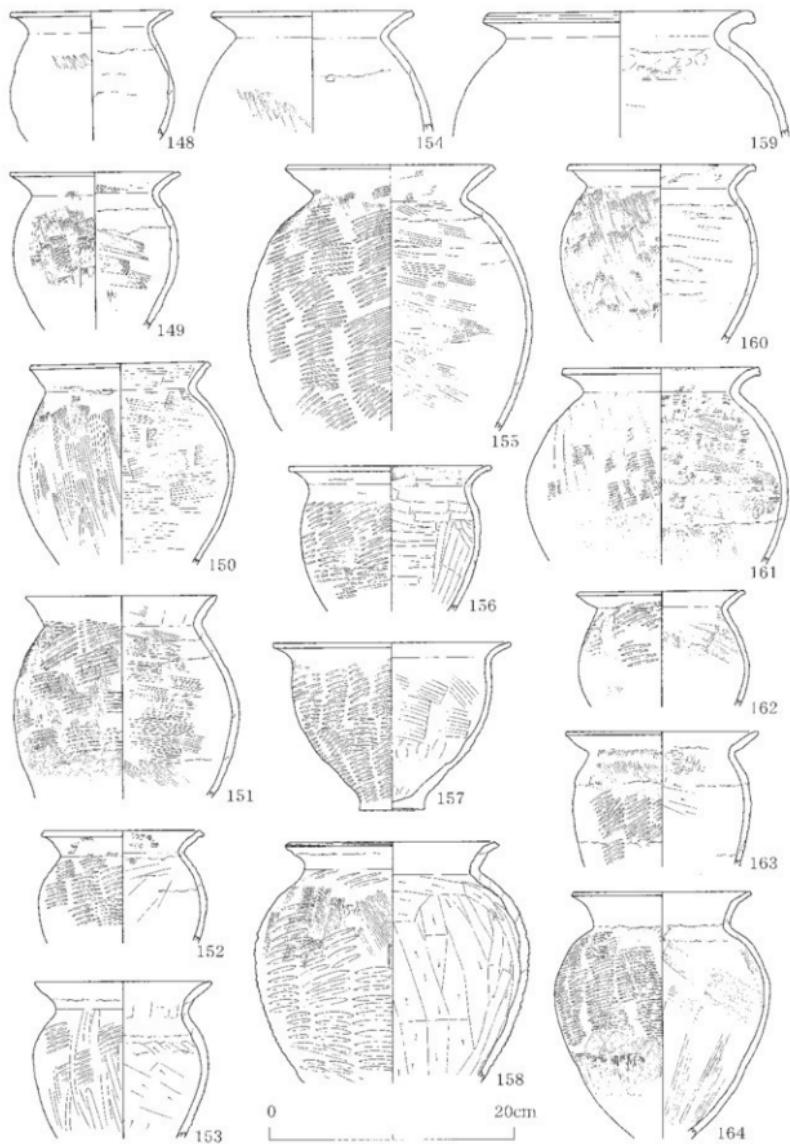
144

0 10cm



147

第23図 満100出土器実測図



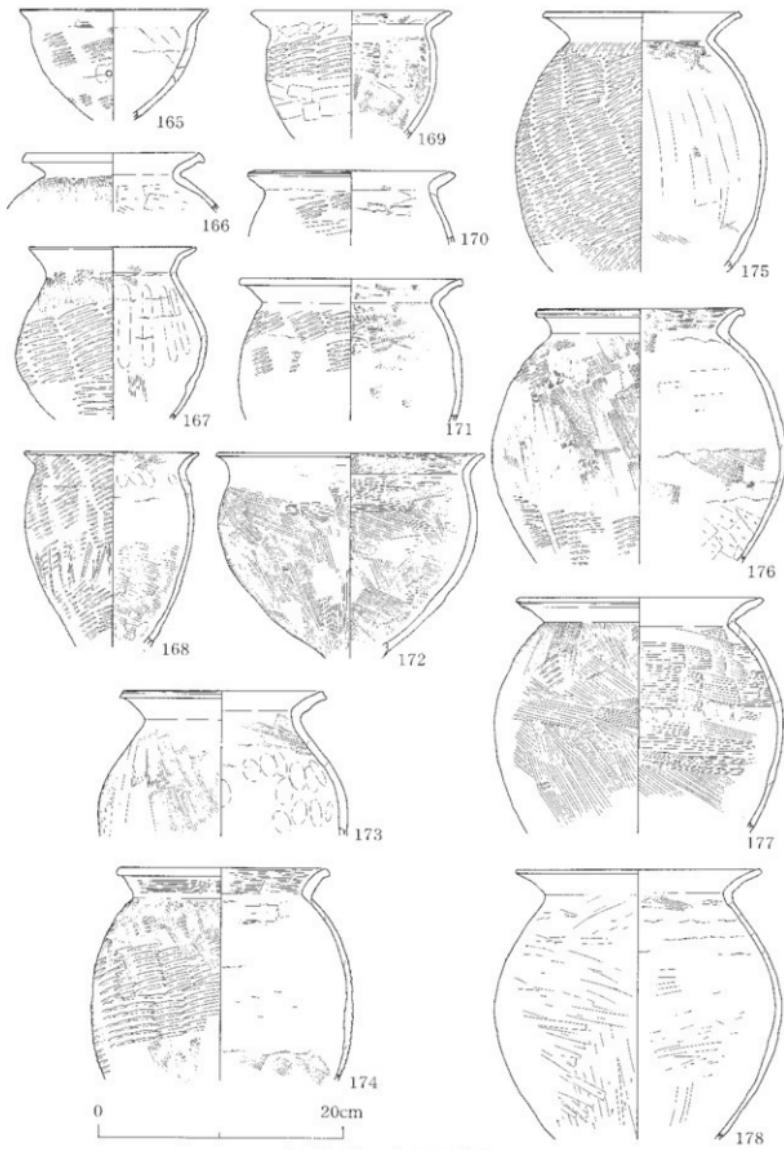
第24図 满100出土上器実測図

口縁部の大きさから、小型(10~15cm内外)、中小型(20cm内外)、大型(30cm以上)とに分けた。口縁端部の形態には面をもつもの・丸く納めるもの・凹むもの・内寄するもの・わずかに上下に肥厚するもの・下方に肥厚するもの・打ち欠いたものがありこれらは口縁部が「く」の字形に外反するものである。また、口頭部がなだらかに外反し、口縁端部を丸くおさめるものもある。

小型甕 (第24~29図 148~153・160・162・164・166~168・179・180・186~189・193~195・197・198・203・206~208・210・211・213~222・224・227~229・233・235)

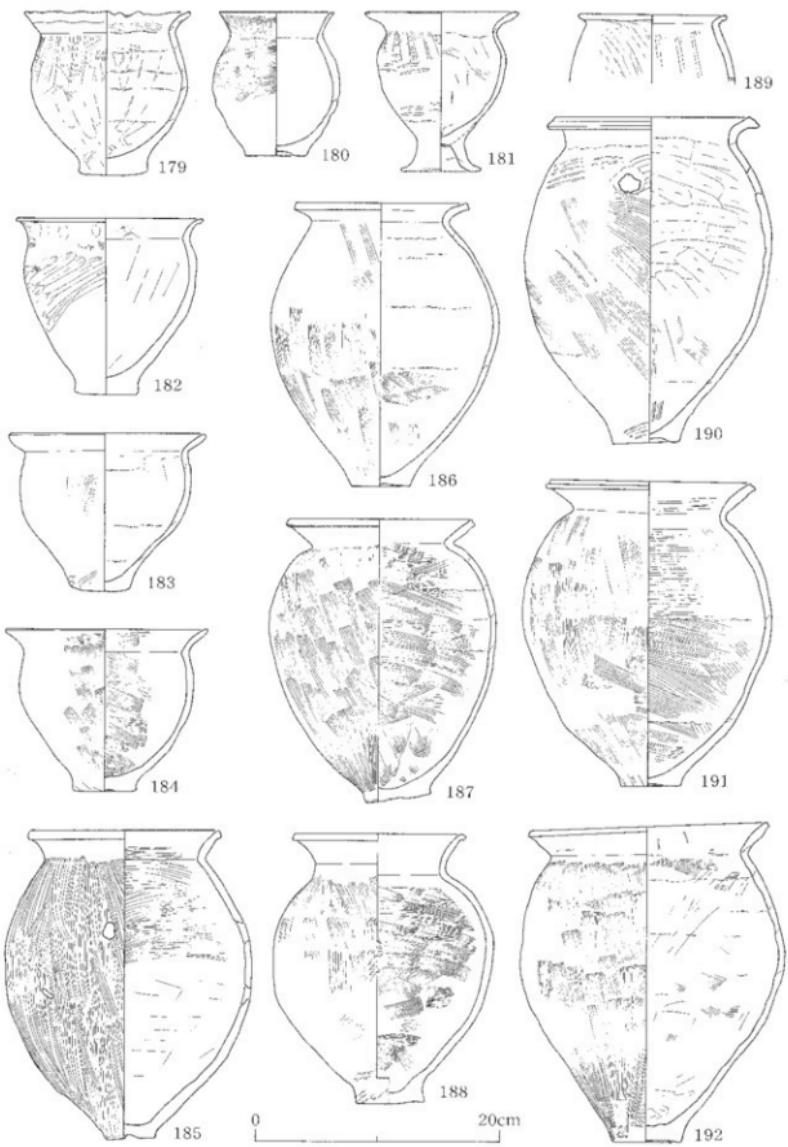
小型甕の口縁部形態は、口縁端部に面をもつもの(148~150・164・186・187・206)、口縁端部を上方に拡張するもしくは、つまみあげるもの(224・226~229・233)、口縁端部を下方に肥厚するもの(152・160・188)、口縁端部に丸味をもつもの(151・180・189・207・208・210・211・213~221)、口縁部がなだらかに外反するもの(153)、口縫端部を打ち欠いたもの(179・198・203)などがある。また、口径が体部最大径をしのぐもの(221・222・224・228)も見られる。

148の調整は内面ナデ、外面にはハケメが施される。口径13.0cm、体部最大径13.4cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR4/3)、外面灰黄褐色(10YR4/2)を呈する。149の調整は内外面共ハケメ(10/cm)が施される。外面に煤付着。口径13.6cm、体部最大径13.4cm。色調は内面灰黄褐色(10YR4/2)、外面褐灰色(10YR4/1)を呈する。150の調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはハケメ(同原体)後へラミガキが施される。外面に煤付着。口径14.3cm、体部最大径17.5cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR6/4)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。151の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。内外面に煤付着。口径15.4cm、体部最大径18.3cm。色調は内外面共にぶい黄褐色(10YR6/4)を呈する。152の調整は内面ハケメ(9/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(4/cm)が施される。口径12.8cm、体部最大径13.8cm。色調は明赤褐色(5YR5/6)を呈する。153の調整は内面へラケズリ、外面にはタタキメ(3/cm)・工具によるナデが施される。口径14.2cm、体部最大径14.3cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/3)、外面にぶい黄褐色(10YR7/4)を呈する。160の調整は内面ハケメ・工具によるナデ、外面にはハケメ(10/cm)が施される。口径14.8cm、体部最大径15.9cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面にぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。162の調整は内面ハケメ(7/cm)、外面ハケメ(同原体)後タタキメ(2/cm)が施される。口径13.2cm、体部最大径15.8cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。164の調整は内面ハケメ(6/cm)・ヘラケズリ、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(4/cm)が施される。内面に煤付着。口径14.6cm、体部最大径17.4cm。色調は内面褐灰色(10YR5/1)、外面灰白色(7.5YR8/2)を呈する。166の調整は内面へラケズリ、外面にはハケメ(11/cm)が施される。口径14.0cm。色調明褐色(7.5YR5/6)を呈する。167の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(2/cm)が施される。外面に煤付着。口径13.6cm、体部最大径15.7cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。168の調整は内面ハケメ(4/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。内外面に煤付着。口径14.0cm、体部最大径13.7cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面黄褐色(10YR5/4)を呈する。179の調整は内外面共ハケメ(6/cm)・工具によるナデが施される。完形。口径13.3cm、器高13.5cm、底径5.5cm、体部最大径12.6cm。色調は内面灰黄褐色(10YR6/2)、外面にぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。180の調整は内面ナデ、外面にはハケメ(11/cm)が施される。口径9.4cm、器高11.8cm、底径4.9cm、体部最大径10.4cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。186の調整は内外面共にハケメ(10/cm)が施される。他地城産。口径13.8cm、器高23.3cm、底径4.6cm、体部最大径18.5cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR7/3)、外面にぶい褐



第25図 満100出土上器実測図

色(7.5YR6/3)を呈する。187の調整は内外面共にハケメ(8/cm)が施される。外面に煤付着。口径14.6cm、器高23.3cm、底径5.1cm、体部最大径18.4cm。188の調整は内面ハケメ(4/cm)、外面にはタタキメ後ハケメ(同原体)が施される。口径13.6cm、器高22.2cm、底径5.5cm、体部最大径17.2cm。189の調整は内面板状工具によるナデ、外面にはヘラケズリが施される。外面に煤付着。口径12.0cm、色調は黄褐色(10YR5/6)を呈する。193の調整は内面工具によるナデ、外面にはハケメ後タタキメ(3/cm)・ナデ消しが施される。口径13.6cm、器高11.2cm、底径4.3cm、体部最大径11.0cm。色調はにぶい橙色(5YR6/3)を呈する。194の調整は内面板状工具によるナデ、外面にはタタキメ(2/cm)が施される。口径13.4cm、器高19.3cm、底径4.7cm、体部最大径14.4cm。色調はにぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。195の調整は内面ハケメ(4/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(2.5/cm)が施される。口径14.6cm、器高16.7cm、底径5.2cm、体部最大径14.2cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面にぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。197は著しい風化のため詳細不明。口径15.0cm、器高20.7cm、底径4.9cm、体部最大径15.2cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。198の調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。口径12.2cm、器高15.7cm、底径5.4cm、体部最大径12.3cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。203の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(3/cm)後タタキメ(3/cm)が施される。完形。口径10.5cm、器高13.3cm、底径4.8cm、体部最大径12.6cm。色調は内面橙色(7.5YR6/6)、外面橙色(7.5YR7/6)を呈する。206の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはタタキメ(3/cm)が施される。完形。口径14.8cm、器高20.6cm、底径4.2cm、体部最大径16.3cm。色調は灰黄褐色(10YR4/2)を呈する。207の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはタタキ(2.5/cm)を施す。口径13.2cm、体部最大径12.0cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。208の調整は内面ハケメ、外面には工具によるナデ後タタキメ(3/cm)が施される。口径13.7cm、器高12.5cm、底径4.3cm、体部最大径11.8cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面にぶい桜色(7.5YR6/4)を呈する。210の調整は内面ハケメ(7/cm)・ヘラケズリ、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(2/cm)が施される。外面に煤付着。口径14.2cm、器高22.3cm、底径5.0cm、体部最大径16.0cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。211の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。口径14.4cm、器高21.7cm、底径4.1cm、体部最大径18.1cm。色調は浅黄橙色(7.5YR8/3)を呈する。213の調整は内面ハケメ・板状工具によるナデ、外面タタキメ(4/cm)が施される。外面に煤付着。口径12.6cm、器高12.2cm、底径3.6cm、体部最大径11.7cm。色調は明赤褐色(5YR5/6)を呈する。214の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはタタキメ(4/cm)後ハケメ(同原体)が施される。口径11.3cm、器高13.9cm、底径4.1cm、体部最大径11.7cm。色調は内面橙色(7.5YR7/6)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。215の調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはタタキメ(4/cm)後ハケメ(同原体)が施されるが、風化のため詳細不明。口径13.0cm、器高14.6cm、底径5.2cm、体部最大径13.9cm。色調は内面灰黄褐色(10YR5/2)、外面にぶい橙色(5YR7/4)を呈する。216の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはタタキメ(4/cm)が施される。口径14.4cm、器高18.3cm、底径5.1cm、体部最大径14.6cm。色調は内面にぶい赤褐色(5YR5/4)、外面灰褐色(5YR5/2)を呈する。217の調整は内面工具によるナデ・ユビナデ、外面にはタタキメ(2/cm)が施される。外面に黒斑あり。口径13.8cm、器高18.3cm、底径4.9cm、体部最大径13.4cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面には橙色(7.5YR6/6)を呈する。218の調整は内面ヘラケズリ、外面にはタタキメ(3/cm)後ハケメ(8/cm)が施される。口径14.7cm、器高24.4cm、底径4.4cm、体部最大径19.9cm。色調は内面褐色(10YR5/1)、外面灰白色(7.5YR8/2)を呈する。219の調整は内面ハケメ(6/cm)・ナデ、外面にはタタキメ(3/cm)後ハケメ(同原体)が施される。完形。内面に煤付着。口径



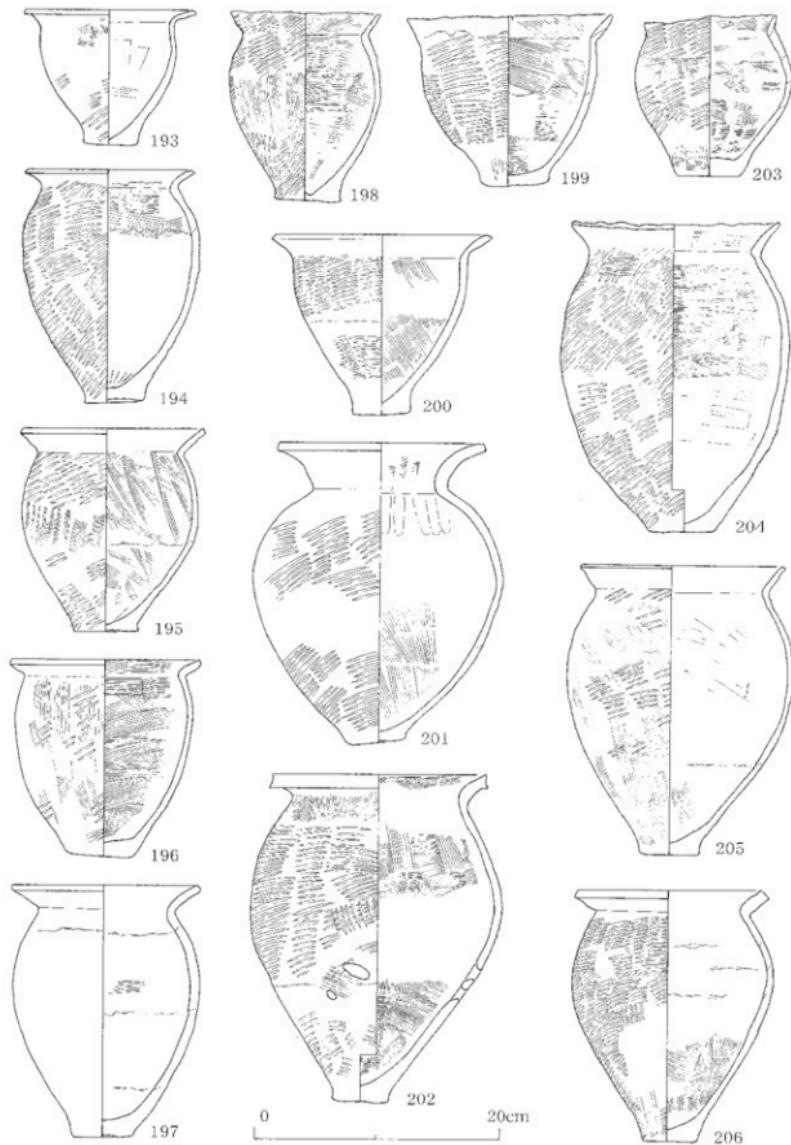
第26図 溝100出土土器実測図

9.2cm、器高14.3cm、底径4.4cm、体部最大径11.4cm。色調はにぶい褐色(7.YR6/3)を呈する。220の調整は内面ハケメ(5/cm)・ナデ、外面にはタタキメ(2/cm)後ナデが施される。内面に煤付着。口径13.5cm、器高15.9cm、底径5.1cm、体部最大径13.4cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面にぶい黄褐色(10YR4/3)を呈する。221の調整は内面工具によるナデ、外面にはタタキメ(2/cm)が施される。内面に煤付着。口径14.2cm、器高14.9cm、底径4.2cm、体部最大径14.5cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面明黄褐色(10YR6/6)を呈する。222の調整は内外面共ハケメ(9/cm)が施される。口径14.2cm、器高16.9cm、底径5.4cm、体部最大径14.0cm。色調は内面黄灰色(2.5Y5/1)、外面にぶい黄橙色(10YR7/3)を呈する。224の調整は内面ハケメ(6/cm)・工具によるナデ、外面にはハケメ(同原体)・タタキメ(3/cm)が施される。完形。口径13.9cm、器高14.9cm、底径4.6cm、体部最大径18.4cm。色調は内面灰黄褐色(10YR6/2)、外面にぶい黄橙色(10YR7/2)を呈する。227の調整は内面ハケメ、外面にはタタキメが施される。外面に煤付着。口径14.0cm、体部最大径14.4cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。228の調整は内外面共にハケメ(8/cm)が施される。外面に煤付着。口径14.7cm、器高18.3cm、底径4.2cm、体部最大径15.0cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面にぶい黄橙色(10YR7/3)を呈する。229の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはタタキメ(2/cm)後ハケメ(同原体)が施される。外面に煤付着。口径14.4cm、器高17.3cm、底径4.3cm、体部最大径15.9cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。233の調整は内面工具によるナデ、外面にはハケメ(8/cm)が施される。外面に黒斑あり。口径12.4cm、器高13.8cm、底径4.3cm、体部最大径13.2cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。235の調整は内面板状工具によるナデ、外面にはハケメ(9/cm)後密なヘラミガキが施される。口径14.8cm、器高24.5cm、底径4.8cm、体部最大径19.0cm。色調はにぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。

中型甕（第22～29図 135～147・154～159・161・163・165・169～178・182～185・190～192・196・199～202・204・205・209・223・225・226・230・231・234）

中型甕の口縁部形態は、口縁端部に面をもつもの（135・136・143・145～147・155～157・161・171～173・175・177・185・192・196・197・200～202・205・209）、口縁端部を上方に拡張、もしくはつまみあげるもの（140・225・230・231）、口縁端部を下方に肥厚するもの（141・174・190）、口縁端部に丸味をもつもの（137・144・154・163・165・167・169・178・182～184・223）、口縁部がながらかに外反するもの（138）、口縁端部を打ち欠いたもの（199・204）などがある。また、口径が体部最大径をしのぐもの（157・165）も見られる。

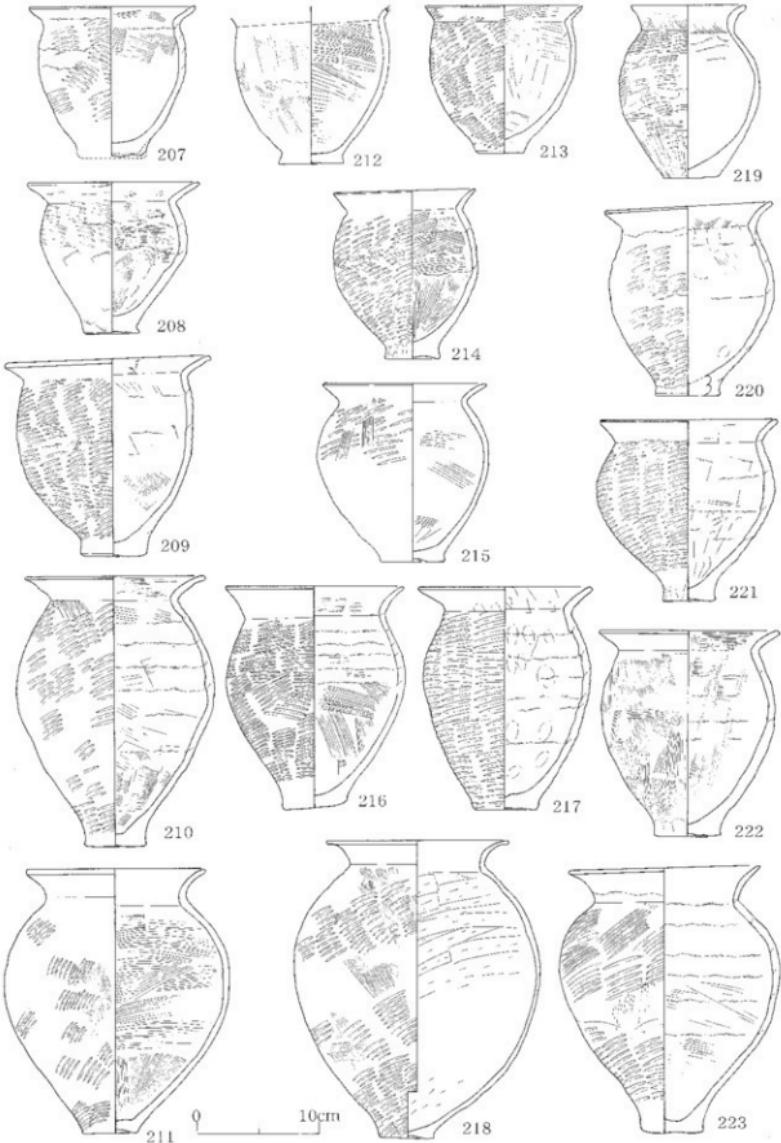
135は体部下位に円孔を穿つ。調整は内面ヘラケズリ・ハケメ(7/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。完形。口径15.3cm、器高27.8cm、底径5.2cm、体部最大径20.9cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/3)、外面灰黄褐色(10YR6/2)を呈する。136は体部下位に円孔を穿つ。調整は内面ハケメ(10/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。内外面共に煤付着。口径19.4cm、器高32.2cm、底径5.2cm、体部最大径23.6cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/6)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。137の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(2/cm)が施される。口径16.6cm、器高26.5cm、底径5.3cm、体部最大径20.2cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)・黄褐色(10YR5/6)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。138の調整は内面ハケメ(9/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(2/cm)が施される。外面に煤付着。口径16.6cm、器高31.1cm、底径5.5cm、体部最大径25.0cm。色調は内面にぶい橙色(5YR6/3)、外面にぶい橙色(5YR6/4)を呈する。139の調整は内面ハケメ(9/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ



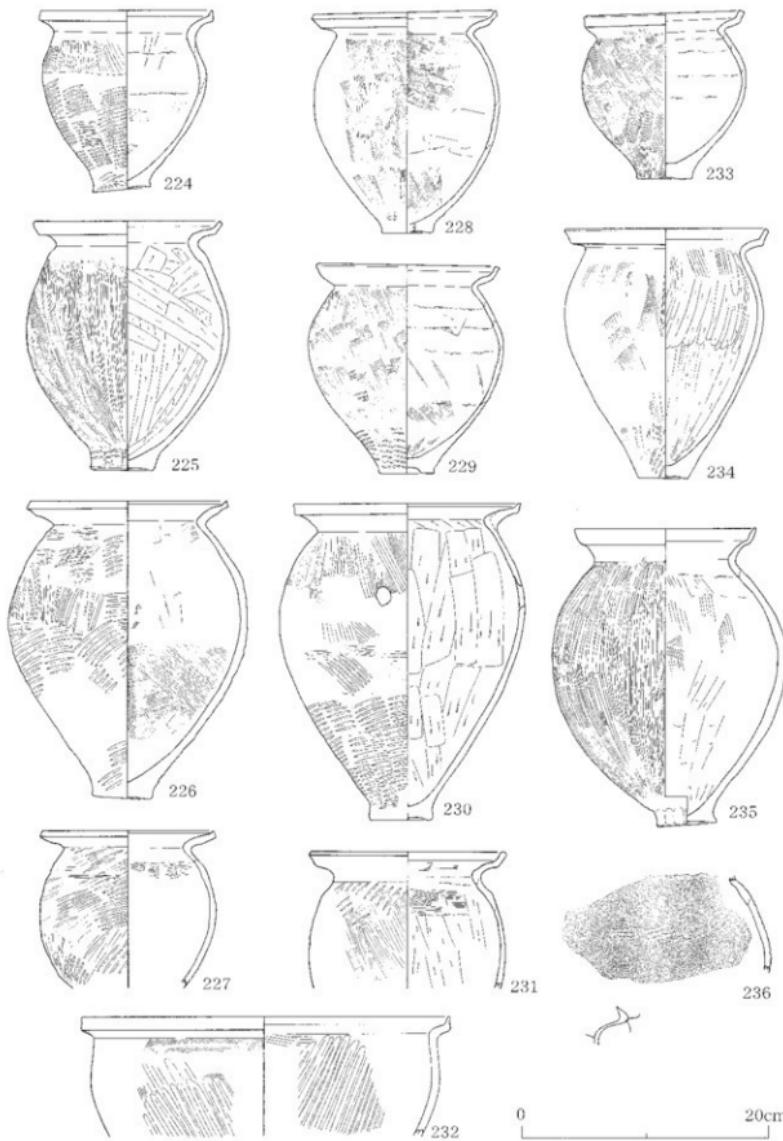
第27図 満100出土上器実測図

(3/cm)が施される。口径17.3cm、器高35.4cm、底径5.7cm、体部最大径25.7cm。色調は内外面共にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。140の調整は内面口縁部ハケメ(6/cm)・体部上位ナデ・体部下位ヘラケズリ後ハケメ(12/cm)、外面には体部上位ヘラケズリ後ハケメ・体部下位タタキメ後ハケメが施される。口径16.6cm、体部最大径21.3cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。141の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(2/cm)が施される。外面に煤付着。口径16.6cm、体部最大径20.5cm。色調は内外面共にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。142の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。口径16.7cm、器高27.3cm、底径4.9cm、体部最大径20.6cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。143の調整は内面ナデ・外面にはハケメ(4/cm)後タタキメ(3/cm)が施される。外面に煤付着。口径17.6cm、器高29.2cm、底径6.4cm、体部最大径22.5cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/3)、外面灰褐色(7.5YR5/2)を呈する。144の調整は内面ハケメ(5/cm)・ヘラケズリ、外面にはハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ・タタキメ(5/cm)が施される。外面には煤付着。口径18.8cm、器高28.6cm、底径5.7cm、体部最大径24.0cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/3)、外面にぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。145の調整は内面ヘラケズリ、外面にはハケメ後タタキメ(3/cm)が施される。口径19.8cm、器高31.8cm、底径5.6cm、体部最大径23.2cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR7/3)、外面橙色(7.5YR7/6)を呈する。146は丈高の器高をもつ。調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。外面には煤付着。口径24.8cm、器高43.2cm、底径6.4cm、体部最大径32.0cm。色調は内面にぶい橙色(5YR6/3)、外面にぶい褐色(7.5YR6/4)を呈する。147は内面工具によるナデ、外面にはハケメ(8/cm)後タタキメが施される。外面に煤付着。口径16.2cm、体部最大径23.4cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。154の調整は内面ナデ、外面には工具によるナデが施される。口径16.0cm、体部最大径19.0cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/3)が呈する。155の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(4/cm)が施される。口径16.4cm、体部最大径23.0cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。他地域産。156の調整は内面板状工具によるナデ、外面にはタタキメ(2/cm)が施される。口径16.3cm、体部最大径14.6cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR7/3)、外面にぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。157の調整は内面ハケメ(3/cm)、外面にはタタキメ(2/cm)が施される。内外面に黒斑あり。口径19.0cm、器高13.8cm、底径5.2cm、体部最大径16.1cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR6/4)、外面橙色(7.5YR7/6)を呈する。158の調整は内面ヘラケズリ、外面にはハケメ(7/cm)後タタキメ(2/cm)・ヘラケズリが施される。外面に煤付着。口径16.7cm、体部最大径22.2cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。159の調整は内外面共風化のため詳細不明。口径21.1cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。161の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(4/cm)が施される。口径15.6cm、体部最大径21.3cm。色調内面明褐色(7.5YR5/6)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。163の調整は内面ハケメ(8/cm)・ヘラミガキ、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。外面に煤付着。口径15.4cm、体部最大径14.6cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/6)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。165は体部中央に円孔を穿つ。調整は内面工具によるナデ、外面にはタタキメ(4/cm)が施される。口径15.2cm、体部最大径13.4cm。色調は内面橙色(5YR6/6)、外而明赤褐色(5YR5/6)を呈する。169の調整は内面ハケメ(7/cm)、外面には工具によるナデ後タタキメ(2/cm)が施される。外面に黒斑あり。口径16.2cm、体部最大径13.8cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面褐色(7.5YR4/4)を呈する。170の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはタタキメ(3/cm)が施される。外面に黒斑あり。口径16.7cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)・黒褐色

(2.5Y3/1)を呈する。171の調整は内面ハケメ(12/cm)、外面タタキメ(2/cm)が施される。外面に煤付着。口径17.8cm、体部最大径18.0cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。172の調整は内外面共ハケメ(4/cm)が施される。外面に煤付着。口径21.6cm、体部最大径21.0cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/6)、外面にぶい黄褐色(10YR7/4)を呈する。173の調整は内外面共ハケメ(6/cm)が施される。外面に黒斑あり。口径16.2cm、体部最大径20.4cm。色調は内面にぶい黄褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい黄褐色(10YR5/4)を呈する。174の調整は内面ハケメ(7/cm)・ヘラケズリ、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(2/cm)が施される。口径16.6cm、体部最大径20.9cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。175の調整は内面ハケメ後工具によるナデ、外面にはタタキメ(4/cm)が施される。外面に黒斑あり。口径15.7cm、体部最大径20.2cm。色調は内面黄灰色(2.5Y6/1)・にぶい黄褐色(10YR7/4)、外面にぶい棕色(7.5YR7/4)を呈する。176の調整は内面ハケメ(5/cm)・ヘラケズリ、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。口径16.6cm、体部最大径23.8cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR6/4)、外面棕色(7.5YR6/6)を呈する。177の調整は内面(6/cm)、外面にはタタキメ(2/cm)後ハケメ(同原体)が施される。口径19.4cm、体部最大径23.3cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面にぶい黄褐色(10YR6/3)を呈する。178の調整は内外面共工具によるナデ・ヘラケズリが施される。外面に煤付着。口径19.6cm、体部最大径23.4cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。182の調整は内外面共に板状工具によるナデが施される。口径15.2cm、器高14.6cm、底径4.4cm、体部最大径13.9cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。183の調整は内外面共に著しい風化のため詳細不明。外面に煤付着。口径16.0cm、器高13.0cm、底径4.7cm、体部最大径13.9cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR6/3)、外面にぶい棕色(7.5YR7/4)・にぶい棕色(2.5YR6/3)を呈する。184の調整は内外面共にハケメ(9/cm)が施される。外面に煤付着。口径16.2cm、器高13.3cm、底径5.1cm、体部最大径14.2cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面にぶい黄褐色(10YR5/4)を呈する。185は体部中位に焼成後2ヶ所の穿孔が見られる。調整は内面板状工具によるナデ、外面には密なヘラミガキが施される。完形。口径15.2cm、器高25.4cm、底径3.9cm、体部最大径21.0cm。色調は明赤褐色(2.5YR5/6)を呈する。190は体部上位に焼成後の穿孔が見られる。調整は内面ヘラケズリ・工具によるナデ、外面にはタタキメ(2/cm)後ハケメ(8/cm)が施される。口径15.6cm、器高26.9cm、底径5.5cm、体部最大径20.0cm。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)を呈する。191の調整は内外面共にハケメ(10/cm)が施される。外面に煤付着。口径16.1cm、器高25.3cm、底径4.9cm、体部最大径20.3cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR6/3)、外面にぶい棕色(7.5YR7/4)を呈する。192の調整は内面ハケメ(10/cm)・ヘラケズリ、外面にはハケメ(同原体)が施される。外面に煤付着、底部に黒斑あり。口径19.0cm、器高26.3cm、底径5.5cm、体部最大径21.4cm。色調は黄褐色(10YR5/6)を呈する。196の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(2.5/cm)が施される。口径15.2cm、器高16.3cm、底径5.3cm、体部最大径14.3cm。色調はにぶい棕色(7.5YR6/4)を呈する。199の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはタタキメ(2/cm)が施される。口径16.4cm、器高14.2cm、底径5.4cm、体部最大径14.1cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR6/3)、外面にぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。200の調整は内面ハケメ(9/cm)、外面にはタタキメ(4/cm)が施される。口径17.0cm、器高14.8cm、底径4.4cm、体部最大径14.0cm。色調は内面にぶい棕色(7YR6/4)、外面にぶい棕色(2.5YR6/4)・にぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。201の調整は内面板状工具によるナデ・ハケメ(9/cm)、外面にはタタキメ(3/cm)が施される。口径16.5cm、器高24.9cm、底径4.3cm、体部最大径19.3cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/3)、外面灰黄褐色(10YR6/2)を呈する。202の体部下位に焼成後の穿孔が2ヶ所見られる。調整は内面ハケメ(7/cm)、外



第28図 满100出土土器実測図



第29図 溝100出土器実測図

面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。完形。口径17.3cm、器高27.0cm、底径4.5cm、体部最大径20.6cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。204の調整は内面板状工具によるナデ、外面にはタタキメ(3/cm)が施される。外面に煤付着。口径16.6cm、器高25.5cm、底径5.2cm、体部最大径18.6cm。205の調整は内面ヘラケズリ、外面ハケメ(10/cm)後タタキメが施される。口径16.1cm、器高23.9cm、底径5.0cm、体部最大径18.3cm。色調は内面明赤褐色(5YR5/6)、外面明褐色(7.5YR5/6)を呈する。209の調整は内面ハケメ(9/cm)、外面にはタタキメ(4/cm)が施される。外面に煤付着。口径16.2cm、器高16.5cm、底径5.3cm。色調は内面橙色(7.5YR6/6)、外面ににぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。223の調整は内面ハケメ(11/cm)、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(2/cm)が施される。口径15.1cm、器高21.9cm、底径5.0cm、体部最大径18.0cm。色調は内面ににぶい褐色(7.5YR6/3)、外面ににぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。225の調整は内面ヘラケズリ、外面にはハケメ(6/cm)が施される。口径15.0cm、器高20.5cm、底径5.2cm、体部最大径16.2cm。色調はにぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。226の調整は内面ハケメ(11/cm)、外面にはタタキメ(3/cm)・ヘラミガキが施される。口径16.0cm、器高24.5cm、底径4.9cm、体部最大径19.5cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。230は体部最大径部位に円孔を穿つ。調整は内面ヘラケズリ、外面にはタタキメ(3/cm)後ハケメ(9/cm)が施される。口径18.4cm、器高26.0cm、底径5.0cm、体部最大径19.9cm。色調は内面黄灰色(2.5Y6/1)、外面ににぶい黄橙色(10YR7/2)を呈する。231の調整は内面ハケメ(4/cm)後ヘラケズリ、外面にはハケメ(同原体)後タタキメ(3/cm)が施される。外面に煤付着。口径15.6cm、体部最大径16.0cm。色調は内面ににぶい橙色(7.5YR6/4)、外面ににぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。234の調整は内面ヘラケズリ・ハケメ(6/cm)、外面にはタタキメ後ハケメ(同原体)が施される。口径16.2cm、器高20.5cm、底径4.0cm、体部最大径16.0cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。

大型甕 (第29図 232)

内湾気味に立ち上がる体部から、口縁部は外折し、口縁端部は上方に肥厚する。調整は内外面共にハケメ(5/cm・8/cm)後ヘラミガキが施される。口径30.0cm、体部最大径28.6cm。色調は内面ににぶい黄橙色(10YR6/4)、外面明赤褐色(2.5YR5/6)を呈する。

台付甕 (第26・38図 181・389)

181は小型甕に脚台がついたもの。「ハ」の字形にひろがる脚台、無花果形の体部から「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は上方に面をもつ。口径が体部最大径をしのぐ。調整は内面工具痕、外面にはタタキメ後ハケメ(8/cm)が施される。口径11.8cm、器高13.1cm、裾部径6.4cm、体部最大径10.4cm。色調は内面明赤褐色(5YR5/6)、外面ににぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。389は裾部欠失。甕部は球形をもつ体部から、口縁部は外折し、口縁端部は面をもつ。調整は内外面共にハケメ(10/cm)が施される。体部上位に穿孔が見られる。脚部は内面工具によるナデ、外面にはヘラケズリ・ヘラミガキが施される。口径14.6cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。

形態不明の甕 (第28・29図 212・236)

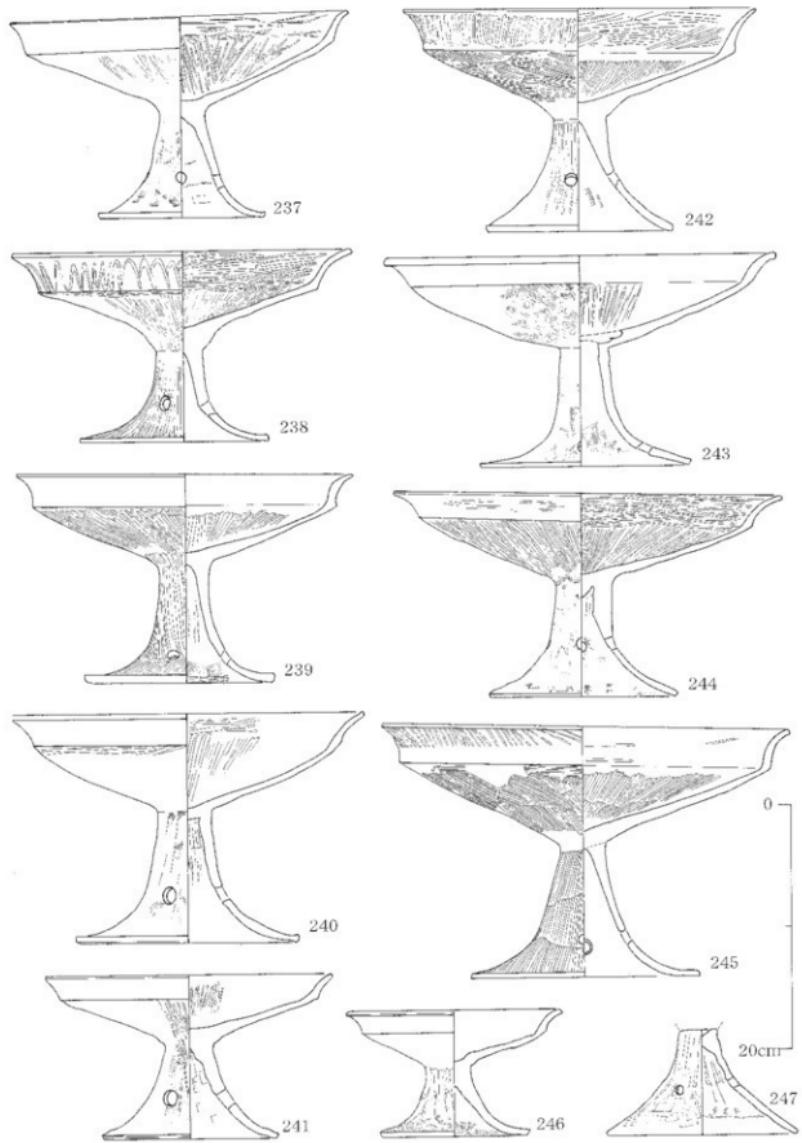
212は口縁端部を欠失する。調整は内外面共にハケメ(7/cm)が施される。体部最大径12.5cm、底径5.2cm。色調は内面ににぶい黄橙色(10YR6/3)、外面ににぶい橙色(7.5YR7/3)を呈する。236は肩部細片。調整は内面工具によるナデ、外面にはハケメ後タタキメが施される。体部外面に水鳥を描く。

高坏 (第30~32図 237~284)

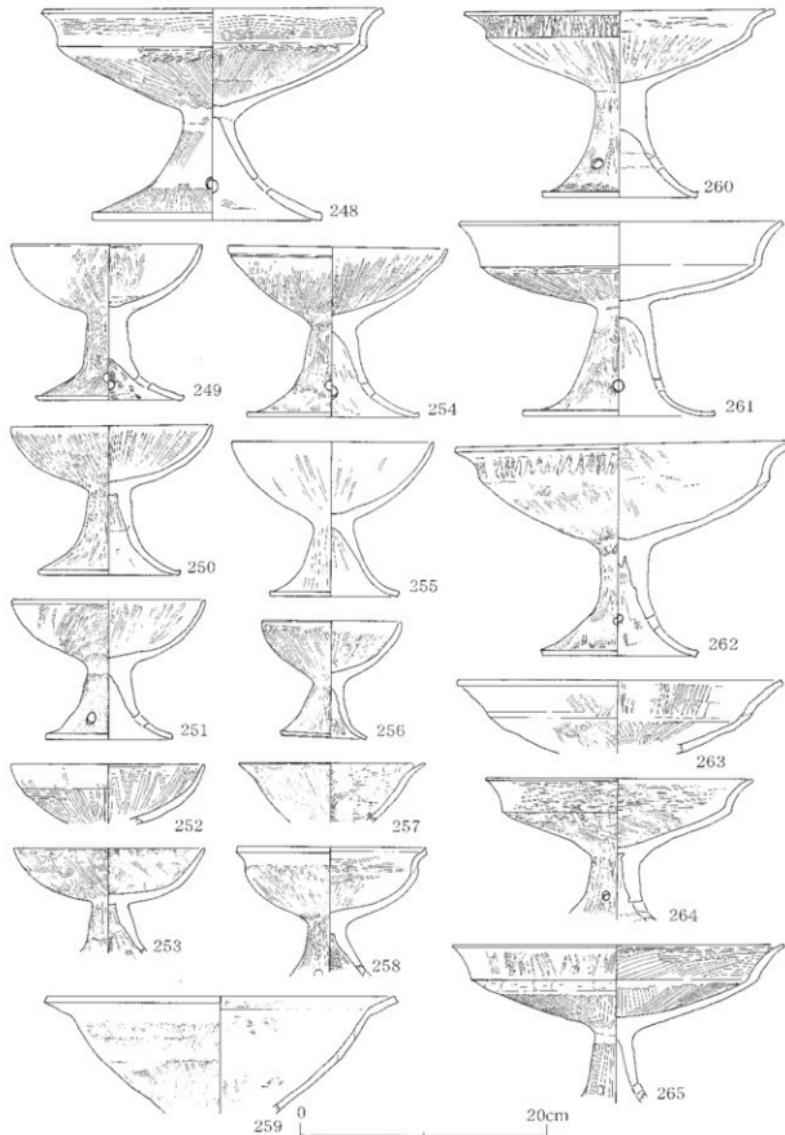
高坏Aは坏部が屈曲(外面に稜をもつ)して立つ口縁部に、高い脚台がつくもの、高坏Bは浅い椀形に、低い脚台がつくもの、高坏Cは丸味をもつ体部から、口縁部が短く外反するもの、高坏Dは坏部の口縁部から底部は「Z」字上に屈折し、脚台には円孔や凸凹・段をもつものがある。

高坏A (第30~32図 237~246・248・258・260~270・273~276)

脚柱部が中央なもの(246)以外は中空の脚柱部をもつもの、脚柱部に円孔を穿つもの(237~245・258・260~262・264・265・268・277)がある。237の調整は坏部内外面共ヘラミガキ、脚部内面工具によるナデ、外面にはハケメ後ヘラミガキが施される。脚柱部には4ヶ所の円孔を穿つ。口径27.1cm、器高16.9cm、裾部径13.2cm。色調は明褐色(7.5YR5/6)を呈する。238の口縁部にはジグザグ状のヘラミガキが見られる。調整は坏部内外面共ヘラミガキ、脚部内面ナデ、外面にはヘラミガキが施される。脚柱部には3ヶ所の円孔を穿つ。口径27.3cm、器高15.75cm、裾部径15.5cm。239の調整は坏部内外面共ヘラミガキ、脚部には内面シボリメ・ハケメ、外面にはヘラミガキが施される。脚柱部には4ヶ所の円孔を穿つ。口径27.3cm、器高17.3cm、裾部径15.2cm。色調は内面にぶい橙色(5YR7/4)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。240の調整は坏部内外面共ヘラミガキ、脚部内面シボリメ、外面にはハケメ・ヘラミガキが施される。脚柱部には3ヶ所の円孔を穿つ。口径28.6cm、器高18.9cm、裾部径18.2cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。241の調整は坏部内外面共ハケメ、脚部内面ヘラケズリ、外面にはヘラミガキが施される。脚柱部には3ヶ所の円孔を穿つ。口径23.2cm、器高13.4cm、裾部径14.0cm。色調内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。242の調整は坏部内外面共ヘラミガキ、脚部内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。脚柱部に4ヶ所の円孔を穿つ。口径28.6cm、器高18.3cm、裾部径14.8cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/3)、外面にぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。243の調整は坏部内面ヘラミガキ、外面ハケメ(6/cm)、脚部内外面共ハケメ(同原体)が施される。脚柱部に4ヶ所の円孔を穿つ。口径31.4cm、器高17.3cm、裾部径16.7cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。244の調整は坏部内外面共ヘラミガキ、脚部内外面共ハケメ(7/cm)が施される。脚柱部に4ヶ所の円孔を穿つ。口径31.5cm、器高17.0cm、裾部径14.7cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。245の調整は坏部内外面共ヘラミガキ、脚部内面ナデ、外面にはヘラミガキが施される。脚柱部に4ヶ所の円孔を穿つ。口径31.8cm、器高21.0cm、裾部径18.4cm。色調は内面にぶい黄色(2.5Y6/3)、外面にぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。246の調整は坏部内外面共に風化のため詳細不明、脚部には内外面共ハケメ(8/cm)が施される。口径17.2cm、器高10.4cm、裾部径11.7cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。248の調整は坏部内外面共にヘラミガキ、脚部内外面共工具によるナデが施される。脚柱部に4ヶ所の円孔を穿つ。口径27.0cm、器高17.5cm、裾部径18.5cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/6)、外面にぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。258はやや丸味をもつ坏部、口縁部ににぶい稜をもち、外湾する。口縁端部は上方につまみ上げる。脚部に円孔を穿つ。調整は坏部内面ヘラミガキ、外面ハケメ(8/cm)、脚部内面ハケメ、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径15.4cm。色調は明赤褐色(5YR5/8)を呈する。260の調整は坏部内外面共にヘラミガキ、脚部内面ナデ、外面にはヘラミガキが施される。脚柱部に3ヶ所の円孔を穿つ。口径24.8cm、器高15.5cm、裾部径12.4cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/6)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。261の調整は坏部内面著しい磨滅のため詳細不明、外面ヘラミガキ、脚部内面シボリメ・ナデ、外面にはハケメ(6/cm)が施される。脚柱部に4ヶ所の円孔を穿つ。口径25.9cm、器高16.1cm、裾部径15.5cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。262の調整は坏部内面風



第30図 溝100出土土器尖測図

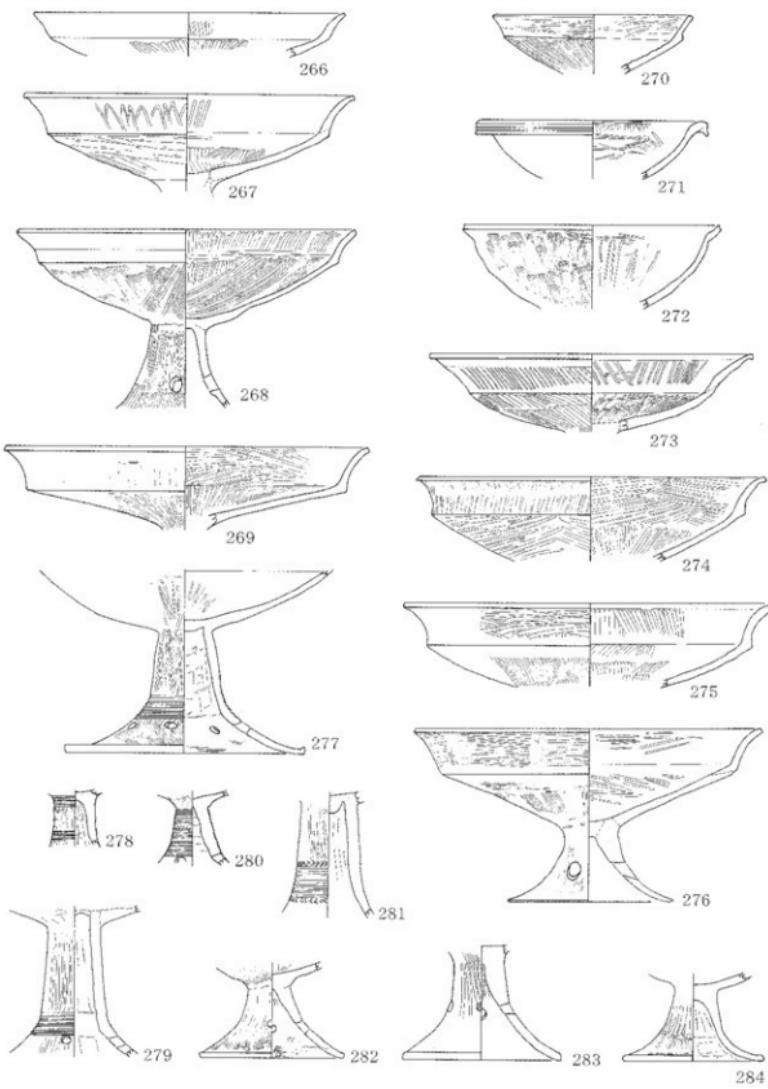


第31図 満100出土土器実測図

化のため詳細不明、外面ハケメ(7/cm)後ヘラミガキ、脚部内面シボリメ・ハケメ、外面にハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。脚柱部に4ヶ所の円孔を穿つ。口径27.0cm、器高17.7cm、裾部径12.5cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。263は脚部欠失。調整は内面ヘラミガキ、外面には口縁部ヘラミガキ、体部ハケメ(8/cm)が施される。口径26.0cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。264は脚裾部欠失。調整は坏部内面ヘラミガキ、外面ハケメ(7/cm)後ヘラミガキ、脚部内面工具によるナデ、外面にはヘラミガキが施される。脚柱部に3ヶ所の円孔を穿つ。口径21.2cm。色調にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。265は脚裾部欠失。調整は坏部内面ヘラミガキ、外面ヘラケズリ・ヘラミガキ、脚部内面ナデ、外面にはヘラミガキが施される。脚柱部に3ヶ所の円孔を穿つ。口径26.6cm。色調内面にぶい橙色(7.5YR7/4)、外面橙色(7.5YR7/6)を呈する。266は脚部欠失。調整はヘラミガキ、摩減のため詳細不明。口径25.2cm。色調は内外面共にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。267は脚部欠失。調整は内面ヘラミガキ、外面口縁部ヘラミガキ、体部にはヘラケズリが施される。口径26.6cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面灰黄褐色(10YR4/2)を呈する。268は脚裾部欠失。調整は内外面共にハケメ(5/cm)後ヘラミガキが施される。口径27.6cm。色調は内面橙色(7.5YR6/6)、外面橙色(7.5YR7/6)を呈する。269は脚部欠失。調整は内外面共にヘラミガキが施される。内外面に黒斑あり。口径29.2cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR7/3)、外面橙色(5YR6/6)を呈する。270は脚部欠失。調整は内外面共にヘラミガキが施される。口径16.15cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。273の脚部欠失。調整は内外面共ハケメ(13/cm)後ヘラミガキが施される。口径26.0cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面灰黄色(2.5Y7/2)を呈する。274は脚部欠失。調整は内外面共にヘラミガキが施される。口径28.0cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。275は脚部欠失。調整は内面ヘラミガキ、外面にはハケメ(原体12/1.8cm)後ヘラミガキが施される。口径30.0cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。276の調整は坏部内面ヘラミガキ、外面ハケメ(8/cm)、脚部内面ナデ、外面にはハケメ(同原体)が施される。脚柱部には3ヶ所の円孔を穿つ。口径27.9cm、器高14.3cm、裾部径13.5cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR7/4)、外面にぶい橙色(7.5YR7/3)を呈する。

高坏B (第31図 249～256)

脚柱部はすべて中空。脚柱部に円孔を穿つもの(249・251・254)がある。249の調整は坏部内外面共ヘラミガキ、脚部内面ハケメ(9/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。脚柱部に4ヶ所の円孔を穿つ。口径15.4cm、器高12.8cm、裾部径11.4cm。色調は黄褐色(10YR5/6)を呈する。250の調整は坏部内外面共ヘラミガキ、脚部内面シボリメ・工具によるナデ、外面にはヘラケズリが施される。完形。口径16.1cm、器高12.4cm、裾部径11.4cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR6/4)、外面にぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。251の調整は坏部内外面共ヘラミガキ、脚部内面ナデ、外面にはヘラミガキが施される。脚柱部に3ヶ所の円孔を穿つ。口径15.4cm、器高11.4cm、裾部径10.2cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。252は脚部欠失。調整は内外面共にヘラミガキが施される。口径15.8cm。色調内外面共に明褐色(7.5YR5/6)を呈する。253は裾部欠失。調整は内外面共にハケメ(7/cm)を呈する。脚柱部に円孔を穿つ。口径15.4cm。色調内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面黄褐色(10YR5/6)を呈する。254の調整は坏部内面ヘラミガキ、外面ハケメ(13/cm)後ヘラミガキ、脚部内面工具によるナデ、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。坏部外面上に1条の沈線が見られる。口径17.6cm、器高14.1cm、裾部径13.8cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。255の調整は内外面共に磨減のため詳細不明。口径16.4cm、器高12.7cm、裾部径10.2cm。色調



0 20cm

第32圖 溝100出土上器尖測圖

は内面にぶい黄橙色(10YR7/3)・黄灰色(2.5Y4/1)、外面灰色(5Y4/1)を呈する。256の調整は内外面共にハケメ(9/cm)後ヘラミガキが施される。口径11.2cm、器高9.6cm、裾部径7.1cm。

高坏C (第31・32図 257・259・271・272)

丸味をもつ坏部から、口縁部は外反する。257は脚部欠失。調整は内外面共にハケメ(10/cm)が施される。口径15.2cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面褐色(7.5YR4/3)を呈する。259は鉢の可能性もある。脚部欠失。調整は内外面共にハケメ(8/cm)が施される。口径28.2cm。色調はにぶい赤褐色(5YR5/4)を呈する。271は脚部欠失。口縁端部を下方に引き伸ばし、端面は凹む。調整は内面ハケメ(6/cm)後ヘラミガキ、外面にはナデが施される。外面に黒斑あり。口径18.8cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)・にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。272は脚部欠失。調整は内面ヘラミガキ、外面にはハケメ(11/cm)が施される。口径20.6cm。色調は黄褐色(10YR5/6)を呈する。

脚台 (第30・32図 247・277~284)

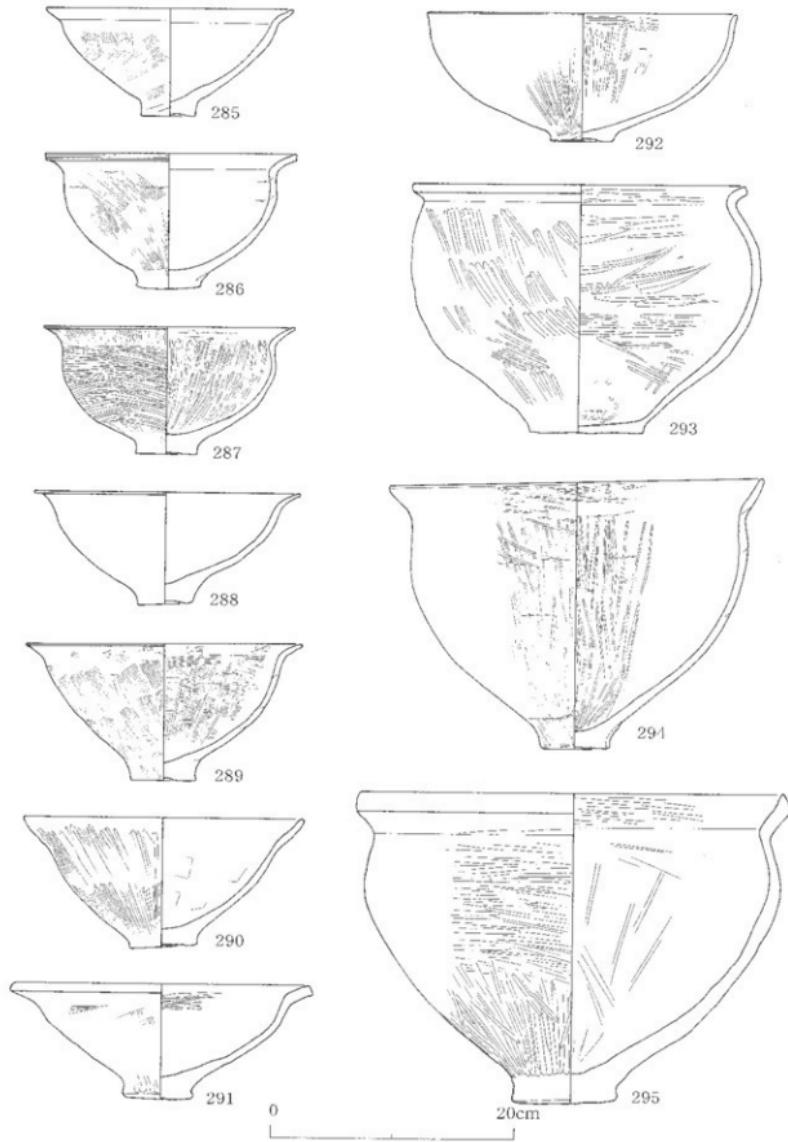
高坏に属す脚部と思われる。脚柱部に装飾をもつもの(277~281)、脚柱部に円孔を穿つもの(279・280・282・283)がある。247は坏部は欠損。調整は内外面共に工具によるナデが施される。内面に煤が付着することから、蓋への転用品とも考えられる。脚柱部に3ヶ所の円孔を穿つ。裾部径15.1cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。277は口縁部欠失。わずかに口縁部外面に稜が見られることから高坏Aに属すと考えられる。調整は坏部内外面共にヘラミガキ、脚部内部ヘラケズリ、外面にはヘラミガキが施される。脚柱部に4ヶ所の円孔を穿つ。脚柱に7条からなる凹線文が見られる。裾部径19.2cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面には黄褐色(10YR5/6)を呈する。278の調整は内面シボリメ、外面にはヘラミガキが施される。外面にはクシ工具による3条の沈線文が2帯見られる。色調は内面暗灰黄色(2.5Y5/2)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。279の調整は内面シボリメ、外面にはヘラミガキが施される。外面にクシ工具による6条の沈線文と円孔を穿つ。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。280の調整は内面ナデ、外面にはクシ工具による15条の沈線文と羽状文風列点文・円孔を3ヶ所穿つ。色調は明褐色(7.5YR5/6)を呈する。281の調整は内面工具によるナデ、外面にはハケメ後ヘラミガキが施される。外面にクシ工具による8条の凹線文と羽状文風列点文が見られる。色調は黄褐色(10YR5/6)を呈する。282は坏部欠失。調整は坏部内面ヘラミガキ、外面ハケメ(7/cm)、脚部内面シボリメ・ハケメ(11/cm)、外面にはヘラケズリ・ハケメ(同原体)が施される。脚柱部に4ヶ所の円孔を穿つ。裾部径11.6cm。色調橙色(7.5YR7/6)を呈する。283の坏部欠失。調整は内外面共にヘラミガキが施される。裾部径12.8cm。色調は内面明黄褐色(10YR7/6)、外面褐色(10YR4/6)を呈する。284の調整は内面シボリメ・板状工具によるナデ、外面にはハケメ(8/cm)後ヘラミガキが施される。裾部径11.6cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい黄橙色(10YR7/3)を呈する。

鉢 (第33~36図)

直口の口縁部をもつものを鉢A、外反する口縁部をもつものを鉢Bとする。口径が10cm未満のものを小型、30cm以上のものを大型と呼ぶこととする。

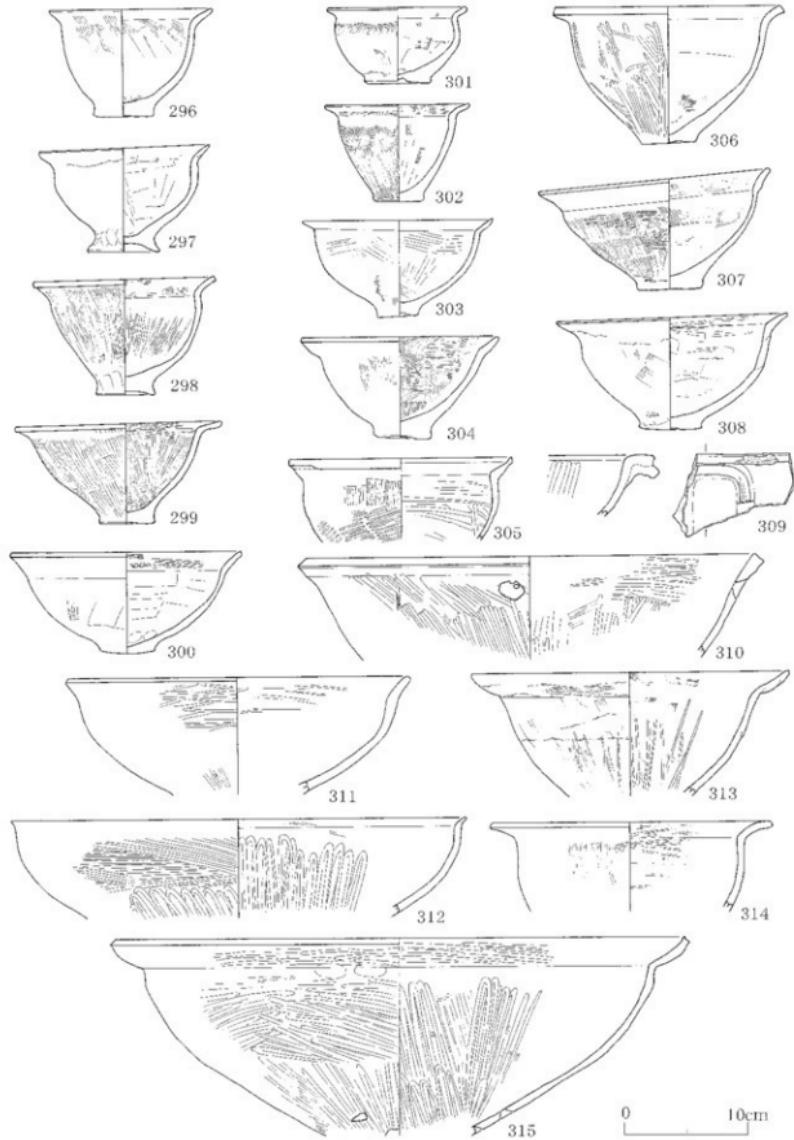
鉢A (第33・35・36図 292・316~367)

底部の形態が半底のもの (321・323・331・332・335・336・346・355・363)、上げ底気味のもの (292・318・320・325・333・334・344・345・347~350・352・356・357・359~362・



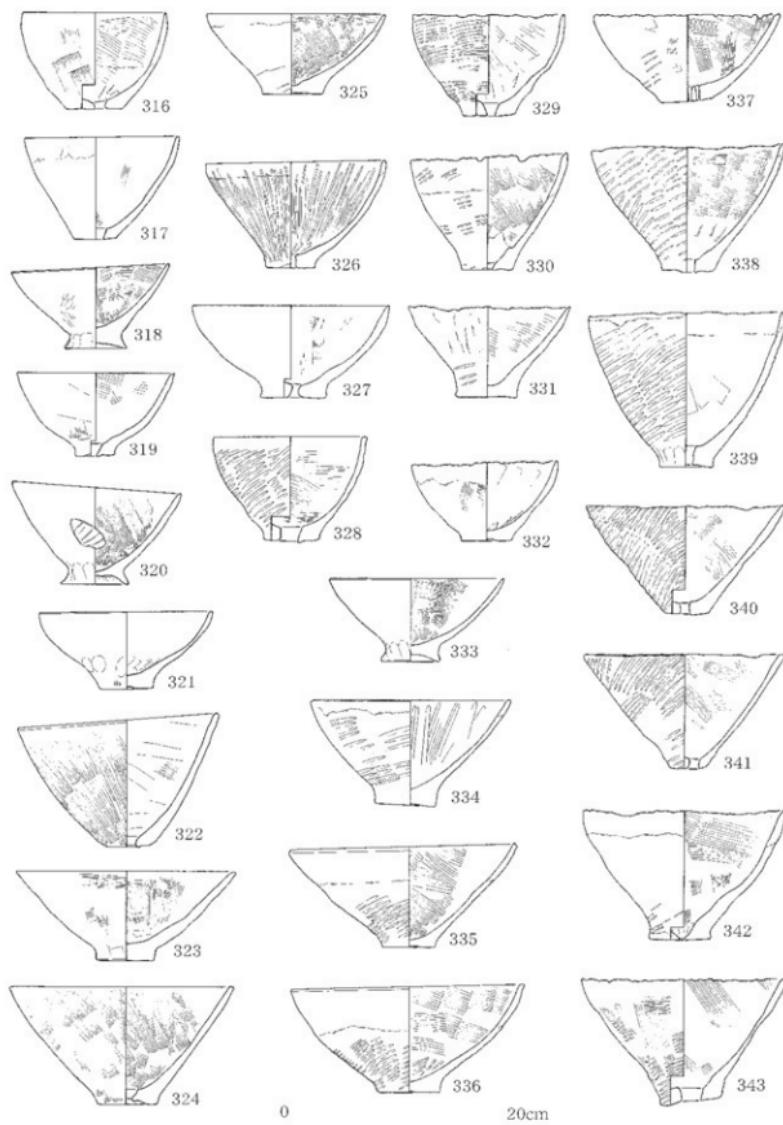
第33図 溝100出土土器実測図

364・367)、孔を穿いたもの (316・317・319・322・324・326～330・337～343・351・354・365・366)、穿孔途中のもの (353) などがあり、口縁部の形態から口縁端部を打ち欠いて終わるもの (329～332・337～367)、面をもつものの (319・324・328・334・335)、丸味をもつものの (292・317・318・320～323・325～327・333・336)、尖り気味のもの (316) などがある。292は大型に近い形態をもつ。調整は内外面共にハケメ (6/cm) 後ヘラミガキが施されるが、風化のため詳細不明。口径24.8cm、器高10.6cm、底径5.0cm。色調は内面橙色 (7.5YR6/6)、外見橙色 (7.5YR7/6) を呈する。316の調整は内外面共にハケメ (4/cm) が施される。口径11.5cm、器高8.0cm、底径4.3cm。色調は内面にぶい橙色 (7.5YR6/4)、外見灰褐色 (7.5YR6/2) を呈する。317の調整は内面ハケメ (6/cm) 後ナデ、外面にはナデ調整が施される。内外面に黒斑あり。口径12.5cm、器高8.4cm、底径3.4cm。色調は内面にぶい褐色 (7.5YR5/4)、外見にぶい褐色 (7.5YR6/3) を呈する。318の調整は内面ハケメ (8/cm)、外見にはハケメ後ナデが施される。内外面に煤付着。口径12.6cm、器高7.0cm、底径4.8cm。色調は内面にぶい黄褐色 (10YR5/4)、外見にぶい黄橙色 (10YR6/4) を呈する。319の調整は内外面共にハケ工具によるナデが施される。口径12.8cm、器高6.9cm、底径3.3cm。色調は内面にぶい褐色 (7.5YR5/4)、外見明褐色 (7.5YR5/6) を呈する。320の調整は内面ハケメ (9/cm)、外見はナデが施される。体部外面に線刻あり。口径13.5cm、器高8.4cm、底径5.3cm。色調は内面にぶい黄橙色 (10YR6/4) を呈する。321の調整は内外面共に工具によるナデが施される。外面に黒斑あり。口径14.0cm、器高6.4cm、底径4.4cm。色調は明黄褐色 (10YR6/6) を呈する。322の調整は内外面共にハケメ (7/cm) が施される。外面に黒斑あり。口径16.1cm、器高10.9cm、底径3.5cm。色調は内面褐色 (7.5YR4/4)、外見にぶい橙色 (7.5YR6/4) を呈する。323の調整は内外面共にハケメ (10/cm) が施される。口径17.8cm、器高7.4cm、底径4.6cm。色調は内面橙色 (7.5YR6/6)、外見明褐色 (7.5YR5/6) を呈する。324の調整は内外面共にハケメ (9/cm) が施される。内面に煤付着。口径17.7cm、器高9.7cm、底径4.8cm。色調は内面にぶい褐色 (7.5YR5/4)、外見にぶい橙色 (7.5YR6/4) を呈する。325の調整は内面ハケメ (8/cm)、外見にはハケメ後ナデが施される。口径14.3cm、器高6.6cm、底径4.7cm。色調は赤褐色 (5YR4/6) を呈する。326の調整は内外面共にヘラミガキが施される。口径14.4cm、器高8.8cm、底径4.0cm。色調はにぶい橙色 (7.5YR6/4) を呈する。327の調整は内外面共に工具によるナデが施されるが、著しい風化のため詳細不明。口径16.0cm、器高7.5cm、底径5.3cm。色調はにぶい褐色 (7.5YR5/4) を呈する。328の調整は内面ハケメ (4/cm)、外見タタキメ (3/cm) が施される。口径12.5cm、器高8.6cm、底径4.5cm。色調は内面にぶい橙色 (5YR6/4)、外見橙色 (7.5YR6/6) を呈する。329の調整は内面工具によるナデ、外面にはタタキメ (4/cm) が施される。外面に黒斑あり。完形。口径12.2cm、器高8.3cm、底径4.3cm。色調は内面明赤褐色 (5YR5/6)、外見浅黄橙色 (7.5YR8/3) を呈する。330の調整は内面ハケメ (9/cm)、外見タタキメ (3/cm) が施される。口径12.6cm、器高9.6cm、底径4.0cm。色調は内面褐色 (10YR4/4)、外見にぶい黄褐色 (10YR5/4) を呈する。331の調整は内面ハケメ (4/cm)、外見タタキメ後ナデが施される。口径13.2cm、器高7.5cm、底径4.7cm。色調は内面にぶい褐色 (7.5YR5/3)、外見灰黄褐色 (10YR5/2) を呈する。332の調整は内外面共に板状工具によるナデが施される。内面に黒斑あり。口径11.75cm、器高6.65cm、底径4.2cm。色調はにぶい黄橙色 (10YR6/4)・にぶい褐色 (7.5YR5/4) を呈する。333の調整は内面ハケメ (10/cm)、外見にはナデが施される。内面に煤付着。口径14.0cm、器高6.8cm、底径4.6cm。色調はにぶい黄褐色 (10YR5/4) を呈する。334の調整は内面ヘラミガキ、外見にはタタキメ (4/cm) が施される。底部に黒斑あり。口径16.2cm、器高8.7cm、底径4.7cm。色調はにぶい黄褐色 (10YR5/3) を呈する。335の調整は内面ハケメ (4/cm)、外見タタキメ (3/cm)



第34図 満100出土上器実測図

が施される。口径18.1cm、器高8.5cm、底径4.4cm。色調は内面橙色(7.5YR6/6)、外面橙色(7.5YR7/6)を呈する。336の調整は内面ハケメ(5/cm)、外面にはタタキメ(3/cm)が施される。口径18.6cm、器高8.9cm、底径4.8cm。色調は内面明黄褐色(10YR6/6)、外面黄褐色(10YR5/6)を呈する。337の調整は内面ハケメ(5/cm)、外面にはタタキメ(3/cm)後ナデが施される。外面に黒斑あり。口径14.8cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/6)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。338の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面タタキメ(5/cm)が施される。底部に失敗の孔痕あり。口径15.3cm、器高10.7cm、底径4.1cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面にぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。339の調整は内面工具によるナデ、外面にはタタキメ(2/cm)が施される。口径15.5cm、器高12.6cm、底径4.3cm。色調は黄褐色(10YR5/6)を呈する。340の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはタタキメ(2/cm)が施される。内面に黒斑あり。口径16.0cm、器高8.9cm、底径3.4cm。色調は灰褐色(7.5YR6/2)を呈する。341の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面タタキメ(3/cm)が施される。完形。口径16.2cm、器高9.4cm、底径2.8cm。色調は内面褐灰色(7.5YR5/1)、外面浅黄橙色(7.5YR8/3)を呈する。342の調整は外面ハケメ(4/cm)、外面タタキメ後ナデが施される。完形。口径16.2cm、器高10.6cm、底径4.7cm。色調は灰黄褐色(10YR5/2)を呈する。343の調整は内面ハケメ(9/cm)、外面にはタタキメ(4/cm)後ハケメ(同原体)が施される。口径16.4cm、器高10.5cm、底径4.5cm。色調は内面灰褐色(7.5YR6/2)、外面明褐灰色(7.5YR7/2)が施される。口径16.4cm、器高10.5cm、底径4.5cm。色調は内面灰褐色(7.5YR6/2)、外面明褐橙色(10YR7/2)を呈する。344は小型。調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ナデが施される。口径10.3cm、器高5.9cm、底径4.1cm。色調は橙色(5YR6/6)を呈する。345の調整は内外面共に工具によるナデが施される。口径10.9cm、器高7.6cm、底径4.5cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。346の調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはナデが施される。内面に煤付着。口径11.0cm、器高8.1cm、底径3.4cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。347の調整は内外面共にハケメ(7/cm)が施される。口径11.5cm、器高6.5cm、底径4.2cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。348の調整は内面工具によるナデ、外面にはナデが施される。外面に黒斑あり。口径11.6cm、器高5.5cm、底径4.9cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面にぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。349の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはナデが施される。口径11.7cm、器高6.0cm、底径5.2cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。350の調整は内面工具によるナデ、外面にはハケメ(8/cm)が施される。口径13.7cm、器高6.2cm、底径4.4cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/6)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。351の調整は内外面共に工具によるナデが施される。口径11.9cm、器高10.3cm、底径4.7cm。色調は内面赤褐色(5YR4/6)、外面明褐灰色(7.5YR5/6)を呈する。352の調整は内面ハケメ(7/cm)、外面は著しい風化のため詳細不明。外面体部に記号文。口径12.4cm、器高10.0cm、底径4.0cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。353の調整は内外面共に工具によるナデが施されるが、摩滅のため詳細不明。口径11.6cm、器高9.6cm、底径4.1cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。354の調整は内外面共に板状工具によるナデが施される。口径12.6cm、器高7.3cm、底径3.6cm。色調は内面褐色(10YR4/6)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。355の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面は著しい風化のため詳細不明。口径13.2cm、器高8.1cm、底径4.8cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/3)、外面にぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。356の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面著しい摩減のため詳細不明。完形。口径13.5cm、器高7.1cm、底径4.4cm。色調は内面にぶい橙色(5YR6/4)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。357の調整は内外面共にハケメ(10/cm)が施される。口径13.7cm、器高7.9cm、底径5.2cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。358は底部欠失。調整は内面ハケメ(8/cm)、外面ナデが施される。



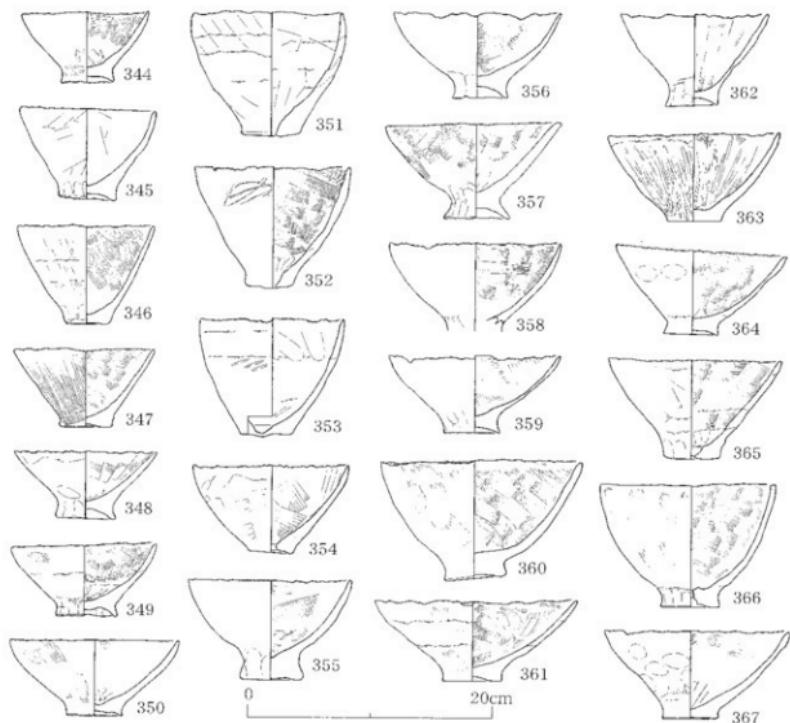
第35図 满100出土器尖測図

口径13.8cm、器高7.2cm、底径4.4cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR6/4)、外面明褐色(7.5YR5/6)を呈する。359の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはナデが施される。口径14.0cm、器高6.4cm、底径4.6cm。色調内面橙色(5YR6/6)、外面にぶい橙色(5YR6/4)を呈する。360の調整は内外面共にハケメ(9/cm)を呈する。外面に黒斑あり。完形。口径16.3cm、器高9.8cm、底径5.1cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。361の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面はナデが施される。口径16.4cm、器高6.6cm、底径4.8cm。色調はにぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。362の調整は内外面共一部にハケ状(7/cm)工具痕がみられるが風化のため詳細不明。完形。口径12.0cm、器高7.6cm、底径4.2cm。色調は橙色(5YR6/8)を呈する。363の調整は内外面共にハケメ後へラミガキが施される。外面に黒斑あり。口径13.9cm、器高7.3cm、底径4.2cm。色調は内面黄褐色(10YR5/6)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。364の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはナデが施される。口径13.9cm、器高7.45cm、底径4.4cm。色調は暗褐色(10YR3/4)を呈する。365の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはナデが施される。口径14.1cm、器高8.3cm、底径4.5cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。366の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ナデが施される。外面に黒斑あり。口径14.2cm、器高10.1cm、底径4.6cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。367の調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはナデが施される。外面に黒斑あり。口径15.0cm、器高7.15cm、底径4.5cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。

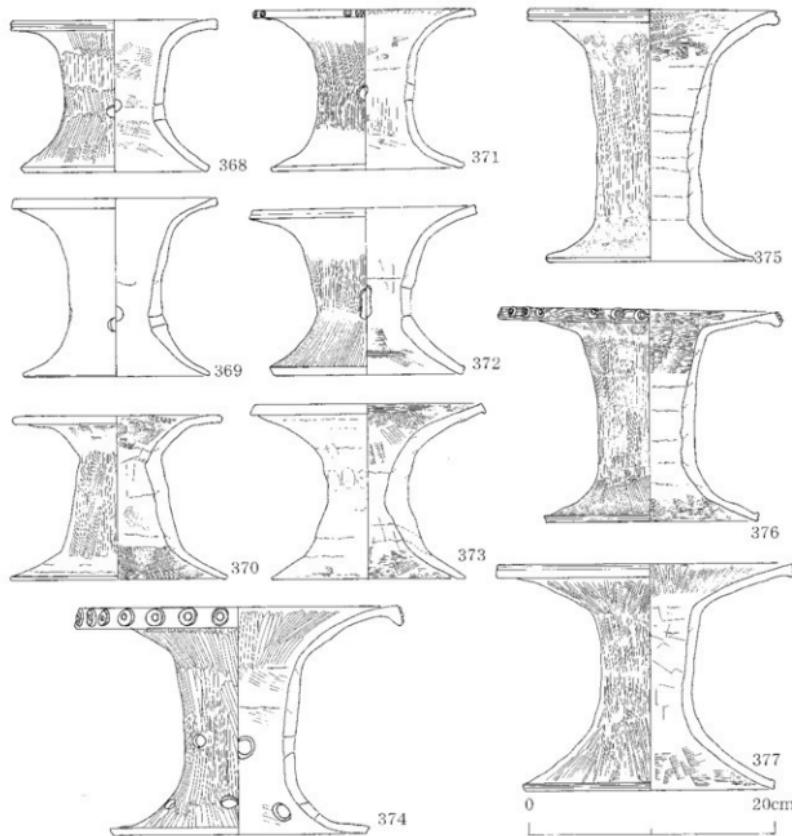
鉢B (第33・34図 285~291・293~315)

口縁端部の形態が丸くおさめるもの (285・287・288・290・294・296・297・299・301~304・307・308・312~314)、面をもつもの (286・289・291・293・295・298・300・305・306・309~311・315)、底部の形態が平底のもの(291・293~296・302・306~308)、上げ底気味のもの(285・287~290・297~299・301・303・304)、やや丸味をもつもの (286・300)などがある。285の調整は内面著しい摩滅のため詳細不明、外面にはハケメ(8/cm)が施される。口径20.0cm、器高8.8cm、底径4.4cm。色調は内面灰黄褐色(10YR5/2)、外面にぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。286の調整は内面風化のため詳細不明、外面にはハケメ(7/cm)が施される。外面に煤付着。口径20.2cm、器高11.1cm、底径5.1cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR7/3)、外面にぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。287の調整は内外面共にハケメ(7/cm)後へラミガキが施される。口径20.3cm、器高10.5cm、底径4.9cm。色調はにぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。288の調整は内外面共に著しい摩滅のため詳細不明。口径21.6cm、器高9.2cm、底径4.4cm。色調は橙色(5YR7/8)を呈する。289の調整は内面ハケメ(9/cm)後へラミガキ、外面にはハケメ(同原体)が施される。外面に黒斑あり。口径22.3cm、器高11.35cm、底径5.0cm。色調は赤褐色(5YR4/6)を呈する。290の調整は内面工具によるナデ、外面にはヘラミガキが施される。黒斑あり。口径22.6cm、器高10.8cm、底径5.4cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。291の口縁部は面をもち肥厚気味。調整は内外面共にヘラミガキが施されるが著しい摩滅のため詳細不明。外面に黒斑あり。口径24.0cm、器高9.5cm、底径5.7cm。色調は橙色(5YR6/6)を呈する。293は大型に近い形態をもつ。調整は内面工具によるナデ後へラミガキ、外面には密なヘラミガキが施される。口径26.8cm、器高20.4cm、底径9.0cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/3)、外面にぶい橙色(5YR6/3)を呈する。294は大型。調整は内外面共にハケメ(8/cm)後へラミガキが施される。口径30.1cm、器高22.2cm、底径5.1cm。色調は内面褐色(10YR4/6)、外面にぶい赤褐色(5YR5/4)を呈する。295は大型。口縁部は面をもち肥厚気味。調整は内面工具によるナデ、外面にはヘラミガキが施されるが、摩滅のた

め詳細不明。口径34.2cm、器高25.5cm、底径8.5cm。色調は橙色(5YR6/8)を呈する。296の調整は内外面共にハケメ(6/cm)が施される。内面に煤付着。口径13.0cm、器高8.8cm、底径4.9cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。297の調整は内面工具によるナデ、外面は著しい風化のため詳細不明。外面に黒斑あり。口径13.7cm、器高8.8cm、底径5.6cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。298の調整は内外面共にハケメ(9/cm)後ヘラミガキが施される。外面に煤付着。口径14.5cm、器高9.7cm、底径4.8cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面褐色(7.5YR4/4)を呈する。299の調整は内外面共にハケメ(5/cm)が施される。外面に黒斑あり。口径16.4cm、器高8.4cm、底径4.5cm。色調は内面明黄褐色(10YR6/4)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。300の調整は内外面共にハケメ(9/cm)・板状工具によるナデが施されるが、摩滅のため詳細不明。口径18.6cm、器高8.3cm、底径4.3cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR6/4)、外面にぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。301は小型。調整は内外面共にハケメ(11/cm)が施される。内面に黒斑あり。口径10.9cm、器高6.2cm、底径4.8cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。302は小型の甕の可能性あり。調整は内外面共にハケメ(8/cm)が施される。外面に煤付着。口径11.6cm、器高8.0cm、底径4.1cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面にぶい褐色



第36図 満100出土土器実測図



第37図 溝100出土土器尖測図

(7.5YR5/4) を呈する。303の調整は内外面共に板状工具によるナデが施される。口径15.2cm、器高7.9cm、底径3.3cm。色調は橙色(5YR6/8)を呈する。304の外面底部にモミ圧痕あり。調整は内外面共にハケメ(6/cm)が施されるが、外面風化のため詳細不明。口径16.0cm、器高8.4cm、底径4.7cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。305は底部欠失。調整は内面工具によるナデ、外面にはハケメ(5/cm)後タタキメ(3/cm)が施される。内面に黒斑あり、外面は煤付着。口径17.9cm。色調は内面灰色(7.5Y4/1)、外面暗灰色(N3/1)を呈する。306の調整は内面工具によるナデ、外面にはヘラミガキが施される。口径18.2cm、器高11.3cm、底径4.4cm。色調はにぶい褐色(7.5YR6/4)を呈する。307の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはタタキメ(4/cm)後ハケメ(同原体)が施される。内面に煤付着。口径18.3cm、器高9.9cm、底径5.0cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/3)、外面にぶい赤褐色(5YR5/3)を呈する。308の調整は内外面共に工具によるナデが

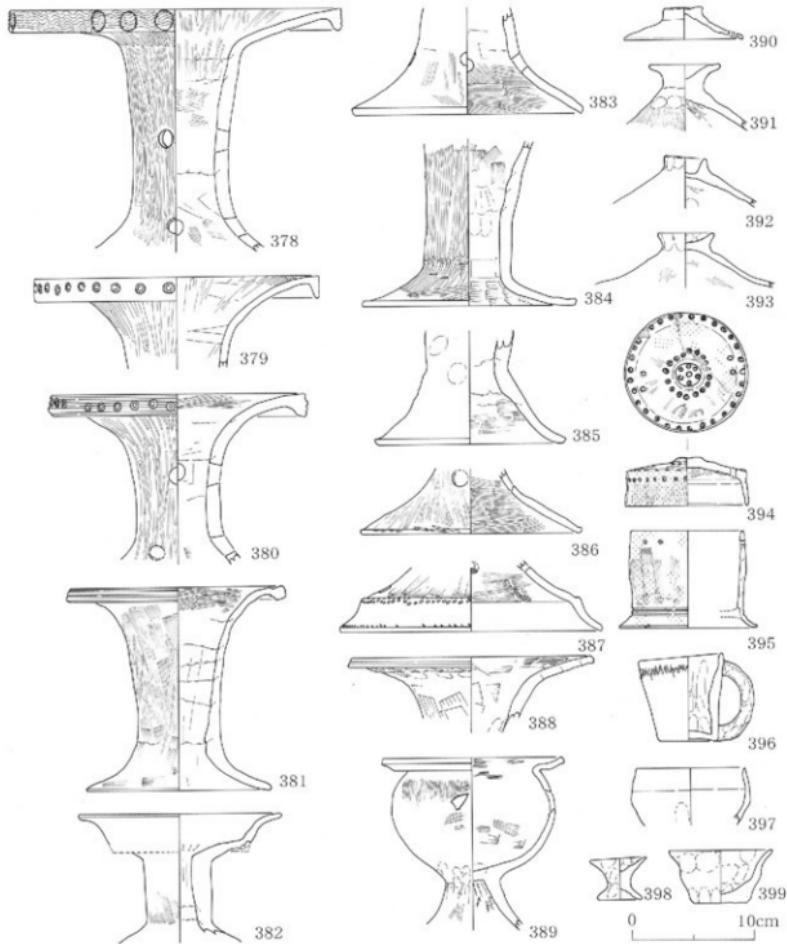
施される。内外面共に煤付着。口径18.4cm、器高9.5cm、底径4.9cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/4)を呈する。309は外面に把手がつく。調整は内面ヘラミガキ、外面にはナデが施される。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。310は大型。底部欠失。口縁部が肥厚するもの。調整は内外面共にハケメ後ヘラミガキが施される。口縁部直下に焼成後の穿孔。口径36.4cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。311の底部欠失。調整は内外面共にヘラミガキと思われるが、風化のため詳細不明。口径27.4cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/4)を呈する。312は大型。底部欠失。調整は内外面共にハケメ(7/cm)後ヘラミガキが施される。口径37.0cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。313の底部欠失。調整は内外面共にハケメ後ヘラミガキが施される。外面に煤付着。口径25.6cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。314は底部欠失。調整は内外面共にハケメ(11/cm)後ヘラミガキが施される。口径22.6cm。色調は内面赤褐色(5YR4/8)、外面橙色(5YR6/6)を呈する。315は大型。底部欠失。調整は内外面共にハケメ後ヘラミガキが施される。口径47.0cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/4)を呈する。

台付鉢（第15図 31）

ラッパ状に広がる低い台部をもち、鉢部は扁平な球形から、「く」の字形に外折する口縁部。口縁端部は面をもつ。台部に3ヶ所の円孔を穿き、口縁部には片口をもつ。調整は鉢部内外面共にハケメ(8/cm)後ヘラミガキ、台部には内外面共に同原体からなるハケメが施される。口径12.4cm、器高19.9cm、裾部径13.8cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。

器台（第37・38図 368～388）

口縁部・裾部がラッパ状に開き、中央部の狭い鼓胴形で中空をなす。30cm以上は大型とする。形態は受皿部・裾部の区別が明瞭なもの(368・369・371・372・374～377・381)、裾部から鼓部へなだらかに移行し、受け皿部境で屈曲するもの(370・378・382)、裾部から受皿口縁部までなだらかなカーブをえがくもの(373)がある。368の口縁部端面に凹線文が見られる。調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。筒部に4ヶ所の円孔を穿つ。口径16.6cm、器高12.6cm、裾部径14.6cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/3)、外面褐灰色(7.5YR6/1)を呈する。369の調整は著しい磨滅のため詳細不明。筒部に4ヶ所の円孔を穿つ。口径16.4cm、器高14.7cm、裾部径15.2cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。370の調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径16.8cm、器高13.6cm、裾部径17.4cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。371の口縁部端面に2個1单位の円形竹管文、口縁部内端面に樹脂波状文が見られる。調整は内外面共にハケメ(12/cm)が施される。筒部に4ヶ所の円孔を穿つ。口径18.0cm、器高13.2cm、裾部径15.4cm。色調はにぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。372の調整は内面ハケメ(5/cm)、外面にはヘラミガキが施される。筒部に4ヶ所の隅丸方形孔を穿つ。これは円形透かしの工具を縦2段に穿いて方形としたものと思われる。口径17.7cm、器高13.9cm、裾部径14.9cm。色調はにぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。373の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはナデが施される。口径18.2cm、器高14.4cm、裾部径15.4cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。374の口縁部端面に円形浮文に竹管文が見られる。調整は内面板状工具によるナデのちヘラミガキ、外面にはヘラミガキが施される。筒部に2段に5ヶ所ずつの円孔を穿つ。口径25.8cm、器高18.7cm、裾部径20.5cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/3)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。375の口縁部端面に1条の凹線文が見られる。調整は内外面共にハケメ(10/cm)が施される。口径19.5cm、器高20.9cm、裾部径16.4cm。



第38図 溝100出土土器実測図

色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。376の口縁部端面には円形浮文に竹管文が見られる。調整は内外面共にハケメ(8/cm)が施される。口径22.0cm、器高17.8cm、裾部径17.0cm。色調は内にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。377の口縁部端面に2条の凹線文が見られる。調整は内外面共にハケメ(4/cm)後ヘラミガキが施される。内外面に黒斑あり。口径23.7cm、器高18.6cm、裾部径20.8cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR6/4)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。378の檐端部欠失。口縁端部は下方に拡張し、端面には柳描波状文(7/1.3cm)に3個1単位の円形竹管文が見

られる。調整は内外面共にハケメ(6/cm)後ヘラミガキが施される。口径26.8cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。379の口縁部は下方に拡張し、端面には円形竹管文が見られる。調整は内面板状工具によるナデ後ヘラミガキ、外面にはヘラミガキが施される。外面に黒斑あり。他地域産。口径23.1cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。380の口縁端部は下方に拡張し、端面に凹線文と円形竹管文が見られる。調整は内面ヘラミガキ・ヘラケズリ、外面にはヘラミガキが施される。筒部に2段に4ヶ所ずつの円孔を穿つ。外面に煤付着。口径20.6cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR6/4)、外面にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。381の口縁端部は下方に肥厚し、端面に2条の凹線文が見られる。調整は内外面共にハケメ(10/cm)後ヘラミガキが施される。内外面に黒斑あり。口径17.3cm、器高16.6cm。裾部径14.6cm。色調は内面明赤褐色(5YR5/6)、外面明褐色(7.5YR5/6)を呈する。382の調整は内外面共にハケメ(10/cm)が施される。口径16.2cm。色調は明褐色(7.5YR5/6)を呈する。383は受部欠失。調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。4ヶ所の円孔を穿つ。裾部径18.6cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/6)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。384の調整は内面ハケメ(6/cm)・シボリメ、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。裾部径17.4cm。色調は内面褐色(10YR4/6)、外面にぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。385の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはナデが施される。裾部径15.2cm。色調は褐灰色(10YR4/1)を呈する。386の調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。3ヶ所の円孔を穿つ。外面に黒斑あり。裾部径17.8cm。色調は内面橙色(7.5YR6/6)、外面明褐色(7.5YR5/6)を呈する。387は裾部に2段からなるヘラによる刺突文が見られる。調整は内外面共に工具によるナデが施される。4ヶ所に円孔を穿つ。裾部径21.4cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。388は内外面共に工具によるナデが施される。円孔を穿つ。口径19.6cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。

壺蓋（第38図 390・394）

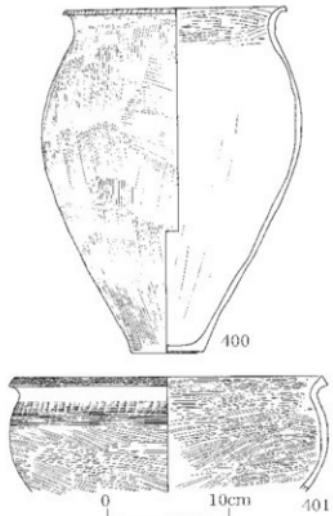
390は笠形を呈する。2孔1単位の円孔が4ヶ所に見られる。調整は内外面共に著しい風化のため詳細不明。口径9.7cm、器高2.7cm、つまみ径3.0cm。色調はにぶい褐色(7.5YR6/3)を呈する。394は395とセットになると思われる。直線的に立ち上がりの高い口縁部から、屈曲してなだらかな天井部に、つまみが退化したような盛り上がりが見られる。装飾性のある竹管文を配する。ほぼ全体に赤色顔料を付する。天井部に2孔1単位の紐孔が2ヶ所に見られる。調整は内面ハケメ(3/cm)、外面ハケメ(5/cm)が施される。口径9.9cm、器高4.0cm、つまみ径2.5cm。色調は明褐色(7.5YR5/6)を呈する。

壺蓋（第38図 391～393）

口縁部欠失する。391の調整は内外面共にハケメ(8/cm)が施される。つまみ径5.8cm。色調は内面灰黄褐色(10YR4/2)、外面にぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。392の調整は内面工具によるナデ、外面はナデが施される。つまみ径3.4cm。色調は内面にぶい赤褐色(5YR4/4)、外面にぶい黄褐色(10YR4/3)を呈する。393の調整は内外面共に工具によるナデが施される。つまみ径4.6cm。色調はにぶい赤褐色(5YR4/4)を呈する。

把手付コップ形上器（第38図 396）

やや上げ底気味の底部から、屈曲して直立する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。断面円形の把手が付く。外面口縁部に櫛描波状文(4/0.7cm)が見られる。完形。調整は内外面共にナデが施される。口径6.7cm、器高7.3cm、底径4.6cm。色調は明褐色(7.5YR5/6)を呈する。



第39図 溝100出土土器尖測図

ミニチュア土器（第38図 397～399）

397・399は鉢。397は丸味をもつ体部から、そのまま口縁部とする。調整は内外面共に工具によるナデが施される。口径8.8cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。399は平底から、なだらかに外弯する口体部。調整はユビナデが施される。口径8.3cm、器高4.3cm、底径4.3cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面にぶい黄色(2.5Y6/3)を呈する。398は高杯。調整はユビナデを施す。口径4.7cm、器高3.5cm、裾部径3.4cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。

溝100混入品（第39図 400・401）

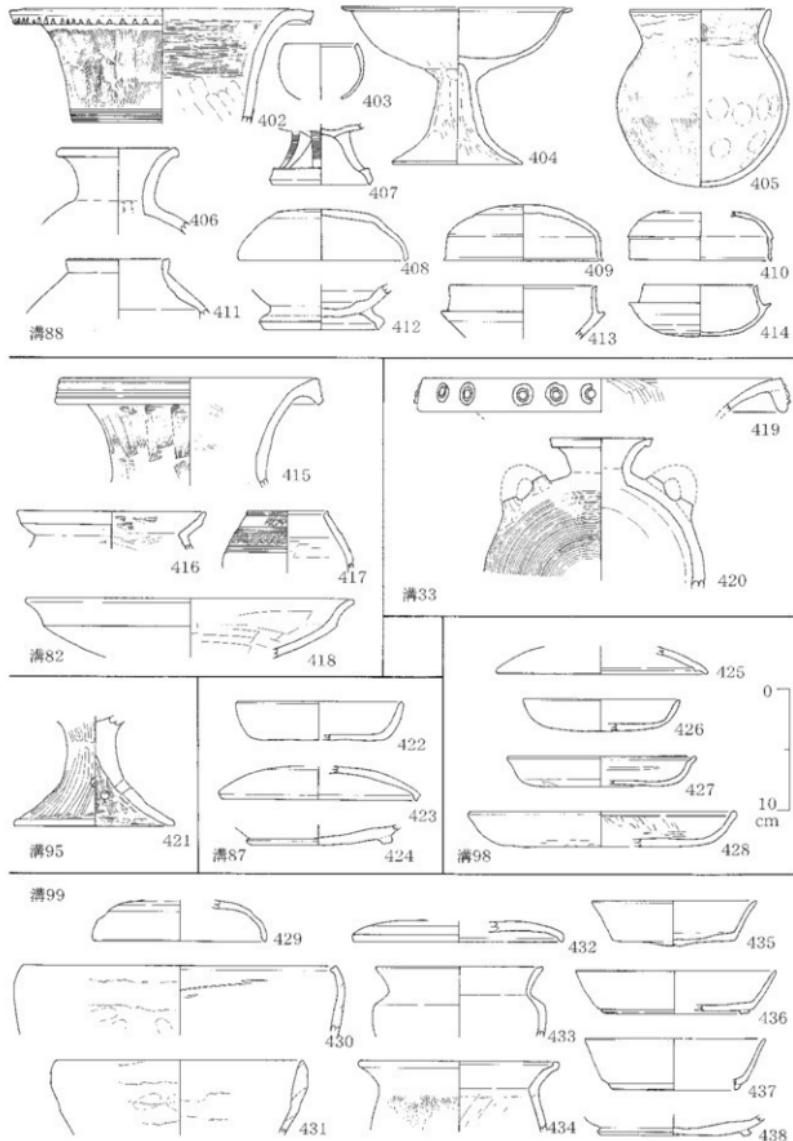
混入品として弥生第Ⅲ～Ⅳ様式に属す上器が見られる。400は壺。平底から、肩部の張る無花果形の体部に、なだらかに外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。口縁部端面にはキザミメが見られる。調整は内面口縁部ハケメ(4/cm)・体部工具によるナデ、外面にはハケメ(同原体)・底部にはヘラケズリが施される。外面に煤付着。口径17.9cm、器高28.4cm、底径5.8cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR6/3)、外面暗灰黄色(2.5Y5/2)を呈する。401は鉢。丸味をもつ体部から、なだらかに外反する口縁部、口縁端部は面をもつ。口縁部直下に柳描彫状文(11/1.2cm)・直線文(同原体)、口縁部端面に同原体による波状文が見られる。調整は内外面共にハケメ(11/cm)後ヘラミガキが施される。内外面に黒斑あり。口径25.0cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/3)、外面にぶい黄褐色(10YR6/3)を呈する。

溝33出土土器（第40図 419・420 図版80・84）

419は第V様式広口壺Aの口縁部。口縁端部は下方に拡張する。口縁部端面には円形浮文に竹管文が見られる。調整は内面にヘラミガキが施される。口径29.0cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。420は須恵器壠瓶。円形の体部に、外反する口縁部。口縁端部は下方に肥厚する。両肩に把手の痕跡が見られる。調整は外面体部にカキメが施される。口径8.4cm。色調は内面灰色(5Y6/1)、外面灰色(5Y5/1)を呈する。

溝82出土土器（第40図 415～418 図版80）

415～418は弥生第V様式に属す。415は広口壺Aの口頭部。口縁端部は下方に拡張し、口縁部端面には3条の凹線文が見られる。調整は内外面共にハケメ(11/cm)が施される。外面に黒斑あり。口径20.8cm。色調は内面橙色(5YR6/6)、外面上にぶい橙色(5YR6/4)を呈する。416は口縁部を上方につまみ上げた形態をもつ。調整は内外面共にハケメが施される。口径15.2cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR6/4)、外面上にぶい黄褐色(10YR5/4)を呈する。417は小形の無頸瓶。内傾する口体部、口縁端部は上方につまみあげ面をもつ。外面に柳描直線文・波状文(5/0.65cm)が見られる。調整は内面工具によるナデが施される。口径6.6cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。418は高杯B。口縁



第40図 溝33・82・87・88・95・98・99出土土器実測図

部が屈曲して立つ形態。調整は内面板状工具によるナデ、外面には著しい摩滅のため詳細不明。口径27.4cm。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。

溝87出土土器 (第40図 422~424 図版81)

422は上師器坏身。平底から、屈曲して直立する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。調整は外面底部にヘラケズリが施される。口径13.4cm、器高3.15cm。色調はにぶい黄橙色(10YR7/4)を呈する。423は須恵器坏蓋。丸味をもつ天井部、口縁端部は下方につまむ。調整は外面天井部(1/3)に回転ヘラケズリが施される。口径15.8cm。色調は灰色(5Y6/1)を呈する。424須恵器坏身。断面方形の高台をもつ。調整は内面底部に不定方向のナデが施される。底径10.2cm。色調は灰白色(2.5Y8/1)を呈する。

溝88出土土器 (第40図 402~414 図版79・80)

402は弥生土器広口壺。外傾する頸部から、なだらかに外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。口縁部端面下方にキザミメ、外面頸部にⅠ帯の櫛描直線文が見られる。調整は内外面共にハケメ(6/cm)が施される。口径24.6cm。色調は明赤褐色(2.5YR5/8)を呈する。403は製塩土器。丸味をもつ体部からそのまま口縁部につづく。口縁端部は面をもつ。調整は内外面共にナデが施される。口径5.9cm。色調は内面灰色(7.5Y4/1)、外面灰色(7.5Y4/1)・橙色(2.5YR7/6)を呈する。404は土師器高坪。ラッパ状にひらく脚部、坏部は椀形から口縁端部は短く外折する。調整は坏部内面風化のため詳細不明、外面ナデ、脚部は内外面共にユビナデが施される。外面に黒斑あり。口径18.4cm、器高12.9cm、裾部径10.4cm。色調は橙色(5YR7/8)を呈する。405は土師器壺。球形の体部から、なだらかに外反する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。調整は内外面共にハケメ(10/cm)が施される。外面に黒斑あり。口径11.0cm、器高14.6cm。色調は明褐色(7.5YR5/6)を呈する。406は須恵器壺瓶。外面に自然釉付着。口径9.2cm。色調は灰白色(N/)を呈する。407は高杯の脚台。「八」の字形にひろがる脚部、裾部に凸帯をもつ。台形状の透かし窓が3ヶ所に見られる。調整は外面にカキメが施される。裾部径7.9cm。色調は青灰色(5B6/1)を呈する。408~410は須恵器坏蓋。408は外面に稜をもたず、丸味をもつ形態。外面に自然釉付着。口径13.4cm、器高4.2cm。色調は内面灰白色(N8/)、外面黄灰色(2.5Y5/1)を呈する。409は外面に1条の沈線を巡らすことで、稜をなす。口縁端部は短く外折し面をもつ。調整は天井部(1/2)に回転ヘラケズリが施される。口径13.0cm、器高4.6cm。色調は内面淡黄色(2.5Y8/3)、外面灰白色(7.5Y8/1)を呈する。410は外面に短くてややあまい稜をなす。口縁端部は内側に面をもつ。調整は天井部(1/3)に回転ヘラケズリが施される。口径11.3cm。色調は内面明青灰色(5PB7/1)、外面灰赤色(10R5/2)を呈する。411は須恵器無頭壺。内傾する肩部から屈曲して、短く直立する口縁部、口縁端部は上方に面をもち凹む。外面に灰かぶり。口径8.2cm。色調は灰白色(N8/)を呈する。412は須恵器壺の底部。「八」の字形に広がる高台部、端部は内折し外方に面をもつ。内面底部に自然釉。底径9.2cm。413・414は須恵器坏身。413は水平にのびる受部、口縁部は直立。口縁端部は内側に面をもつ。調整は外面天井部に回転ヘラケズリが施される。口径12.0cm。色調は灰白色(N8/)を呈する。414はやや上方にのびる受部、口縁部は直線的に内傾しながらのびる、口縁端部は内側に面をもつ。調整は外面底部に回転ヘラケズリが施される。口径9.2cm、器高4.2cm。色調は青灰色(5PB6/1)を呈する。

溝95 (第40図 421 図版79)

弥生土器高杯の脚台。なだらかに「八」の字形に広がる裾部、裾端部は丸くおさめる。脚柱部に4ヶ所の円孔を穿つ。調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。裾

部径13.0cm。色調は内外面共ににぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。

溝98出土土器 (第40図 425~428 図版81)

425は須恵器坏蓋。消失気味のかえりが付く。調整は天井部に回転ヘラケズリが施される。口径16.9cm(15.2cm)。色調は灰色(5Y6/1)を呈する。426・427は土師器坏身。平底から、内弯しながら立ち上がる口縁部。426の口縁端部は丸くおさめる。調整は内外面共に風化のため詳細不明。口径12.6cm。色調は内面ににぶい橙色(7.5YR(6/4)、外面ににぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。427の口縁端部は内側に段をもつ。調整は内面ヘラミガキ、外面底部にはヘラケズリが施される。口径15.2cm。色調は内面ににぶい橙色(7.5YR7/4)、外面橙色(5YR6/6)を呈する。428は土師器皿。平底から内弯しながら立ち上がる口縁部。口縁端部は丸くおさめ、内側に沈線をもつ。調整は内面ヘラミガキ、外面底部にはヘラケズリが施される。口径21.4cm。色調は内面ににぶい橙色(7.5YR7/4)、外面橙色(2.5YR6/8)を呈する。

溝99出土土器 (第40図 429~438 図版82)

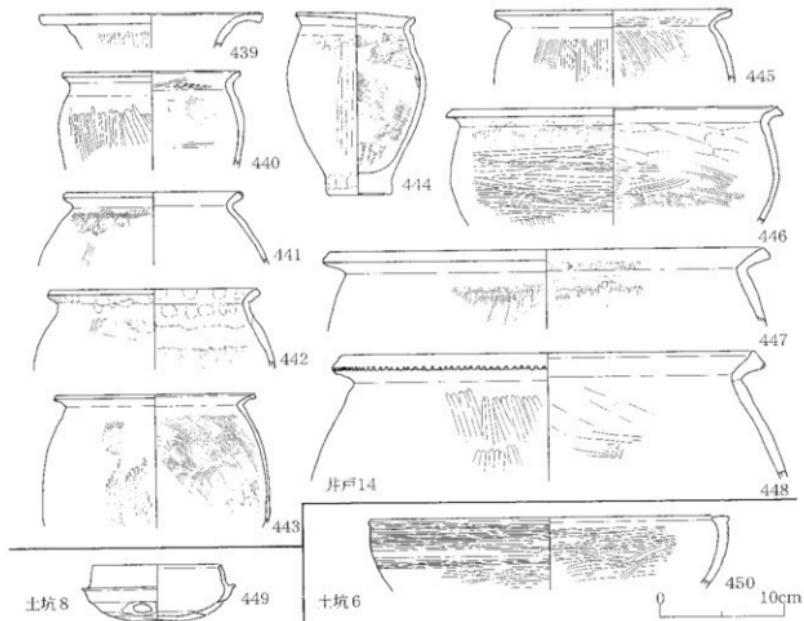
429・432は須恵器坏蓋。429は強いヨコナデによって稜をもつ。調整は外面天井部に回転ヘラケズリが施される。口径14.0cm。色調は青灰色(5B6/1)を呈する。432はやや平らな天井部、口縁端部は下方に屈曲する。調整は外面天井部に回転ヘラケズリが施される。口径16.8cm。色調は灰色(5Y6/1)を呈する。435~438は須恵器坏身。435は平らな底部から屈曲して、外反する口縁部。口縁端部は丸くおさめる。調整は内外面共に回転ナデが施される。口径17.2cm、器高3.7cm。色調は灰白色(5Y7/1)を呈する。436~438は「八」の字形に外反する、断面台形の高台をもつ。436の外面底部に爪状の圧痕が見られる。調整は内外面共に回転ナデが施される。口径16.0cm、器高3.55cm、底径11.8cm。色調は緑灰色(5G6/1)を呈する。437は底部欠失、調整は内外面共に回転ナデが施される。口径14.4cm、器高4.2cm、底径10.2cm。色調は灰白色(5N7/)を呈する。438は丸味をもつ底部。調整は内面底部に不定方向のナデが施される。底径11.1cm。色調は灰白色(7.5Y8/1)を呈する。430は土師器鉢。内弯気味に立ち上がる口縁部。口縁端部は内側に面をもつ。調整は内面ヘラミガキ、外面にはナデが施される。口径25.6cm。色調は橙色(5YR7/6)を呈する。431は製塙土器。口縁部は肥厚する。調整は内外面共にユビナデが施される。口径20.2cm。色調は灰白色(7.5Y8/1)を呈する。433・434は土師器甕。433は肩の張る体部から、口縁部は「く」の字形に外反する。口縁端部は上方に面をもつ。調整は内外面共に著しい摩滅のため詳細不明。口径13.6cm。色調は内面灰黄褐色(10YR4/2)、外面上ににぶい橙色(5YR7/4)を呈する。434は「く」の字形に外反する口縁部。口縁端部は内側につまむ。調整は内面ヘラケズリ、外面にはハケメ(11/cm)が施される。口径16.2cm。色調は内面浅黄橙色(7.5YR8/4)、外面上ににぶい橙色(7.5YR7/3)を呈する。

土坑6川出土土器 (第41図 450 図版83)

弥生土器鉢。内弯しながら立ち上がる口縁部、口縁端部は上方に面をもつ。外面に2帯の櫛描直線文が見られる。調整は内外面共にヘラミガキが施される。口径29.0cm。色調は明赤褐色(5YR 5/6)を呈する。

上坑8出土土器 (第41図 449 図版84)

須恵器坏身。水平な受部、内傾しながら立ち上がる口縁部、口縁端部は内側に面をもち凹む。底部に円孔を穿つ。調整は外面底部1/2に回転ヘラケズリが施される。口径10.3cm、器高1.75cm。色調は内面灰色(N5/)、外面灰色(N6/)を呈する。



第41図 土坑6・8・井戸14出土土器実測図

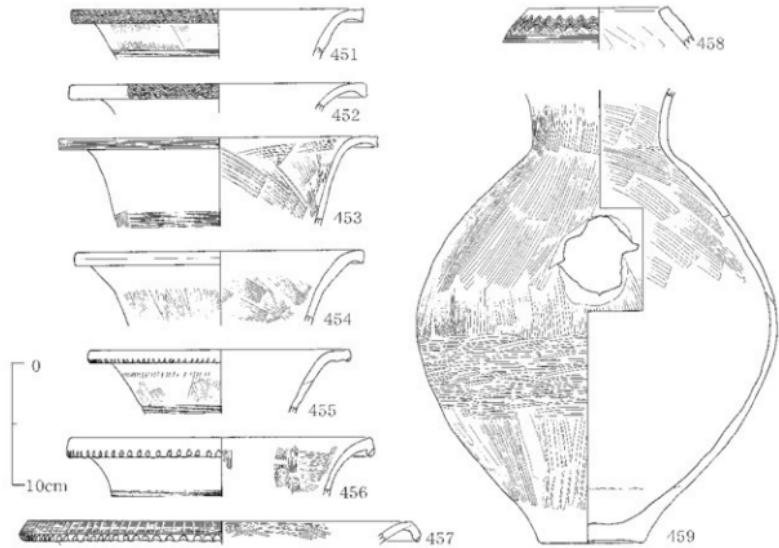
井戸14出土土器 (第41図 439~448 図版83)

439は弥生上器広口壺。大きく外凸する口縁部、口縁端部は面をもつ。調整は内面摩滅のため詳細不明、外面にはハケメが施される。口径18.0cm。色調は内面にぶい橙色(7.5YR7/4)、外面赤色(10R4/8)を呈する。440~445・447・448は弥生上器壺。440はなだらかに外反する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。調整は内面ハケメ、外面にはヘラミガキが施される。口径14.0cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面灰黄褐色(10YR4/2)を呈する。441は「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は面をもち、上端にキザミが見られる。調整は内面風化のため詳細不明、外面にはハケメ(8/cm)が施される。口径14.0cm。色調は内面灰黄褐色(10YR4/2)、外面褐色(7.5YR4/3)を呈する。442は「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は面をもち終わる。調整は内外面共に板状工具によるナデが施される。口径16.6cm。色調は内面明赤褐色(2.5YR5/8)、外面橙色(2.5YR6/6)を呈する。443は「く」の字形に外折する口縁部、口縁端部は上方につまみ上げる。調整は内外面共にハケメ(10/cm)が施される。口径16.0cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR7/2)・灰色(5Y4/1)、外面暗灰黄色(2.5Y5/2)を呈する。444は小型の甕。完形。平底から丸味をもつ体部、口縁部は短く外反する。調整は内面ハケメ(8/cm)、外面にはヘラミガキが施される。外面に煤付着。口径9.3cm、器高15.0cm、底径4.8cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR7/4)、外面淡橙色(5YR8/4)を呈する。445は「く」の字形に外折する口縁部、口縁端部は上方につまみ上げる。調整は内外面共にハケメ(5/cm)が施される。口径19.0cm。色調は暗灰黄色(2.5Y5/2)を呈する。447・448は大型の甕。「く」の字形に外折する口縁部、口縁端部は肥厚し面をもつ。447の調整は内外面共にハケメ(7/cm)が施される。口径35.0cm。

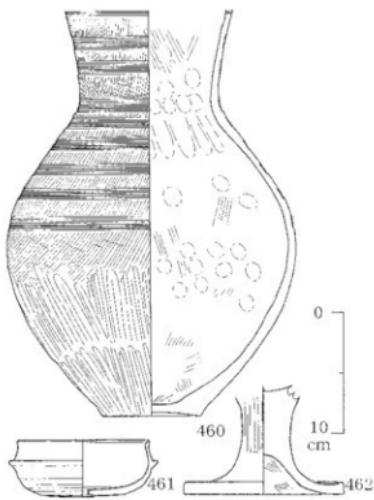
色調は内面浅黄色(2.5Y7/3)、外面灰白色(5Y8/1)を呈する。448は口縁部下端にキザミが見られる。調整は内面ハケメ(4/cm)、外面にはヘラミガキが施される。口径33.0cm。色調は内面明赤褐色(5YR5/6)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。446は弥生土器鉢。丸味をもつ体部に、なだらかに外弯する口縁部、口縁端部は外方に面をもつ。調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。口径26.0cm。色調は内面暗灰黄色(2.5Y5/2)、外面灰黄色(2.5Y6/2)を呈する。

土坑30出土土器 (第42図 451~459 図版84・85)

451~457は広口壺、口縁端部を下方に拡張するもの(452・456・457)、口縁端部をわずかに肥厚するものの(451・453~455)、口縁端部下端にキザミをもつもの(455~457)がある。451は口縁端面に柳描波状文、頭部に同原体からなる直線文が見られる。調整は内面ナデ、外面にはハケメ(7/cm)が施される。口径23.6cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。452は口縁端面に柳描波状文が見られる。調整は内外面共にナデが施される。口径23.6cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい赤褐色(5YR5/4)を呈する。453は口縁端面に柳描直線文、頭部に同原体からなる直線文(10.14cm)が見られる。調整は内面にハケメ(4/cm)、外面にはナデが施される。口径25.8cm。色調は内面明褐色(7.5YR5/6)、外面褐色(10YR4/6)を呈する。454は無文。調整は内外面共にハケメ(7/cm)が施される。口径23.2cm。色調は内面灰黄褐色(10YR5/2)、外面灰黄褐色(10YR4/2)を呈する。455は口縁部下端・頭部にヘラによるキザミ、柳描直線文が見られる。調整は内面摩滅のため詳細不明、外面にはハケメ(6/cm)が施される。口径21.0cm。色調は内面概色(5YR6/6)、外面にぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。456は口縁部下端にキザミ、頭部には柳描直線文が見られる。調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはナデが施される。口径24.4cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈す



第42図 土坑30出土土器実測図



第43図 ピット136・171・183出土土器実測図

る。457は大型の壺。下方に拡張された口縁端面に櫛描籠状文、下端部にはヘラによるキザミメが見られる。調整は内面ヘラミガキ、外面にはナデが施される。口径31.2cm。色調は内面褐色(10YR4/6)、外面にぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。458は無頸壺。内傾する体部から口縁部につづく、口縁端部は面をもちおわる。外面に櫛描波状文(7/1.2cm)・同原体による直線文が見られる。調整は内面工具によるナデ、外面にはハケメ(7/cm)が施される。口径11.2cm。色調は内面灰色(5Y6/1)、外面橙色(7.5YR6/6)を呈する。459は口縁部欠失の壺。体部に大きな孔を穿つ。祭祀用か。外面に黒斑あり。調整は内面ハケメ(6/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。底径7.9cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR4/3)、外面にぶい赤褐色(5YR4/4)を呈する。

ピット136出土土器 (第43図 461 図版91)

須恵器坏身。水平な受部、直線的に内傾する口縁部、口縁端部は内側に沈線をもつ。調整は内面底部に一定方向のナデ、外面には底部2/3に回転ヘラケズリが施される。口径10.6cm、器高4.6cm。色調は内面灰色(N6/)、外面灰白色(5Y7/1)を呈する。

ピット171出土土器 (第43図 462 図版84)

弥生上器高杯の脚台から蓋への転用品と思われる。中実の脚柱部に、なだらかに外弯する裾部、裾端部は面をもちおわる。調整は内外面共にハケメ後ナデが施される。裾部径12.8cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)・橙色(2.5YR6/8)を呈する。

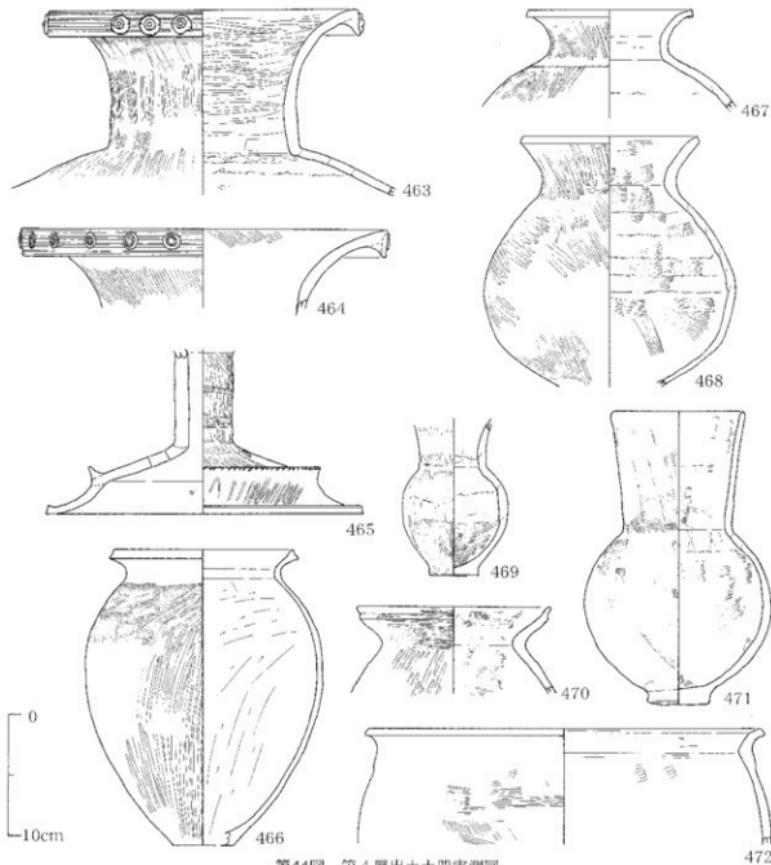
ピット183出土土器 (第43図 460 図版84)

弥生土器壺。口縁部を欠失。外面頸部から体部最大径まで櫛描直線文(9/1.1cm)が見られる。外面に黒斑あり。調整は内面ハケメ後ナデ、外面にはハケメ(9/cm)後ヘラミガキが施される。底径8.0cm。色調は黄褐色(10YR5/6)を呈する。

第4層出土土器 (第44・45図 463~488 図版86~89)

弥生土器広口壺(463・464・467・468)・器台(465)・長頸壺(469・471)・甕(470・472)、土師器坏身(473)、小型丸底壺(474)・皿(475)・羽釜(476)、須恵器鉢(477)・高杯(478・482・483)・坏蓋(479)・杯身(480・481)・甕(484)、製塙土器(485~488)がある。

弥生土器広口壺(463・464・467・468) 463は筒状の頸部から大きく外反する口縁部、口縁端部は下方に拡張する。口縁部端面に4条の凹線文と3個1単位を5ヶ所に円形浮文と竹管文が見られる。内面に黒斑あり。調整は内外面共にヘラミガキが施される。口径24.6cm。色調は内面赤褐色(5YR4/6)、外面明褐色(7.5YR5/6)を呈する。464の口縁端部は下方に拡張する。口縁部端面に4条の凹線文と円形



第44図 第4層出土土器実測図

浮文・竹管文が見られる。外面に赤色顔料が見られる。調整は内外面共にハケメ(5/cm)が施される。口径29.6cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/4)を呈する。467は短く立ち上がる頸部、なだらかに外反する口縁部、口縁端部は面をもち、上下にわずかに肥厚する。肩部に1条の沈線文が見られる。調整は内面ナデ、外面にはヘラミガキが施される。口径13.0cm。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。468は底部欠失。球形の体部から、なだらかに外反する口縁部、口縁端部は外方に面をもつ。外面に黒斑あり。調整は内面ハケメ(10/cm)、外面にはハケメ後ヘラミガキが施される。口径14.0cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面にぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。

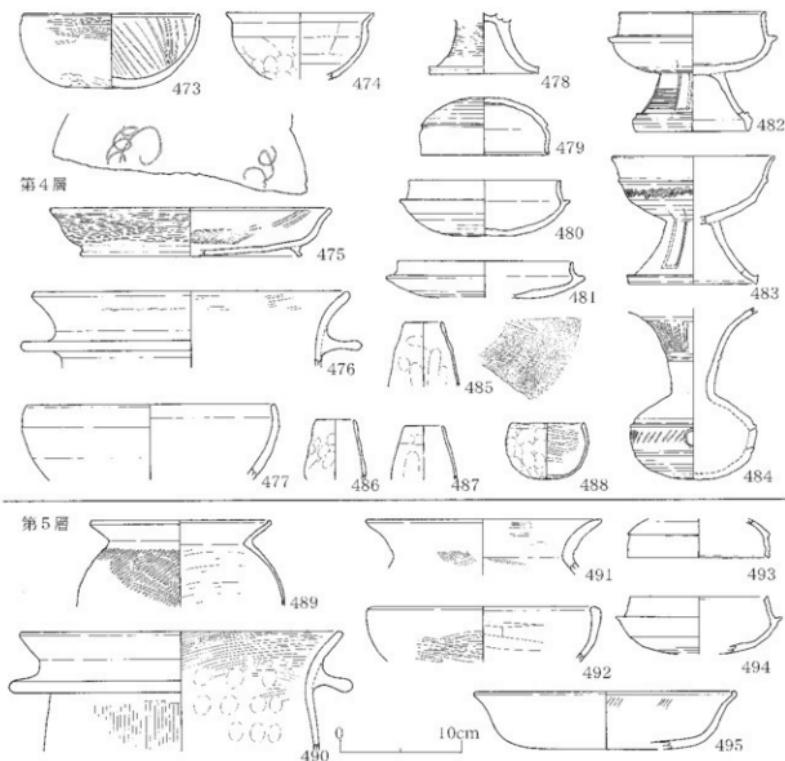
弥生土器長頸瓶(469・471) 469は小型の壺。口縁部を欠失。調整は内面ハケメ(7/cm)、外面にはハケメ(同原体)後ヘラミガキが施される。外面に黒斑あり。底径3.9cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR6/4)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。471は平底に球形の体部、口頸部は直線的に外方

にひろがる。外面に黒斑あり。調整は内外面共にハケメ(10/cm)後ナデが施される。口径10.4cm、器高24.1cm、底径5.0cm。色調は内面灰黄色(2.5Y6/2)、外面明褐色(7.5YR5/6)を呈する。

弥生土器器台(465) 細い筒状の脚柱部、縁部境に1条の凸帯にキザミメが見られる。脚柱部には4条の沈線文がある。調整は内面磨滅のため詳細不明、外面ヘラミガキが施される。縁部径25.6cm。色調は内面にぶい黄褐色(10YR5/4)、外面明褐色(7.5YR5/6)を呈する。

弥生土器甕(466・470・472) 466は無花果形の体部、なだらかに外反する口縁部、口縁端部は上下に肥厚する。外面に煤付着。調整は内面ヘラケズリ、外面にはハケメ(12/cm)後ヘラミガキが施される。口径14.4cm、器高24.3cm、底径4.8cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/4)、外面にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。470は「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は外方に段をもつ。調整は内面ハケメ、外面にはハケメ後タタキメ(2/cm)が施される。口径15.6cm。色調は内面にぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。472は大型の甕。「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は面をもちわる。調整は内外面共にハケメ(6/cm)後ナデが施される。口径31.8cm。色調は黄褐色(10YR5/6)を呈する。

土師器环身(473) 丸味をもつ底部から、内湾しながら立ち上がる口縁部、口縁端部は内側に段を



第45図 第4層・第5層出土土器実測図

もつ。外面に黒斑あり。調整は内面に放射状の暗文、外面にはヘラミガキ・ヘラケズリが施される。口径14.3cm、器高6.1cm。色調は橙色(5YR6/6)を呈する。

土師器小型丸底壺(474) 丸味をもつ体底部、口縁部は外折する。外面に黒底あり。調整は内外面共にナデが施される。口径12.0cm、色調は内面橙色(5YR7/6)、外面橙色(2.5YR6/8)を呈する。

土師器皿(475) 「ハ」の字形に外反する高台をもつ。平底から外反しながら立ち上がる口縁部、口縁端部は内側に沈線をもつ。内面底部にはラセン状の暗文がみられる。調整は内面2段からなる放射状暗文、外面にはヘラミガキが施される。口径22.6cm、器高4.0cm、底径18.0cm。色調は内面橙色(7.5YR7/6)、外面橙色(5YR7/8)を呈する。

土師器羽釜(476) なだらかに外反する口縁部に、水平に锷がつく。調整は内面ハケメ後ナデ、外面にはナデが施される。口径25.4cm。色調はにぶい褐色(7.5YR5/4)を呈する。

須恵器鉢(477) 外傾しながら立ち上がる体部、口縁部は短く直口する。調整は内外面共に回転ナデが施される。口径20.0cm。色調は内面灰色(N 6/)、外面灰白色(N 7/)を呈する。

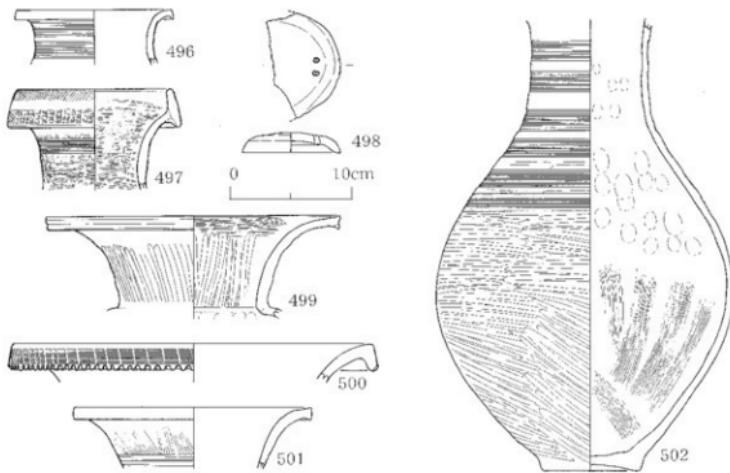
須恵器高坏(478・482・483) 478は脚台。なだらかに外反する裾部、裾端部は面をもち凹む。調整は内面回転ナデ、外面にはカキメが施される。裾部径9.8cm。色調は灰白色(7.5Y8/2)を呈する。482は無蓋高坏。丸味をもつ坏部、口体部境に退化気味の稜が見られる。稜下に櫛描波状文(7/0.8cm)、脚台には4ヶ所の台形状透かし窓が見られる。調整は坏部外面2/3に回転ヘラケズリを施す以外は、内外面共に回転ナデが施される。口径13.2cm、器高10.5cm、裾部径10.4cm。色調は内面オリーブ黒色(7.5Y3/1)、外面暗灰色(N 3/)を呈する。483は有蓋高坏。扁平な坏部から、水平な受部、内傾する口縁部、口縁端部内側に沈線をもつ。脚部は「ハ」の字形にひろがる脚柱部、裾部境に1条の凸帯、3方向からなる台形状の透かし窓が見られる。調整は外面坏底部1/2に回転ヘラケズリ、脚部にはカキメが施される。口径11.8cm、器高9.8cm、裾部径9.2cm。色調は灰色(N 6/)を呈する。

須恵器坏蓋(479) 丸味をもつ天井部から、ややにぶい稜、口縁端部は段をもつ。調整は内面天井部に不定方向のナデ、外面天井部には回転ヘラケズリが施される。口径10.2cm、器高4.7cm。色調は灰色(N 6/)を呈する。

須恵器坏身(480・481) 480は丸味をもつ底部から、水平な受部、口縁端部は上方に面をもつ。外面に自然釉がみられる。調整は外面天井部に回転ヘラケズリが施される。口径12.2cm、器高4.6cm。色調は内面灰色(N 6/)、外面灰白色(N 7/)を呈する。481は扁平な形態をもつ。受部は水平に、口縁部は短く上方に立ち上がる。外面底部にヘラ記号が見られる。調整は内面底部一定方向のナデ、外面1/2には回転ヘラケズリが施される。口径14.0cm。色調は内外面共に灰色(5Y5/1)を呈する。

須恵器瓶(484) 球形の体部から、肩曲して大きく外方に広がる頸部。口縁部は欠失。頸部にヘラによる直線文と凹線文、体部に中央に2条の凹線文とその間に円孔とクシ工具による列点文が見られる。調整は外面底部に回転ヘラケズリが施される。体部最大径10.3cm。色調は内面灰色(N 5/)、外面灰色(N 6/)を呈する。

製塙上器(485～488) 485～487は直線的に内傾する口体部、口縁端部はやや尖り気味におわる。485の調整はユビナデが施されるが、磨滅のため詳細不明。口径3.0cm。色調は灰白色(10YR8/2)・淡橙色(5YR8/4)を呈する。486は内面ユビナデ、外面には工具によるナデが施されるが、磨滅のため詳細不明。口径3.2cm。色調は灰白色(7.5Y8/1)を呈する。487は内外面共にナデが施されるが、磨滅のため詳細不明。口径3.0cm。色調は内面灰白色(10YR8/2)、外面浅黄橙色(7.5YR8/6)を呈する。488は球形をなす。調整は内面貝殻条痕、外面にはユビナデが施される。口径5.8cm、器高4.6cm。色調は灰白色(2.5Y8/2)・橙色(5YR7/8)を呈する。



第46図 第5層・第5層～第6層・第6層出土土器尖測図

第5層出土土器（第45・46図 489～496 図版89・90）

弥生土器壺、土師器甕・羽釜・鉢・坏身、須恵器坏蓋・坏身などが出土した。

弥生土器壺(496) なだらかに外弯する口縁部、口縁端部は面をもち下方に拡張する。頸部には櫛直線文(10/1.3cm)が見られる。調整は著しい摩滅のため詳細不明。口径12.5cm。色調はオリーブ黒色(7.5Y3/1)・浅黄橙色(10YR8/3)を呈する。

土師器甕(489) 丸味をもつ体部から、「く」の字形に外折する口縁部、口縁端部は上方につまみ上げる。調整は内面ヘラケズリ、外面にはタタキメ(5/cm)後ハケメが施される。口径14.4cm。色調は内面灰白色(10YR8/2)、外面黄灰色(2.5Y6/1)を呈する。

土師器羽釜(490・491) 490はなだらかに外反する口縁部に、短い鉗が付く。外面に煤付着。調整は内外面共にハケメ(4/cm)が施される。口径26.2cm。色調は橙色(7.5YR6/8)を呈する。491は口縁部。なだらかに外反する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。調整は内外面にハケメ(9/cm)が施される。口径19.0cm。色調はにぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。

土師器鉢(492) 内傾しながら立ち上がる口部、口縁端部は肥厚し、上方に面をもつ。調整は内面工具によるナデ、外面にはヘラミガキが施される。口径18.0cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。

土師器坏身(495) 平底から内弯しながら立ち上がる体部、口縁部は外傾し、口縁端部は内側に沈線をもつ。調整は内面ヘラミガキ、外面底部ヘラケズリが施されるが、著しい風化のため詳細不明。口径21.2cm。色調は橙色(5YR7/6)を呈する。

須恵器坏蓋(493) 稜はややにぶく、口縁部は短く直口し、口縁端部は内側に面をもつ。調整は外面天井部に回転ヘラケズリが施される。口径11.6cm。色調は灰白色(N 5/0)を呈する。

須恵器坏身(494) ほぼ水平な受部から、直線的に内傾しながら立ち上がる口縁部、口縁端部は内側に面をもち凹む。調整は外面底部2/3に回転ヘラケズリが施される。口径11.2cm。色調は灰白色

(5Y8/1)を呈する。

第5～6層出土土器 (第46図 498～500・502 図版89・90)

弥生Ⅲ～Ⅳ様式に属す壺蓋・広口壺が出土した。

壺蓋(498) 天上部がわずかに丸味をもち、屈曲して外反気味の口縁部がつく。天上部に2孔1単位の紐孔が見られる。口径4.0cm、器高1.6cm。色調は内面淡黄色(2.5Y8/3)・淡橙色(5YR8/4)、外面淡黄色(2.5Y8/3)を呈する。

広口壺(499・500・502) 499は大きく外方に外反する口縁部、口縁端部は面をもち凹む。調整は内外面共にヘラミガキが施される。口径23.8cm。

色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい黄褐色(10YR5/4)を呈する。500はなだらかに外反する口縁部、口縁端部は下方に拡張し、外方に面をもつ。口縁部端面には柳描簾状文(7/1.2cm)、下端部にはヘラによるキザミメが見られる。調整は著しい摩滅のため詳細不明。口径29.0cm。色調は黄橙色(10YR7/8)・にぶい黄褐色(10YR5/3)を呈する。502は口縁部を失し、上げ底の底部から、球形の体部をもち、頸部は細長く直立する。外面頸部に柳描直線文(14/1.7cm)が見られる。調整は内面ユビナデ・ハケメ、外面にはヘラミガキが施される。底径7.8cm。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。

第6層出土土器 (第46図 497・501 図版90)

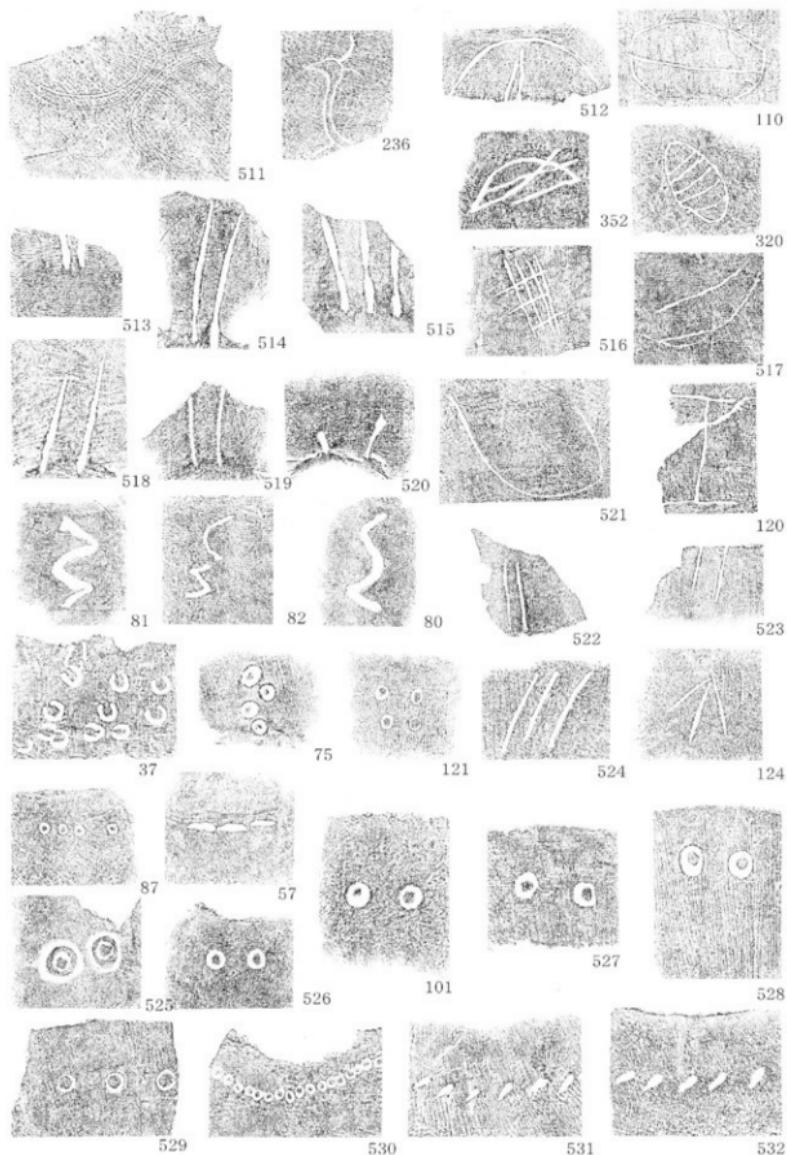
共に弥生Ⅲ～Ⅳ様式に属す広口壺。497は筒状の頸部から、なだらかに外弯する口縁部、口縁端部は上方に拡張し施文帶とする。口縁拡張部には簾状文手法の斜列点文・柳描簾状文(9/1.3cm)、頸部に同原体による直線文、頸体部境に斜列点文が見られる。外面に黒斑あり。調整は内面ヘラミガキ、外面にはハケメが施される。口径12.4cm。色調は明赤褐色(5YR5/6)を呈する。501はなだらかに外反する口縁部、口縁端部は面をもちおわる。頸部に柳描直線文が見られる。調整は内面摩滅のため詳細不明、外面にはハケメ(7/cm)が施される。口径19.2cm。色調は内面にぶい黄色(2.5Y6/3)、外面にぶい黄橙色(10YR7/4)を呈する。

側溝出土土器 (第47図 503～510 図版84・91)

弥生土器台付鉢(503) 平底から中実の脚柱部、楕円形の鉢部。口縁端部は面をもつ。調整は内面板状工具によるナデ後ヘラミガキ、外面にはヘラミガキが施されるが、風化のため詳細不明。口径12.0cm、器高9.5cm、底径6.4cm。色調は灰白色(10YR8/2)を呈する。

弥生土器高壺(504) 壺部が楕円形を呈し、口縁端部は上方に面をもつ。口縁部外面に簾状文手法の斜列点文が見られる。内面に黒斑あり。調整は内外面共にヘラミガキが施される。口径17.0cm。色調は内面黄褐色(2.5Y5/3)、外面黒褐色(2.5Y3/1)を呈する。

弥生土器壺(505・508) 505の口縁部は短く外反し、口縁端部は下方につまむ。調整は内外面共



第48図 絵画文・記号文のある土器拓影

にハケメ(5/cm)が施される。口径21.0cm。色調は暗灰黄色(2.5Y5/2)を呈する。508は丸味をもつ体部から、「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は面をもつ。調整は工具によるナデが施される。口径13.6cm。色調は内面黄褐色(2.5Y5/3)、外面にぶい黄褐色(10YR5/4)を呈する。

弥生土器鉢(509・510) 509は平底から、内湾気味に立ち上がる口体部、口縁端部は内側に面をもつ。調整は内外面共にヘラミガキが施される。口径14.0cm、器高9.7cm、底径3.2cm。色調は内面にぶい褐色(7.5YR5/4)、外面にぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。510は上げ底気味の底部から、直線的に外方に広がる口体部、口縁端部は尖る。調整は内外面共にナデが施される。口径11.8cm、器高5.5cm、底径3.8cm。色調は暗灰黄色(2.5Y4/2)を呈する。

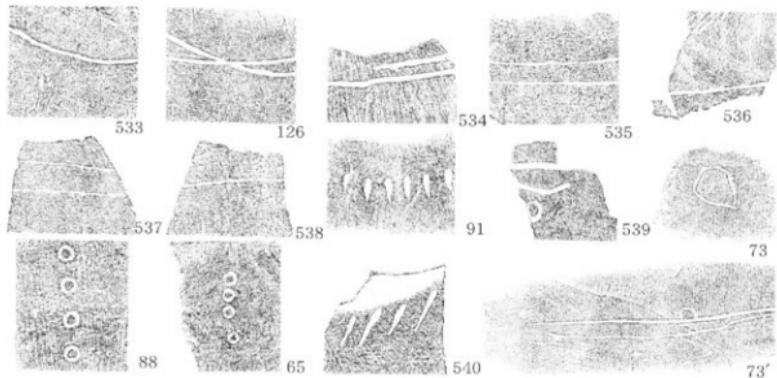
須恵器坏蓋(506) やや偏平な天部から、口縁端部は下方につまみ出される。調整は内外面共に回転ナデが施される。口径16.5cm。色調は灰白色(N8/)を呈する。

須恵器坏身(507) 斜面台形を呈する高台をもつ。外面に自然軸付着。調整は内面底部に不定方向のナデ、外面底部には回転ヘラケズリが施される。底径11.0cm。色調は内面灰白色(N8/)、外面灰色(5Y4/1)を呈する。

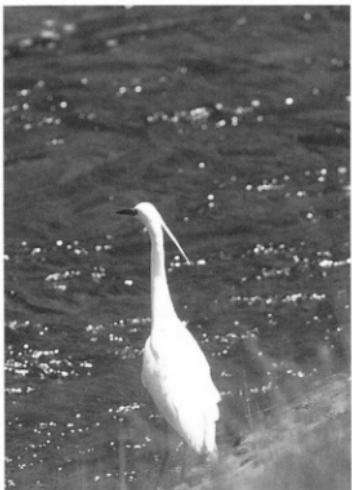
2) 絵画文・記号文のある土器 (第48・49図 図版93~95)

本遺跡において絵画文・記号文を付加する土器が多数出土した。これらはヘラ描・クシ描・竹管文・浮文など、種々の施文法による記号的图形を、土器の一部に施す手法がみられる。これらを⑥～①の6タイプに分類をこころみた。⑥は典型的な絵画文といえるもの、⑥はヘラ工具を使って1個体の記号をつくりだすもの、⑦は竹管・ヘラなどの工具を使って文様原体による1単位の記号をつくりだすもの、⑧は竹管などの工具をつかって装飾的な文様的要素を一部分につくりだすもの、⑨は竹管・ヘラなどの工具を使って器体を一周する文様的要素をつくりだすもの、⑩はヘラなどの工具をつかって器体を一周する直線文をつくりだすもの、など以上のことを基準に分類をおこなった。ただし、遺物は満100出土にかぎり、また拓影はすべてにおいては掲載していない。

⑥タイプは2個体見られる。236は壺の体部上半に絵画をヘラによって描く。絵画の全形は土器が欠損しているので不明であるが、鳥の上半部と考えられる。頭部より尖るように嘴を描く。眼の表現はない。頭部は細長く体部へと統き、体部は頭部と同様の幅で終わる。足は1本が残っており、指



第49図 絵画文・記号文のある土器拓影



冠羽のある白サギ

表現は認められない。また、後頸部より2本の線が描かれている。これは、冠羽の表現と思われる。頸部が長く表現されていることからコサギやアオサギなどのサギ類や鶴などの水鳥と考えられる。また、2本の冠羽をもつ水鳥はコサギやアオサギなどがあり、コサギを描いたのであれば夏羽を描いたとも考えられる。511は壺の体部中央に線刻による不明な絵画が見られる。

⑥タイプは22個体見られる。78は唯一壺の口縁部内面に、半円を2つ描いたような線刻が見られる。110・318・350・512は楕円もしくは、楕円に直線をプラスする線刻がみられる。110・512壺体部中央、318・350は鉢体部に線刻が見られる。80～82は壺の体部上部に稻妻のような記号がヘラで施されている。233・514・518・515・519・513は直線2～3本を壺または壺の底部脇から体部にかけて線刻が見られる。120・124・522・523・516・517・520・521は直線を2～3本並べ、523・522・517は壺の肩部に124は壺体

部中央に線刻が見られる。516は格子状の線刻が壺肩部に見られる。

⑦タイプは10個体見られる。37・75・101・526・527は壺の頸部に2～9個の竹管による記号、57・87は頸体部境にヘラまたは竹管で3個の記号、121・524・525は壺の体部に2～4個の竹管による記号が見られる。

⑧タイプは7個体見られる。壺の頸体部境を横一列または頸部縦一列に竹管およびヘラによる文様が見られる。58・65・88・94は壺の頸部に竹管で縦一列4～10個を押圧する文様が見られる。69・72・91は壺の頸体部境にヘラで横一列4～10個を刻む文様が見られる。

⑨タイプは4個体見られる。壺の頸部・肩部に円形竹管文を連続して施すもの528・529、壺の肩部にヘラによる文様を連続して施すもの530・531が見られる。

⑩タイプは7個体見られる。壺の肩部に1・2周ヘラによる直線文がめぐるもの126・532・535、壺の頸部にヘラによる直線文がめぐるもの533・534・536・537が見られる。

その他に73は壺の頸体部境に⑥タイプに属すヘラによる円形文と体部には同じく⑥タイプと⑦タイプに属すヘラによる直線文、538は壺の頸体部境に⑥タイプに属すヘラによる円形文と⑦タイプに属すヘラによる直線文が見られる。

3) 溝100出土の生駒西麓産土器

今回、溝100内より弥生時代後期前半の良好な土器が出土したので、各器種ごとに生駒西麓産と非河内産の比率をだした。器種は壺や甌などのように大きく分けた。産地の識別は角閃石の有無で生駒西麓産と非河内産に分けた。また、スコープ（倍率30倍の実体鏡）で角閃石を含むのが確認されたものは生駒西麓産とした。個体数のカウントは口縁部でおこない、破片や完形に関係なく1点とした。集計の結果は表2に記した。合計2292点の内、非河内産は9点を数えるだけであつてほとんどが生駒西麓産であった。

4) 石製品 (第50図 541~554 図版
92)

出土した石器資料は、総数127点 (1839.47 g) を採集した。このうち打製石器は118点 (1472.13 g)、磨製石器8点 (284.16 g)、砥石1点 (83.18 g) である。遺物のほとんどは第5層 (34点)・第4層 (14点)・溝100 (22点)・土坑14 (11点) からである。本石器資料の相対年代は共伴土器に準ずる。

石器の用途としては、武具・狩猟具・祭祀・工具・農具・紡織具などがあげられるが、このうち石鎌・石槍は狩猟と併用、農具には石庖丁・工具には石錐・砥石・紡織具には紡錘車などがあげられる。その他にサヌカイトの素材剥片のなかに削器とみられるものが認められる。

以下、打製石器に関しては石器タイプの分類を試み、分類項目の特徴を記載する。磨製石器に関しては各器種ごとに個別の資料の特徴を記載する。各個体の法量・詳細などは[表3・4]にまとめた。

打製石器 (第50図 541~546)

石鎌 (541・542) 541は平基式。先端部・片側側縁側辺の欠失。断面は先端部両凸、基部台形をなす。横形剥片。542は円基式。先端部は使用による欠失。基部に著しい摩滅が見られる。断面両凸。

石錐 (543・544) 頭部と錐部の境は明瞭であるが、頭部にほどんど調整がみられない。543の先端部は使用による欠失。側縁側辺は回転穿孔による摩滅。原面をもつ。横形剥片。544の先端部・側縁側辺は使用による摩滅。背部に原面。両側縁に二次的加工による刃部が見られる。

石槍 (545・546) 545の基部に原面。片面中央部剥離。断面両凸。製作時における事故品。

削器 素材剥片の側縁側辺の一部に連続した細部調整を施し、ほぼ均一な断面形をなす稜線に仕上げて刃部とした石器。

石核 原面を残す天然の礫で搬入された石材から形成された石核と、剥片素材の石核が見られる。

剥片 剥片の中でも、大きなものから石くずのような細片のものまでさまざまなものがある。図示していないが、加工することによって製品になる可能性のある剥片も一部に見られる。

磨製石器 (第50図 547~555)

滑石製双孔円板 (547) 側縁は面取りされている。全面には著しい研磨による線条痕が見られる。

滑石製勾玉 (548) 側縁は面取りされている。全面には粗い研磨による線条痕が見られる。

滑石製紡錘車 (549) 6展開する鋸歯文が側面に施される。全体には風化のため詳細不明。

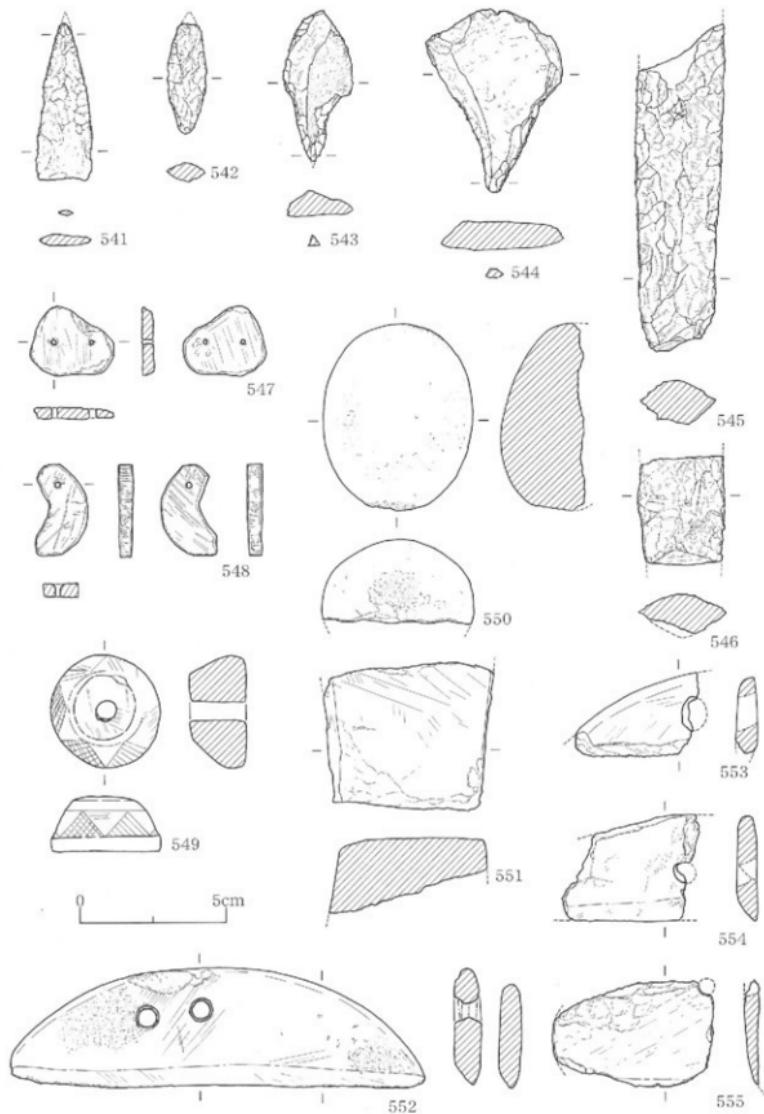
叩き石 (550) 一部に敲打痕が見られる。

砥石 (551) 全面に使用による擦過痕が見られる。全面砥面。

石庖丁 (552~555) 552は完形。裏面に失敗したと思われる穿孔途中の紐孔跡が残存する。紐孔周辺には紐の使用による擦過痕、刃部には使用による摩滅が見られる。直線刃半月形態。553~555は細片のため詳細不明。

表2 溝100出土器比率

器種	生駒西麓産	生駒西麓産?	非河内産	合計(点)
壺	289	3	2	294
甕	1401	40	3	1444
鉢	287	18	1	306
器台	38	1	2	41
高坏	199	4	1	204
その他	3	0	0	3
合計(点)	2217	66	9	2292
比率(%)	96.7	2.9	0.4	100



第50図 石製品実測図

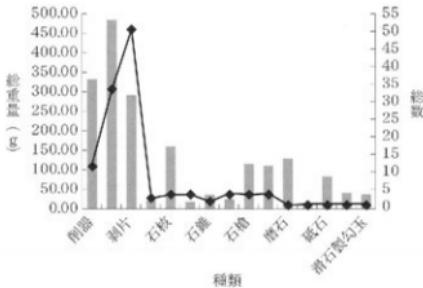
表3 石製品観察表

監査番号	番号	出 売	種類	長 広	幅 厚	重 量	備 考
1	E-1c 第4層	切替		3.55	5.50	0.80	横面部側。一部に磨面、一辺は尖端しているが厚さが見られない。
2	東の段 間接角	切替		2.90	5.70	4.55	10.74 横面部側。二次の加工による傾向の刃部、下部削除。
3	E-2c 心側角	石板切削		5.60	6.25	2.15	70.47 一辺に厚さ。
4	E-2c 第4層	心板切削		4.70	5.5	0.90	16.31 縦面部側。一辺に厚さ。
5	西の段 間接角	心板切削		4.70	7.00	2.50	15.27 縦面部側。一辺に厚さ。石の粒がみられる。
6	E-3c 第4層	石板切削		3.70	3.80	5.00	10.60 縦面部側。
7	E-1c 西側角	切替		2.00	1.70	0.75	3.94 縦面部側。
8	E-1c 第4層	切替		3.55	3.90	0.50	13.77 縦面部側。
9	E-1d 第4層	心板切削		2.30	7.20	2.20	2.38 縦面部側。一辺に厚さ。
10	E-1c 第4層～第4層	切替		2.60	4.20	3.50	6.72 縦面部側。
11	東の段 北側角	片面彫刻		2.40	1.90	3.50	3.20 横面部側。
12	東の段 北側角	心板		5.10	3.70	2.40	42.92 表面に擦痕。
13	E-9c 第3層～第4層	切替		4.40	4.00	2.45	9.25 縦面部側。
14	E-7c 滝100	石板切削		3.85	7.10	1.80	37.97 表面に擦痕。
15	E-7c 滝100	石板		4.50	4.60	0.15	11.53 縦面部側。
16	E-7c 滝100	心板切削		1.70	1.70	0.30	0.58 一辺に厚さ。
17	E-7c 滝100	心板切削		3.55	3.85	0.65	6.19 縦面部側。
18	E-7c 滝100	切替		1.65	2.80	0.45	1.68 縦面部側。
19	E-7c 滝100	石板		2.10	3.40	0.70	4.76 一辺に厚さ。
20	E-4b S端100	石板切削		2.90	4.20	1.10	14.43 縦面部側。表面に厚さ、一辺に刀面。
21	E-2b 滝100	片面彫刻		1.60	1.05	0.30	0.61 縦面部側。
22	E-2b 滝100	切替		1.60	1.05	0.30	0.61 縦面部側。
23	E-7c 滝100	石板切削		3.00	3.00	0.60	0.57 縦面部側。
24	E-1b～2c S端87	石板切削		3.65	2.40	0.50	8.27 縦面部側。
25	(0)E-6端82 第3層内	心板切削		8.25	4.20	1.60	9.88 表面に擦痕。削除の痕跡。
26	E-8d 滝100	心板切削		3.55	2.10	1.00	7.04 縦面部側。
27	E-9c 滝100	石板切削		3.60	3.85	0.50	8.86 縦面部側。
28	E-1b 滝97～滝100	剥片		3.30	3.35	0.50	1.37 縦面部側。
29	E-7c 滝100	剥片		7.00	2.80	0.50	10.28 合掌式法螺。
30	E-8d S端100	剥片		3.95	1.70	0.35	2.01 縦面部側。
31	E-2c 第3層～第4層	心板切削		2.10	0.80	0.80	1.64 一辺に厚さ。
32	E-2c 第3層～第4層	剥片		5.00	2.90	0.60	6.37 縦面部側。
33	E-2c 第3層～第4層	心板剥片		5.20	2.40	0.85	9.24 機械削除。光滑部使用による欠陥。同様法螺。
34	E-2c 第3層～第4層	心板剥片		3.60	3.10	0.60	5.15 一辺に厚さ。
35	E-1c～1c 第3層～第4層	片頭彫刻		2.25	2.30	0.40	3.31 側に擦痕。
36	E-1c～1c 第3層～第4層	剥片		1.90	2.30	0.25	0.94 一辺に厚さ。
37	E-3b 滝100～滝99上端	剥片		7.50	4.05	2.80	64.95 古削式法螺。一辺に厚さ。
38	E-9c～1c～1c 第3層～第4層	心板剥片		3.00	5.65	1.10	14.19 青い色がある仕合山彫り。一辺に厚さ。
39	E-1b～1c～1c 第3層～第4層	剥片		2.20	4.10	1.05	14.19 古削式法螺。
40	E-2c～2c 第3層～第4層	剥片		3.70	1.70	0.30	1.78 合掌式法螺。
41	E-2c～2c 第4層	石板剥片		4.60	2.20	0.70	5.15 一辺に厚さ。
42	E-2c 滝剥片	心板剥片		4.20	4.83	1.95	9.64 縦面部側。
43	E-2b～2c 第3層	石板剥片		3.35	3.05	0.20	3.22 一辺等高によくナカフ削除。
44	E-3c～4c 第3層～第4層	剥片		3.30	7.00	1.50	40.47 側に厚さ。削除跡。
45	E-3c～4c 第3層～第4層	石板剥片		5.00	9.50	1.80	70.50 表面に厚さ。一辺に厚さ。
46	E-2c～4c 第3層～第4層	剥片		6.00	5.00	0.90	26.73 一辺に厚さを見たところから、算出小手の参考品。
47	E-5d～6d 第4層	心板剥片		3.15	4.65	0.70	7.99 表面に厚さ。
48	E-9c 第4層	石板剥片		2.80	3.60	0.65	9.12 縦面部側。
49	E-9c 第4層	剥片		4.70	3.60	1.35	19.05 縦面部側。
50	E-9c 第4層～第5層	剥片		4.40	1.60	1.90	7.17 一辺に厚さ。
51	E-9c～E-1 第3層～第4層	片頭彫刻		0.65	1.75	0.25	0.63 万葉集消滅。
52	E-9c～E-1 第3層～第4層	石板剥片		3.40	4.95	7.50	11.59 一辺に厚さ。
53	E-9c～E-1 第3層～第4層	剥片		3.40	7.40	1.10	21.98 縦面部側。
54	E-7～～E-1 第3層～第4層	剥片		3.25	6.30	0.85	9.44 縦面部側。
55	E-10c 第3層	心板		4.60	3.00	5.50	8.27 野牛達の手取品。
56	E-1c 滝99	剥片		5.00	1.70	0.70	2.93 側に厚さ。
57	滝99	剥片		1.20	2.40	0.20	0.53 縦面部側。
58	E-1c～E-1c 第3層	剥片		2.00	2.35	0.45	3.39 一辺に厚さ。
59	E-1c 滝95	剥片		1.20	2.00	0.20	1.24 縦面部側。
60	E-1c 滝90	剥片		1.20	2.00	0.20	1.24 縦面部側。
61	E-4c 第5層	剥片		4.15	2.05	0.65	6.49 縦面部側。
62	E-4c 第5層	心板		1.10	3.35	0.65	4.72 縦面部側。
63	E-4c 第5層	剥片		3.95	6.83	1.20	30.59 側に厚さ。
64	E-4c 第5層	剥片		2.40	5.32	0.60	6.77 縦面部側。
65	E-4c 第5層	片頭彫刻片		3.05	3.95	0.55	7.96 側に厚さ。作成調査。
66	E-4c 第5層	剥片		2.65	4.49	1.10	13.80 一辺に厚さ。
67	E-4c 第5層	心板		2.85	4.50	0.83	12.95 縦面部側。
68	E-4c 第5層	剥片		3.10	3.25	0.40	2.89 美しい心板。
69	E-4c 第5層	心板		1.90	2.10	0.55	3.31 製作途中の木製品。
70	E-4c 第5層	石板剥片		2.60	1.55	0.90	4.24 一辺に厚さ。
71	E-4c 第5層	剥片		2.70	2.0	0.55	2.93 縦面部側。
72	E-4c 第5層	石板		3.40	1.50	0.75	2.09 品質卓異。
73	E-4c 第5層	石板		1.90	2.50	0.50	0.93 縦面部側。
74	E-4c 第5層	剥片		0.90	1.50	0.60	0.39 縦面部側。
75	E-4c 第5層	剥片		1.80	2.00	0.60	0.68 縦面部側。
76	E-4c 第5層	石板剥片		0.90	1.40	0.55	1.62 縦面部側。
77	E-1c 第3層～第7層	心板		1.85	2.90	1.50	50.54 所持品。
78	E-3d ピット139	心板		5.40	1.90	0.40	4.16 平蓋丸。新画面。
79	E-3d 第3層	剥片		3.95	2.20	0.50	2.74 縦面部側。
80	E-3d 第3層	剥片		1.95	3.05	0.45	2.67 縦面部側。
81	E-3d 滝100	石板剥片		2.40	3.00	0.50	3.96 一辺に厚さ。
82	E-3d 第3層内	剥片		2.95	6.92	0.90	16.41 剥片あるいは製作途中の木製品。奥?
83	E-3c～3c 上部20	石板剥片		3.80	3.05	1.10	9.53 表面に厚さ。
84	E-1c～2c 第5層	剥片		2.85	4.20	0.35	4.37 縦面部側。
85	E-1d～2d 第5層	台形		6.25	4.60	1.00	26.30 一辺に厚さ。牛頭像浮説。

86	Ⅲ-1b	L研13	削物	1.70	3.70	0.55	265
87	Ⅲ-7b	磨	石核剥片	1.95	4.26	0.40	251
88	Ⅲ-7d	ピット52	石核剥片	1.80	3.80	0.70	464
89	Ⅲ-8d	ピット51	石核剥片	1.70	3.40	0.50	280
546	Ⅲ-8d	~8c	土核4	3.75	3.00	1.30	20.50
91	Ⅲ-10d	ピット25	削片	4.70	3.10	0.80	12.2
92	Ⅲ-10d	~10c	削片	2.70	2.90	0.50	6.67
93	Ⅲ-6d	ピット220	石核剥片	2.50	3.50	0.80	6.99
94	Ⅲ-10d	ピット214	削片	4.80	9.69	1.32	47.93
95	Ⅲ-14d	第1種	片面調整	2.70	2.25	0.25	1.40
96	Ⅲ-2d	第5種	石核	3.45	5.75	0.85	32.79
97	Ⅲ-2d	第6種	削片	5.10	6.70	1.50	42.44
98	Ⅲ-3d	ピット227	石核剥片	3.20	3.80	0.45	3.07
99	Ⅲ-3d	ピット234	石核	3.60	2.95	0.55	5.17
100	Ⅲ-4d	第5種	削片	4.20	6.70	1.00	26.30
101	Ⅲ-4d	第6種	石核剥片	2.50	3.25	0.50	3.91
102	Ⅲ-7c	~9c	土核4	3.60	4.70	0.60	8.42
103	Ⅲ-7c	~9c	土核4	2.70	5.85	1.40	11.57
104	Ⅲ-7c	~9c	土核4	3.80	6.50	0.60	8.73
105	Ⅲ-7c	~9c	土核4	3.25	4.10	1.35	20.31
106	Ⅲ-7c	~9c	土核4	3.10	6.80	0.90	18.28
107	Ⅲ-7c	~9c	土核4	1.90	3.70	0.30	3.55
108	Ⅲ-10c	磨99	石核剥片	1.90	2.40	0.30	1.26
109	Ⅲ-10c	磨72	石核剥片	2.00	2.49	0.30	1.25
110	Ⅲ-7c	ピット46	石核剥片	2.20	3.13	0.30	1.57
111	Ⅲ-8c	ピット40	石核剥片	2.35	3.55	0.40	3.18
112	Ⅲ-8c	溝88	削片	2.70	5.20	1.40	19.87
113	Ⅲ-2c	~8c	土核4	2.90	4.50	0.25	31.81
114	Ⅲ-2c	~8c	土核4	2.60	2.49	0.40	1.65
115	Ⅲ-2c	~8c	土核4	4.60	2.70	1.80	34.00
116	Ⅲ-2c	~8c	土核4	3.45	2.75	0.70	5.24
117	Ⅲ-7c	~9c	土核7	7.35	6.80	0.90	47.70
118	Ⅲ-2b	滴100	石核剥片	4.35	4.75	1.40	24.73
532	Ⅰ-9	Ⅰ-1d	S 土核6	14.15	4.00	0.90	86.67
534	120	Ⅱ-2d	底在滴100	4.70	3.60	0.60	18.20
533	121	Ⅱ-9	滴109	4.20	2.85	0.75	11.53
535	122	第6種	石核剥片	5.45	3.60	0.50	13.88
539	123	第6A種～第7種	剥片	6.40	5.10	2.90	128.70
547	124	Ⅱ-6c	磨10	2.40	2.80	0.40	4.08
551	125	Ⅱ-1c	第4A種～第4b種	5.10	5.80	2.75	83.18
548	126	Ⅱ-1c	滴109	3.10	1.40	0.50	37.00
549	127	Ⅲ-2d	剥片	3.85	3.75	1.90	41.87

表4 石製品の個体別表およびグラフ

種類	総重量(g)	総数
削器	331.82	12
石核剥片	484.01	34
剥片	291.22	51
片面調整	20.96	3
石核	159.59	4
石鑿	17.55	4
石錐	36.04	2
細部調整剥片	25.15	4
石槍	115.37	4
石庖丁	110.51	4
磨石	128.70	1
滑石製双孔円板	4.08	1
砥石	83.18	1
滑石製鋸車	40.87	1
滑石製勾玉	37.00	1
合計	1886.05	127



V. まとめ

今回の調査では、後期の弥生土器を多量に含む溝100をはじめ、弥生時代中期から中後期にいたる遺構・遺物を検出した。概要報告の性格上、調査成果の二、三を例挙しとまとめて代えておきたい。

1) 段上遺跡第12次調査地の集落様相概観

第2遺構面において、奈良時代・古墳時代中～後期・弥生時代後期の3時期の遺構が検出された。ここでは現場所見に基づいて各時期の様相を地区別に概観する。A区の溝100以東部では、後世の擾乱のため古墳時代の溝・土坑・井戸が散見されるにとどまる。溝100の南側ではピットが密在する。東西溝78と南北溝75・溝76が区画する内部に掘立柱建物が2棟以上存在すると考えられる。溝78は出土遺物から古墳時代に属し、区画内の建物も該期の所産と推定される。B区では、南北溝88の東側にピット群がある。A区より長大な柱間を持つ掘立柱建物1棟の存在が推定される。ピットから古墳時代中～後期の須恵器が出土するため復元される建物の時期は該期に求められよう。溝88より西側では溝100と併走しない直交する溝群が見られる。切り合は明瞭ではないが出土遺物から奈良時代に属するものである。なお今後の課題とするが、溝100と同時期の集落遺構を抽出することはできなかった。また第3遺構面のピット・土坑・井戸は、上層での未検出分を除き、弥生時代中期を中心に一部後期に下るものであろう。平安時代以降、本調査地は耕地として利用されたことも判明した。

2) 溝100とその出土遺物

溝100から多量の完形品を含む後期の弥生土器が出土した。上面での擾乱を考慮すると本来は完形品が累々と重複していたものと推測される。出土した弥生土器をみると、①長頸壺は肩部が球形を呈し頸部長と胴部高が相半ばする例に混じり細く上方へ直線的にのびるもの(107)がみられること、②甕は口縁端面に凹線文を施すもの(142)が少量認められること、など古い要素を残しつつ、③杯部で屈曲して稜をなす高杯は例外なく上方に外反して開く形態をもつことから、弥生時代後期前半(西ノ辻I式)の良好な一括資料群と捉えられよう。次に出土した弥生土器のうち生駒西麓産は96.7%、スコープで角閃石が確認されたものを含めると実に99.6%にのぼる。この数値を中期末の豊穴住居址1棟が検出された山畠遺跡(15次-90.6%)、後期初頃～前半の豊穴住居址6棟検出の岩滝山遺跡(5次-94.4%)と比較すると、段上遺跡では極めて在地性の高い集落が営まれていたことがわかる。この相違は遺跡の立地条件や集落の性格に求められるのではなく、西麓域の後期集落全体が閉塞状況に置かれたとする指摘を追認し、後期前半ではその傾向が強まることが窺われる。さて溝100の内部からさまざまな絵画・記号文土器がみられた。ここではサギが描かれた土器(236、P80～81)について臆説を述べたい。一般に後期(弥生V期)になると近畿地方では上器から絵画が消滅し記号文に移行する見通しが指摘されている。サギは集落周辺の水田で散見される動物で、弥生人から稻の生育に係わるシンボルとして神聖視されたといわれる。サギの冠羽については鳥取県福吉遺跡出土の絵画土器(中期)が参考となる。船上の人には頭部から逆U字形の装飾がみえる。彼らは鳥裝の司祭者でサギの冠羽をシンボリックに捉えたことがわかる。段上遺跡の南西約1.2kmの池島地区ではサギが観測されており、段上ムラの弥生人はまつりの場などで稻の生育と重ね合わせてサギを土器に描いたと推測される。

1 (財)東大阪市文化財協会『山畠遺跡第15次発掘調査概要』、1999年。

2 (財)東大阪市文化財協会『岩滝山遺跡第5次発掘調査概要』、1999年。

3 宇本隆裕『まとめ』。(注2文献)。

4 以下、サギが描かれた土器の位置付けは、佐原 真・春成秀鷗『原始絵画』(歴史充撫⑤)、1997年。に拠る。

5 注4に同じ。

6 (財)日本野鳥の会大阪支部『大阪府鳥類目録』、1987年。

図 版

図版
1

遺構



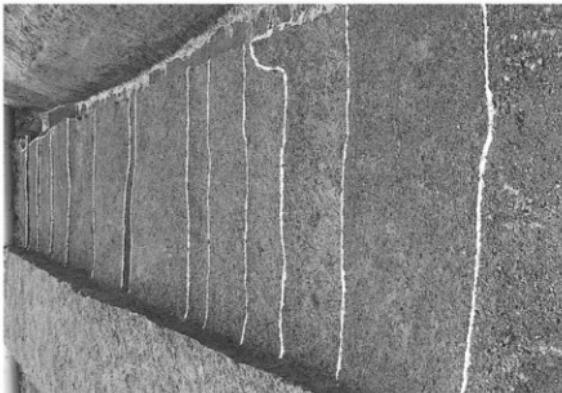
調査地と周辺



調査地全景

図版2

遺構



先行部 第1遺構面検出状況



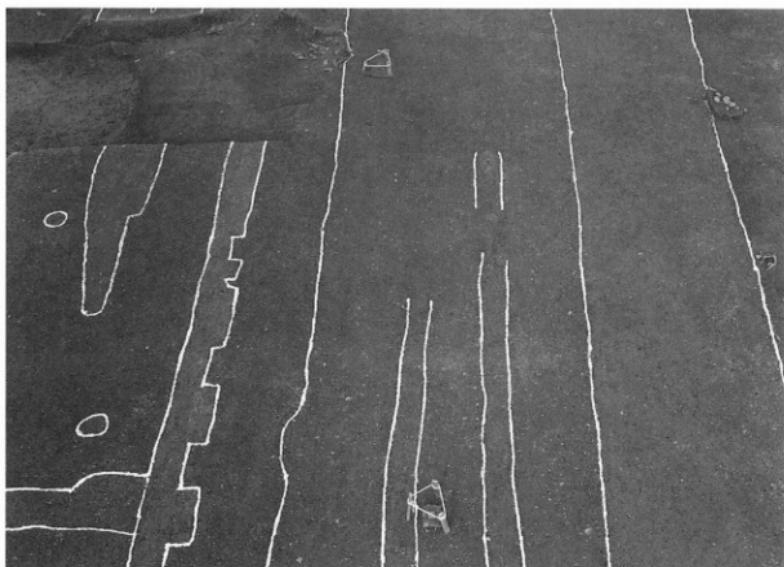
先行部 第2遺構面検出状況



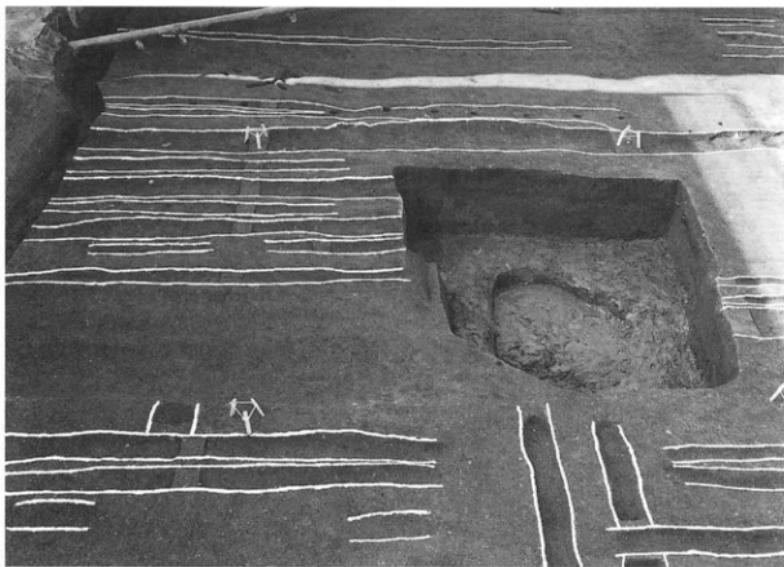
先行部 第3遺構面検出状況

図版3

遺構



A区 第1遺構面 (鉤溝) 検出状況



B区 第2遺構面 (鉤溝) 植出状況

図版
4

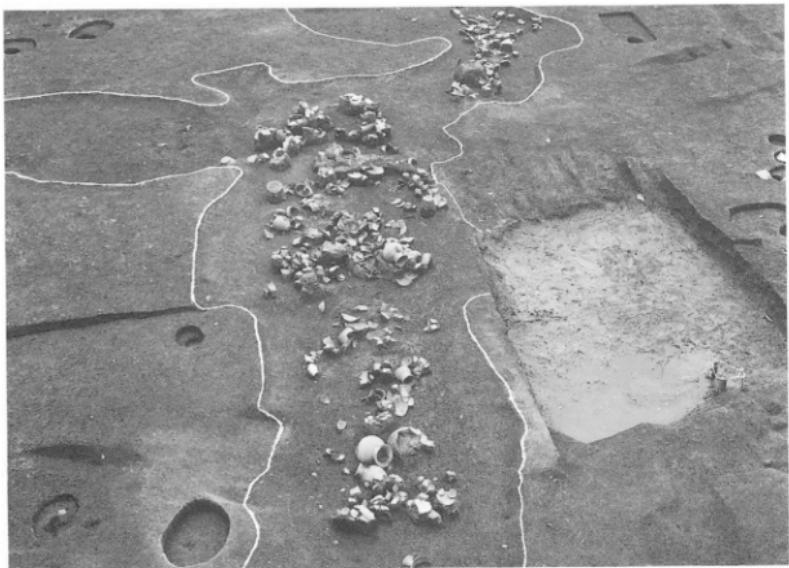
遺構



A区 第2遺構面検出状況



B区 第2遺構面検出状況



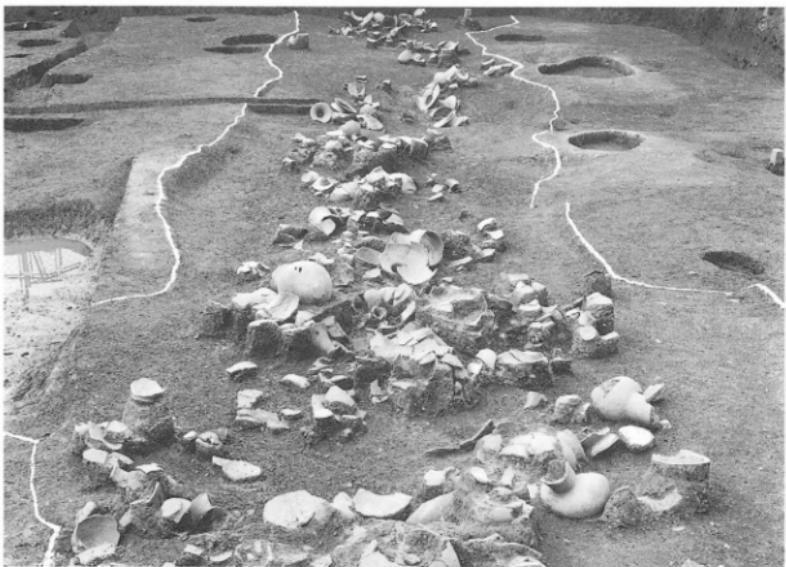
A区 溝100内土器出土状況



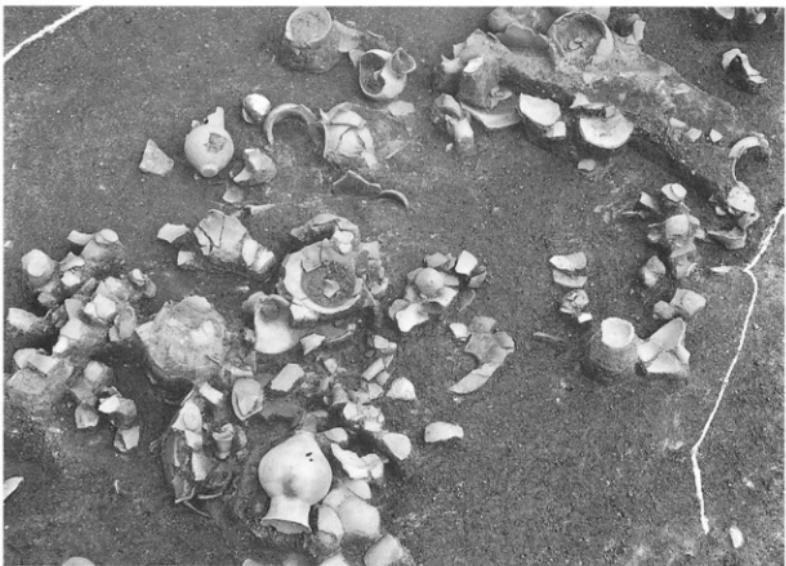
A区 溝100内土器出土状況

図版
6

遺構



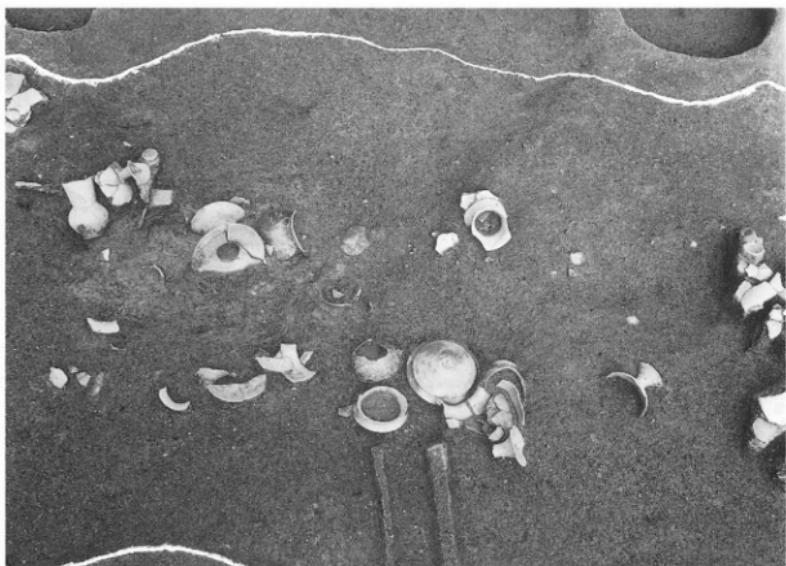
A区 溝100内土器出土状況



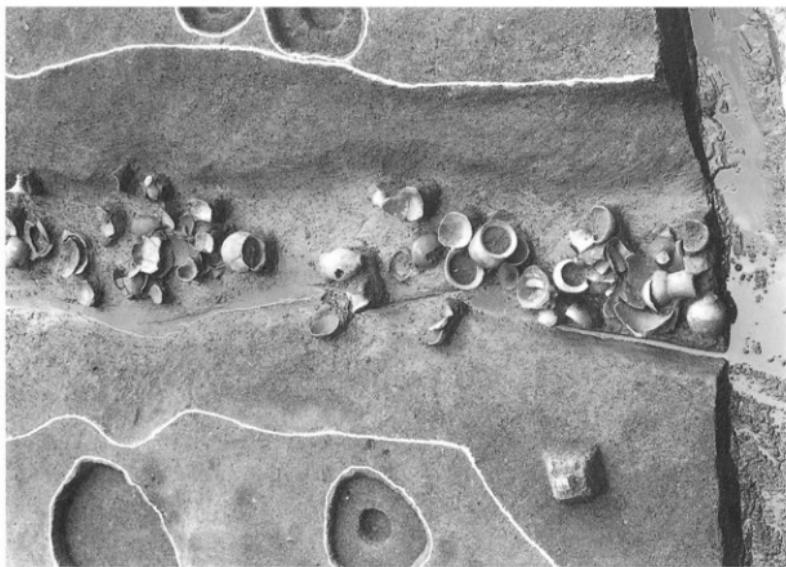
A区 溝100内土器出土状況

图版 7

遗構



A区 溝100内土器出土状況



A区 溝100内土器出土状況（下層）

圖版 8

遺構



B区 溝100内土器出土状況



B区 溝100内土器出土状況



B区 溝100内土器出土状況



B区 溝100内土器出土状況



B区 满100内土器出土状况



B区 满100内土器出土状况



B区 满100内土器出土状况



B区 满100内土器出土状况

图版
12

遗構



B区 满100内土器出土状况



B区 满100内土器出土状况



A区 第2遺構面完掘状況（東側）



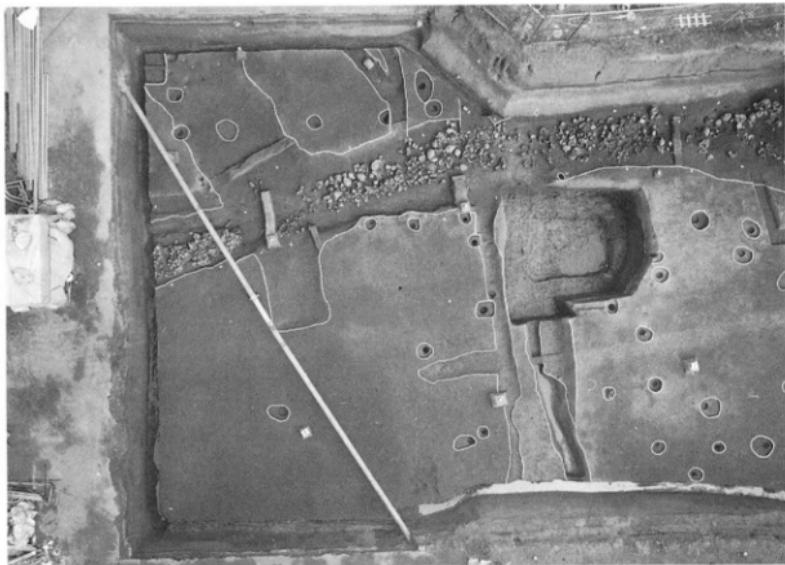
A区 第2遺構面完掘状況（西側）

圖版
14

遺構



土坑6 内石庖丁出土状況



B区 第2遺構面掘削状況



A区 第3遺構面完掘状況



B区 第3遺構面完掘状況

図版
16

遺構



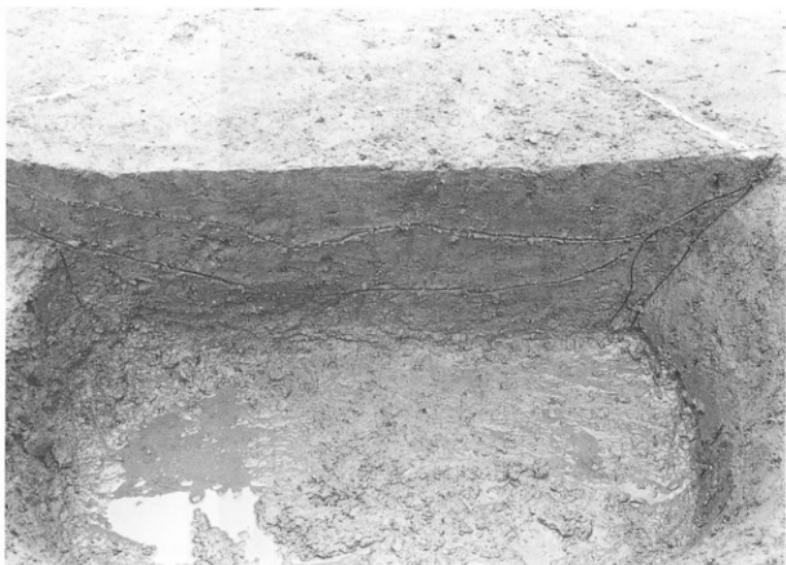
井戸14完掘状況



井戸14北壁断面



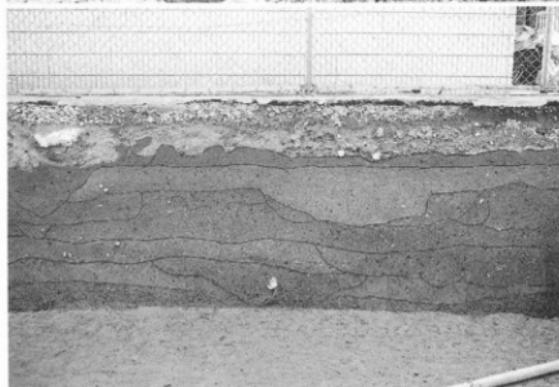
土坑15断面



土坑18断面



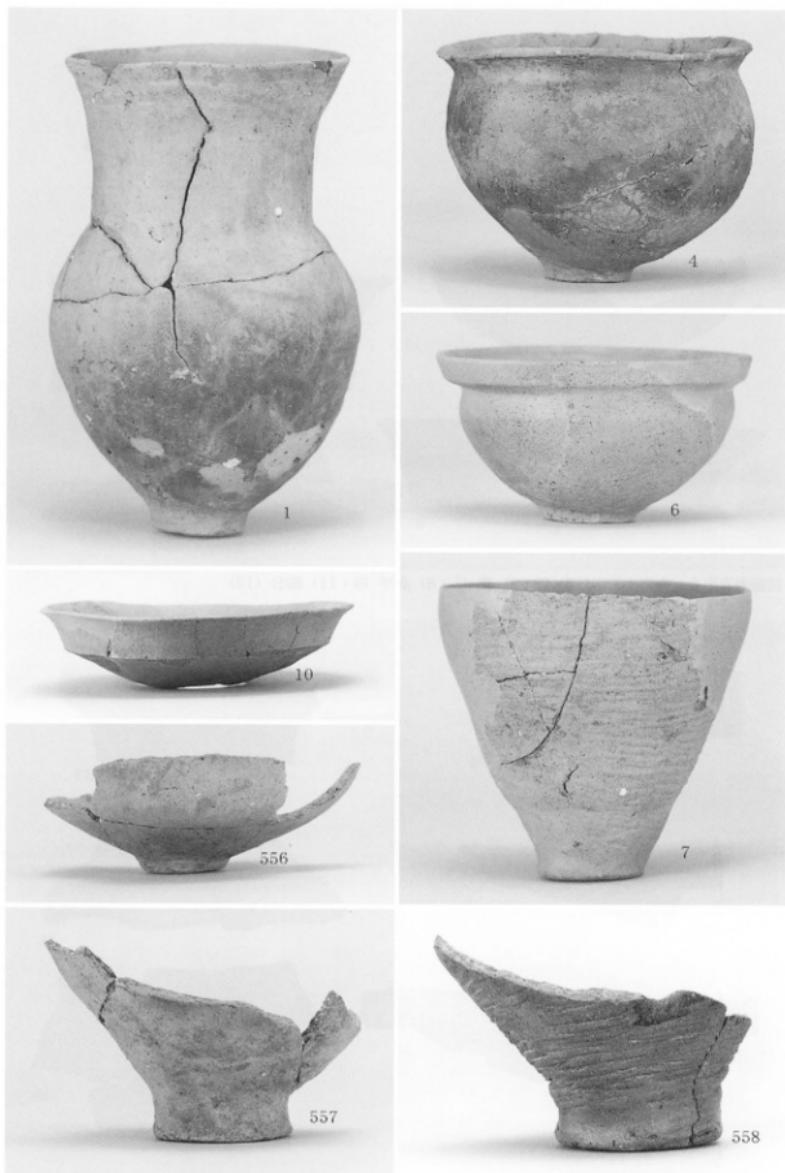
A区 南壁断面



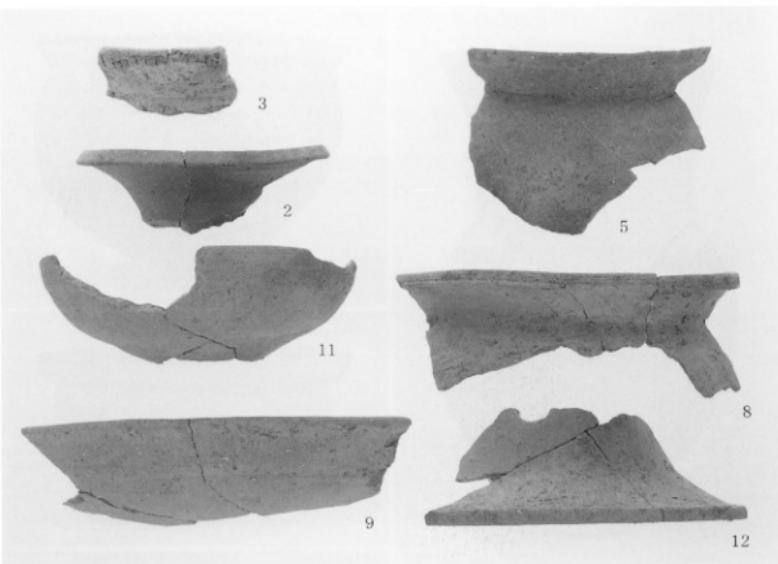
B区 南壁断面



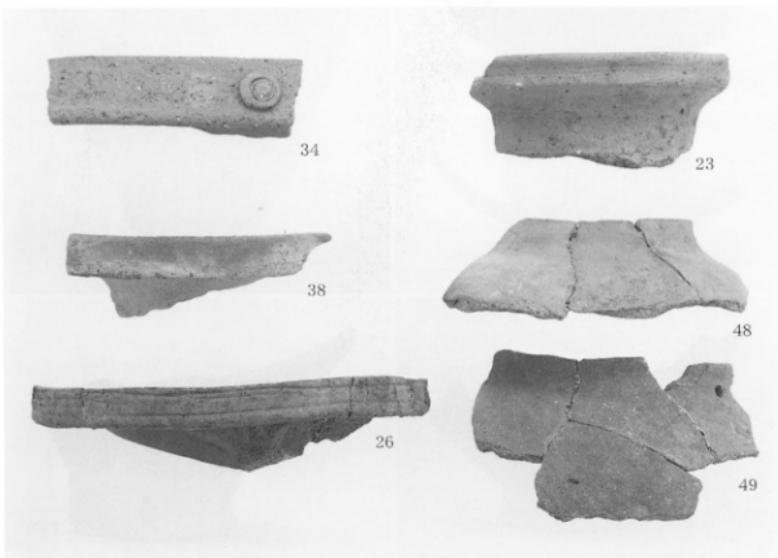
B区 西壁断面



試掘調査出土 弥生土器長頸壺（1）甕（4）鉢（6・7）高坏（10）底部（556～558）



試掘調査出土 弥生土器広口壺（2・3）蓋（5・8）高坏（9・11）脚台（12）



溝100出土 弥生土器広口壺（23・26・34・38）無頸壺（48・49）



溝100出土 弥生土器広口壺 (13・16・19・29・32・35~37)



満100出土 弥生土器広口壺 (17・18・20・24・28・30・33・39)



溝100出土 弥生土器広口壺 (14・15・25・50~53・55~57)



54



61



58



62



59



63

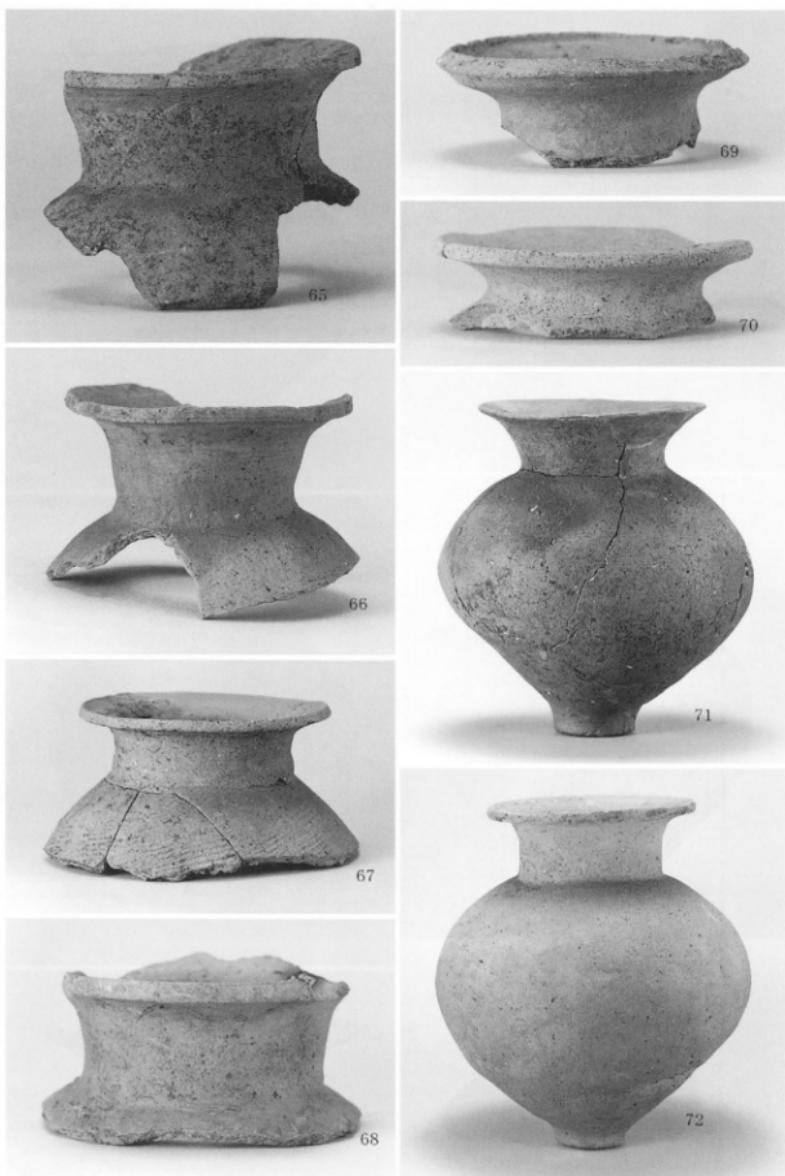


60

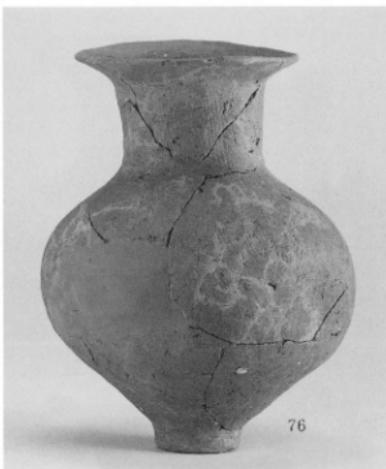


64

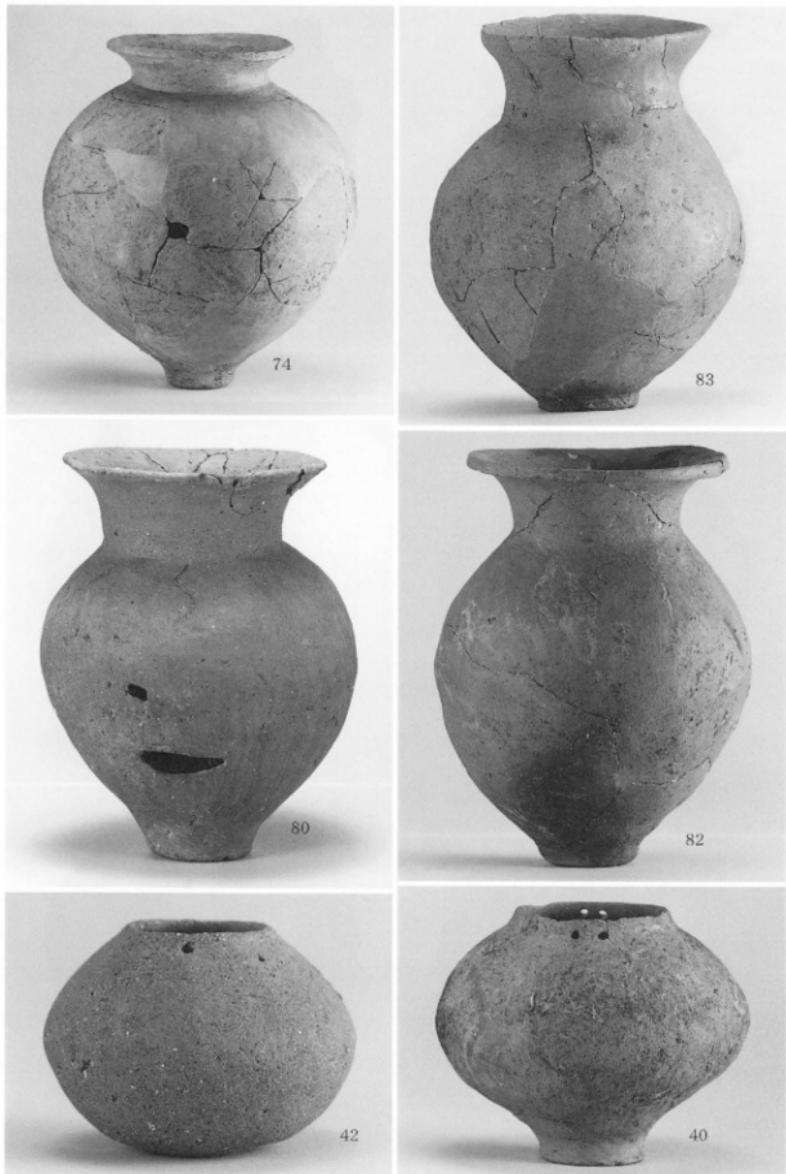
溝100出土 弥生土器広口壺 (54・58~64)



溝100出土 弥生土器広口壺 (65~72)



溝100出土 弥生土器広口壺 (73・75~79)



溝100出土 弥生土器無頸壺（40・42）広口壺（74・80・82・83）



81



43



31



44



46



45

溝100出土 弥生土器台付鉢（31）小形壺（43～45）無頭壺（46）広口壺（81）



84



85



86



87

溝100出土 弥生土器長頸壺 (84~87)

図版
30

遺物



88



91



89



92

溝100出土 弥生土器長頸壺 (88・89・91・92)



溝100出土 弥生土器長頸壺（110～113）



101



120

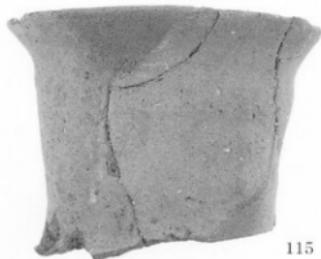


124



121

溝100出土 弥生土器長頸壺 (101・120・121・124)



溝100出土 弥生土器長頸壺 (94・106・114~116)



93



99



98



100

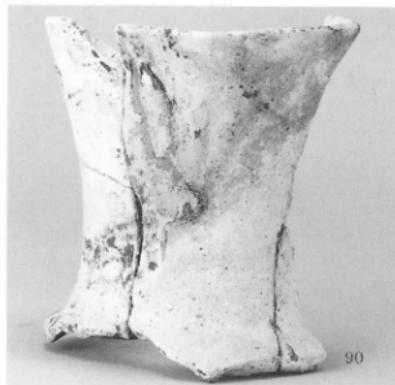


118



117

溝100出土 弥生上器長頸壺 (93・98~100・117・118)



溝100出土 弥生土器長頸壺（90・95～97）短頸壺（123・131）



119



126

溝100出土 弥生土器長頸壺（119・126）



128



132

溝100出土 弥生土器長頸壺（128・132）



溝100出土 弥生土器長頸壺（104・105・107・108・133・134）



溝100出土 弥生土器長頸壺（102）短頸壺（125）



溝100出土 弥生土器長頸壺（127）短頸壺（129）



103



109

溝100出土 弥生土器長頸壺（103）広口壺（109）



122



130

溝100出土 弥生土器短頸壺（122・130）



135



137

溝100出土 弥生土器甕 (135・137)



136



138

溝100出土 弥生土器甕 (136・138)



溝100出土 弥生土器甕 (139~143・147)

図版
42

遺物



144



146



145



149



148



150

溝100出土 弥生土器甕 (144~146・148~150)



151



153



152



155



154

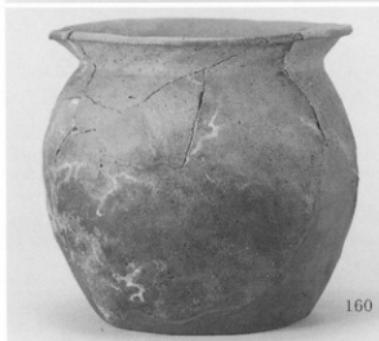


156



157

溝100出土 弥生土器甕 (151~157)



溝100出土 弥生土器甕（158～165・166）



167



171



169



172



170



173



168



174

清100出土 原生土器甕 (167~174)



175



177



176



178

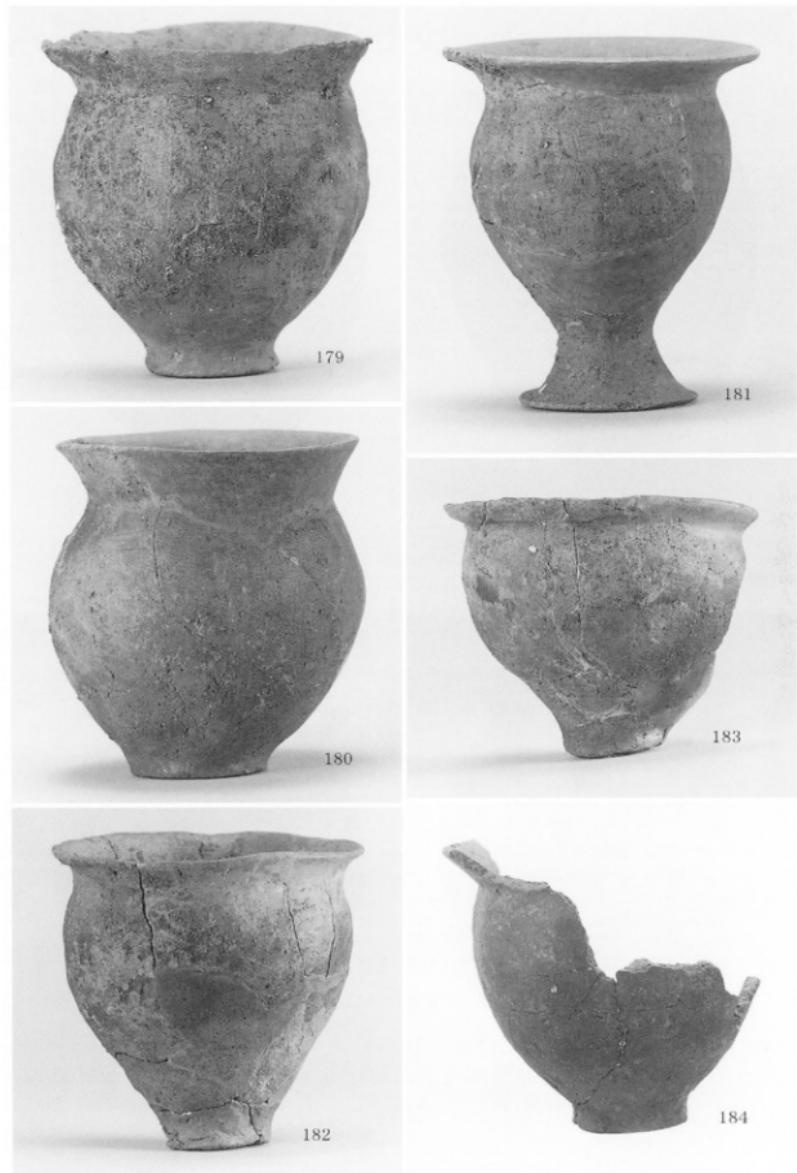


185



186

満100出土 弥生土器甕 (175~178・185・186)



満100出土 弥生土器甕 (179・180・182~184) 台付甕 (181)



溝100出土 弥生土器甕 (187・191)



溝100出土 弥生土器甕 (190・192)



満100出土 弥生土器甕 (188・201)



満100出土 弥生土器甕 (194・197)

図版
50
遺物



198



204

溝100出土 弥生土器甕 (198・204)



205



219

溝100出土 弥生土器甕 (205・219)



193



196



200



199



195



202

溝100出土 猿生土器甕 (193・195・196・199・200・202)

図版
52

遺物



210



217

溝100出土 弥生土器甕 (210・217)



216



218

溝100出土 弥生土器甕 (216・218)



207



203



208



212



209



213

溝100出土 弥生土器甕 (203・207~209・212・213)

図版
54

遺物



222



206

溝100出土 弥生土器甕 (206・222)



211



223

溝100出土 弥生土器甕 (211・223)



214



215



236



227



220



221

溝100出土 筋生土器甕 (214・215・220・221・227・236)



224



225



229



226



233



231

溝100出土 弥生土器甕 (224・226・229・231・233・235)



234



228

溝100出土 弥生土器甕 (228・234)



225

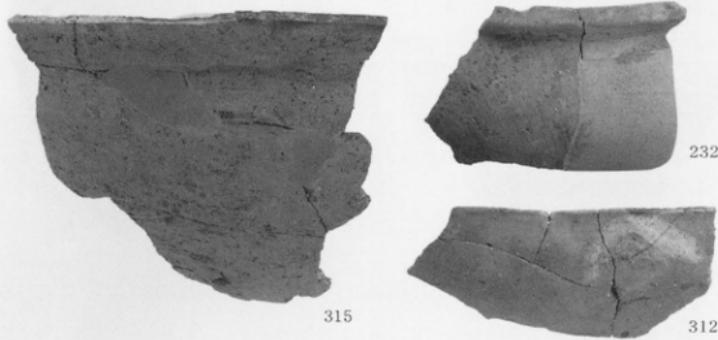


230

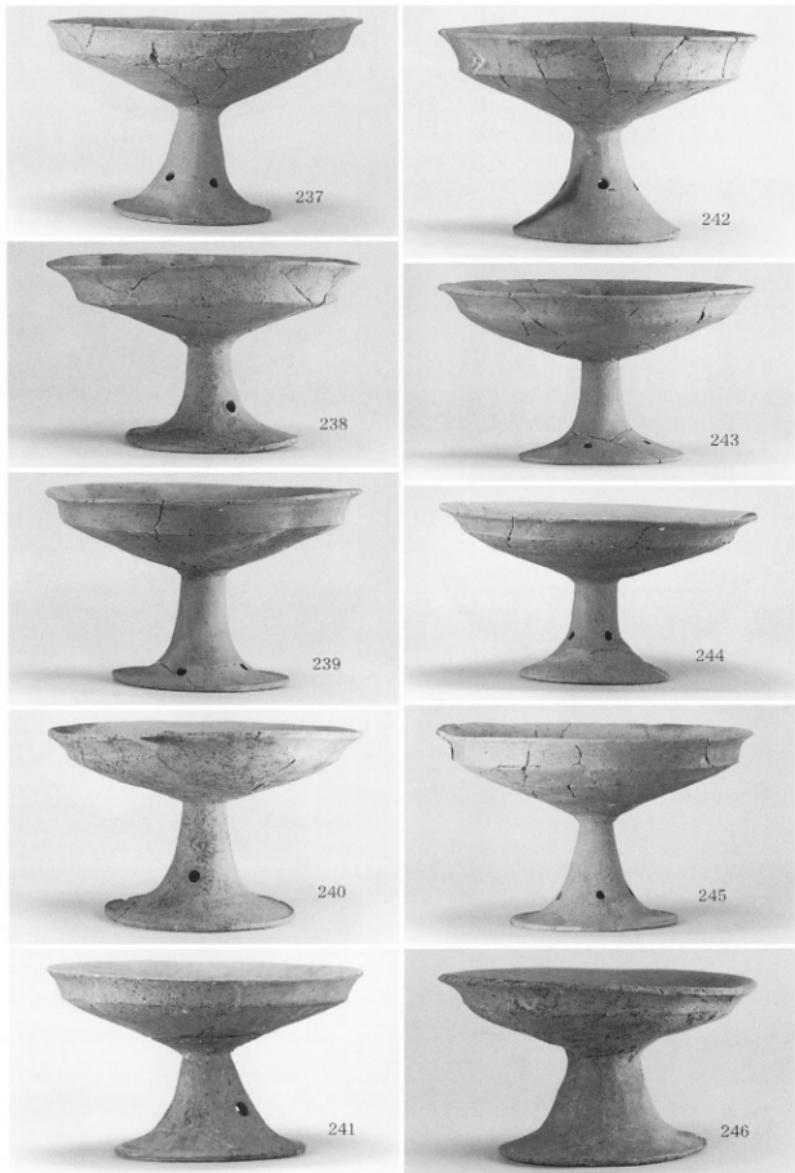
溝100出土 弥生土器甕 (225・230)



溝100出土 弥生土器甕 (165) 鉢 (309・314・559)



溝100出土 弥生土器甕 (232) 鉢 (310・312・315)

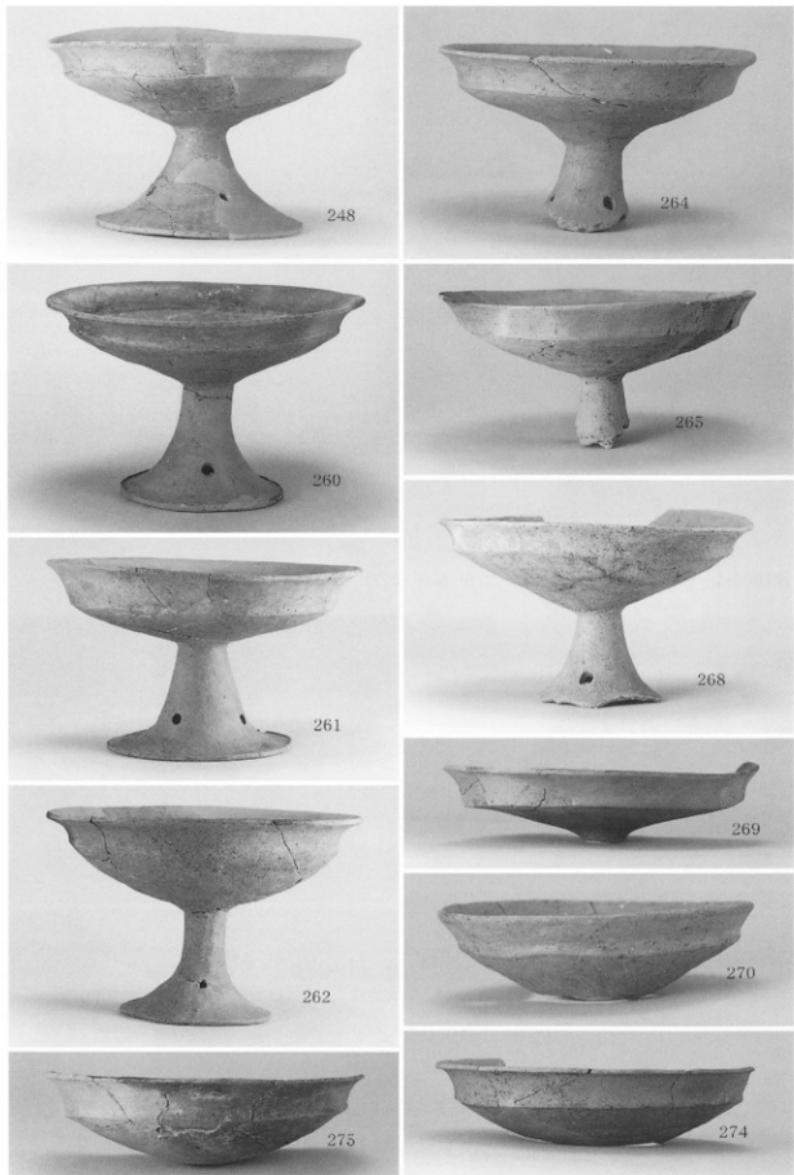


溝100出土 弥生土器高基 (237~246)

図版
60
遺物



溝100出土 義生上器高坏 (249~256)



満100出土 弥生土器高環 (248・260~262・264・265・268~270・274・275)



259



276



258



277

満100出土 弥生土器高坏 (258・259・276) 脚台 (277)



247



283



282

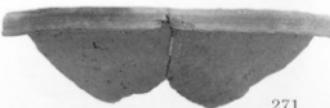


284

満100出土 弥生土器脚台 (247・282~284)



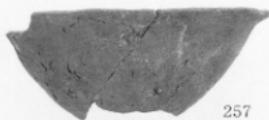
272



271



311



257

溝100出土 弥生土器高環 (257・271・272) 鉢 (311)



273



263



266



267



279



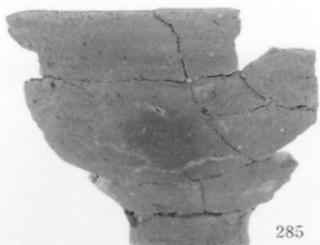
281



278

280

溝100出土 弥生土器高環 (263・266・267・273) 脚台 (278~281)



285



290



291



286



296



287



297



288



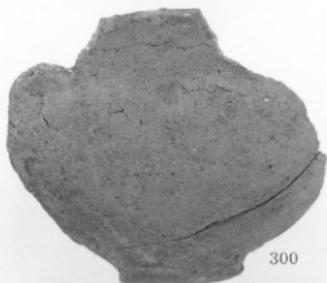
298



299



304



300



305



301



306



302



307

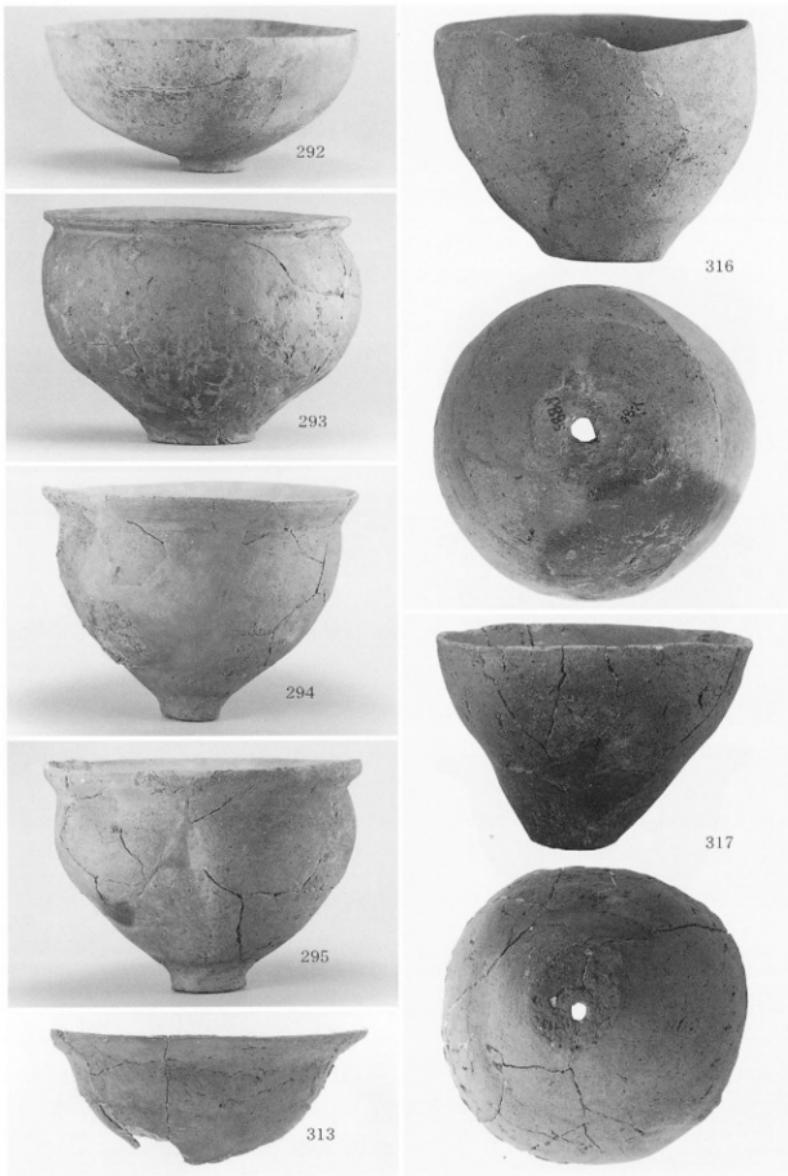


303



308

溝100出土 弥生土器鉢 (299~308)



溝100出土 异生土器鉢 (292~295・313・316・317)



318



322



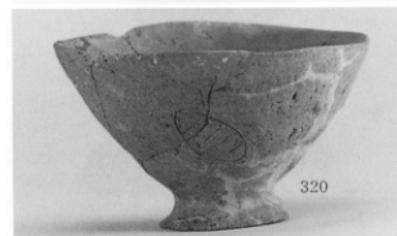
319



320



323



321



325



336

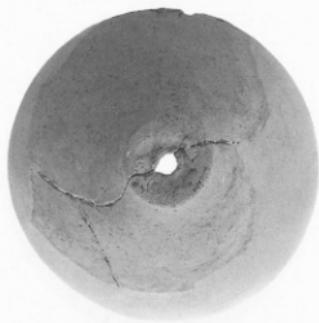
溝100出土 弥生土器鉢 (318~323・325・336)



324



327



326

328



満100出土 弥生上器跡 (324・326~328)



329



330



331



334



332



335

溝100出土 弥生土器鉢 (329~332・334~335)

図版
70

遺物



337



339



338



340



溝100出土 弥生土器鉢 (337~340)



341



343



342



344



345

溝100出土 弦生土器鉢 (341~345)



346



348



347



349



350



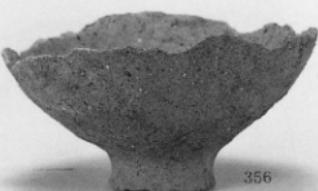
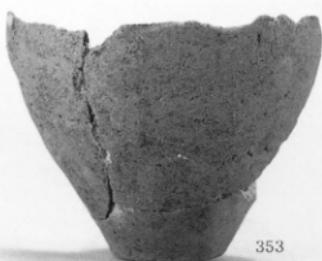
351



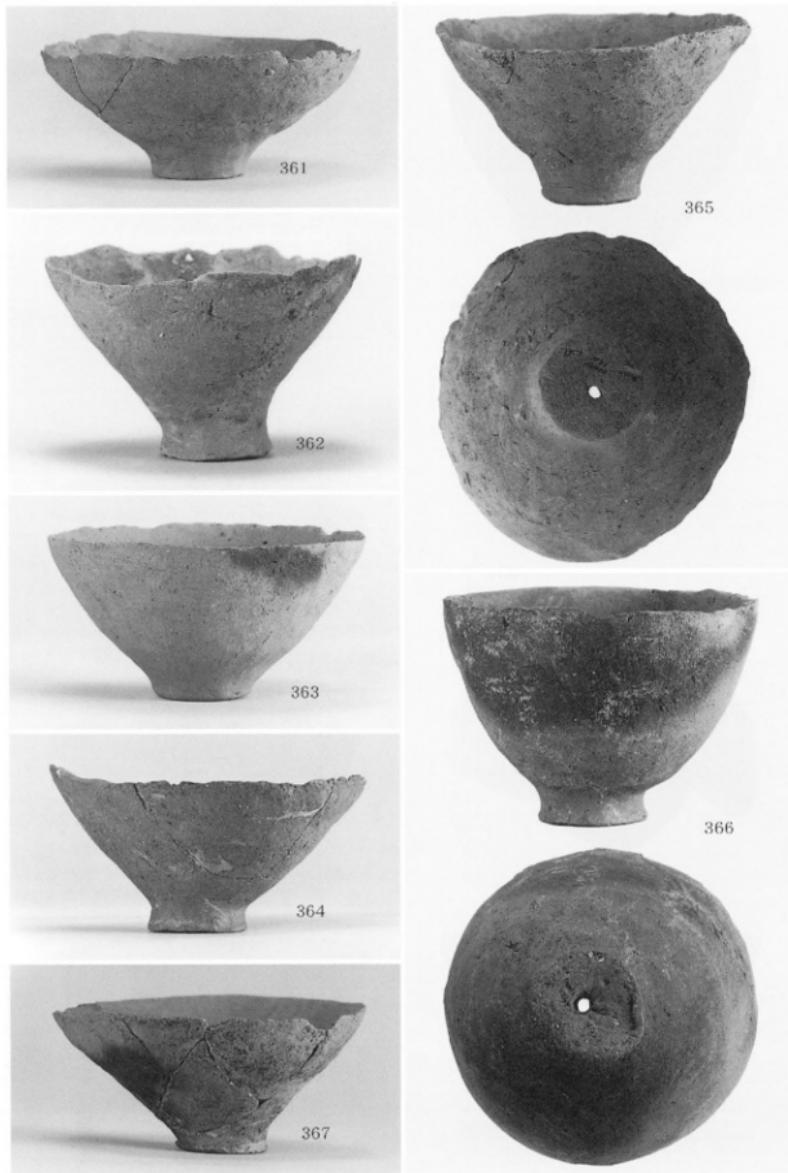
352



溝100出土 莺生土器鉢 (346~352)



溝100出土 弥生土器鉢 (353~360)



溝100出土 胎生土器鉢 (361~367)



368



371



369



372



383



373



386



387



382

溝100出土 弥生土器器台 (368・369・371~373・382・383・386・387)



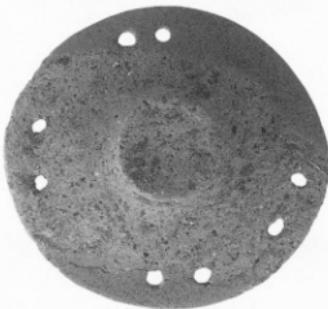
溝100出土 弥生土器器台（374～380・384）



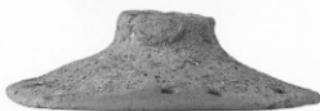
溝100出土 弥生土器器台（370・381・385・388）台付甕（389）把手付コップ形土器（396）ミニチュア土器（398）



395



390



溝100出土 弥生土器壺蓋（390）筒形鉢（395）



391



397



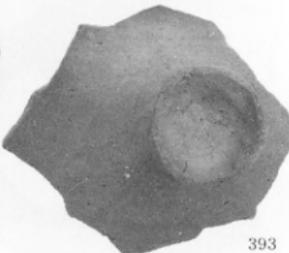
41



392

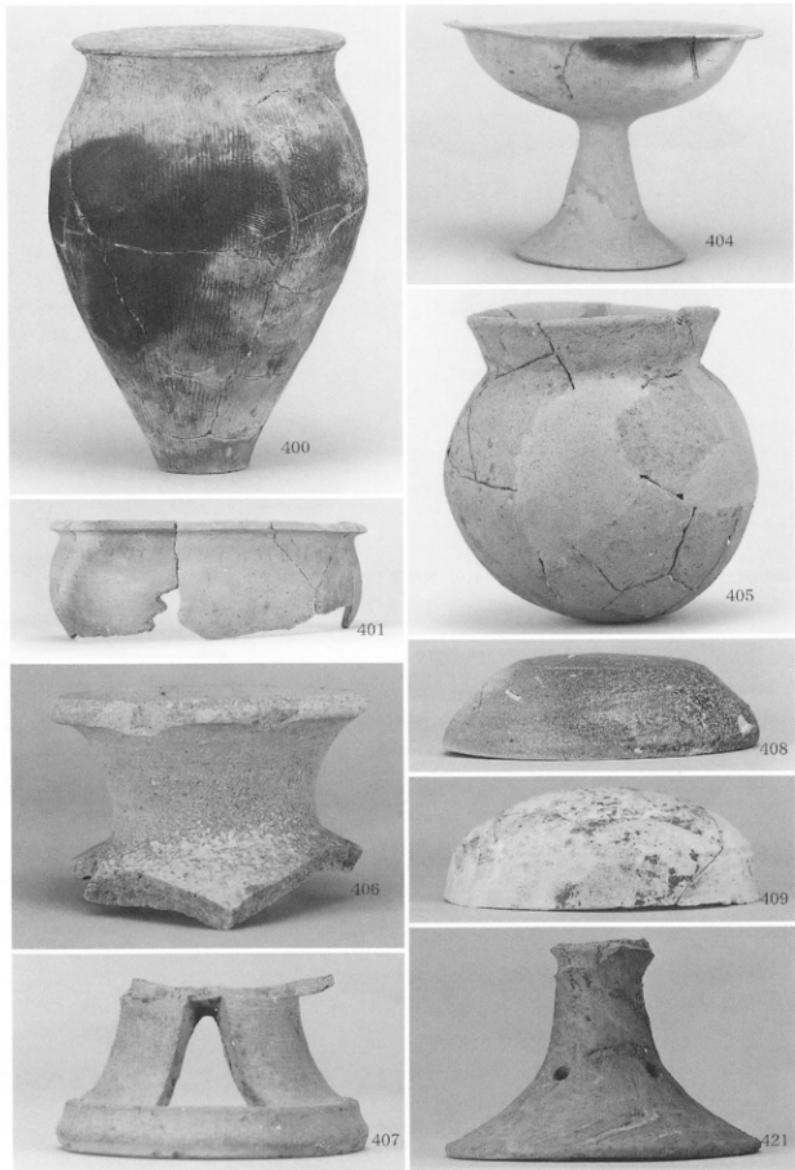


399



393

溝100出土 弥生土器無頸壺（41）甕蓋（391～393）ミニチュア土器（397・399）



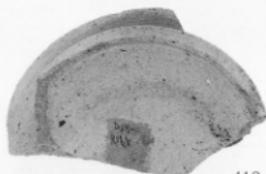
溝100出土 弥生土器甕(400)鉢(401)、溝88出土 土師器高壺(404)甕(405)須恵器提瓶(406)
高壺脚台(407)壺蓋(408・409)、溝95出土 弥生土器高壺脚台(421)



411



410



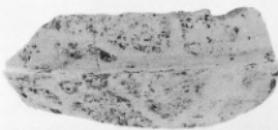
412



414



403



413

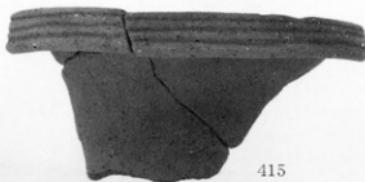
溝88出土 製塙土器 (403) 須恵器環蓋 (410) 無頸壺 (411) 壺 (412) 環身 (413・414)



419



417



415



418

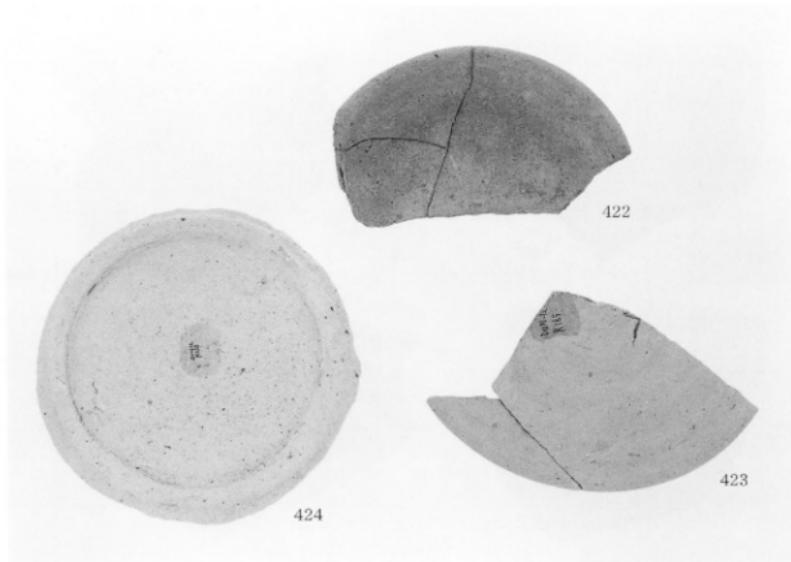


402

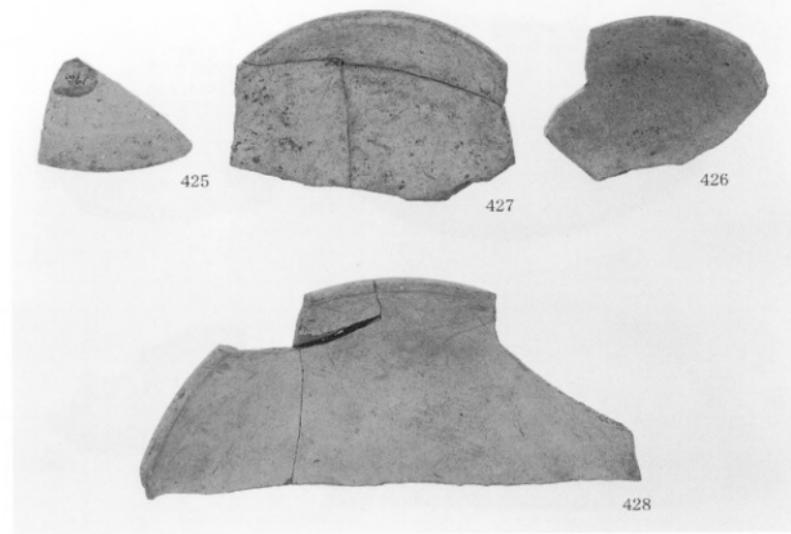


416

溝88出土 弥生土器広口壺 (402)、溝82出土 弥生土器広口壺 (415・416) 小形壺 (417) 高坏 (418)、
溝33出土 弥生土器広口壺 (419)



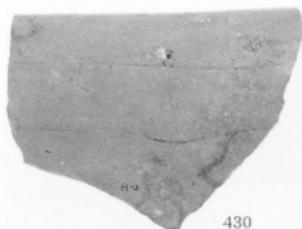
満87出土 土師器坏身（422）須恵器坏蓋（423）坏身（424）



満98出土 須恵器坏蓋（425）土師器坏身（426・427）皿（428）

図版
82

遺物



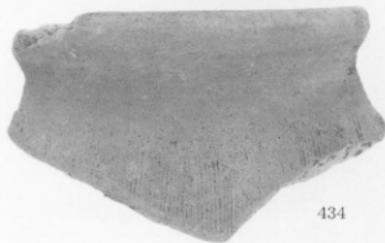
430



433



431



434

溝99出土 土師器鉢（430）甕（433・434）製塙土器（431）



432



429



438

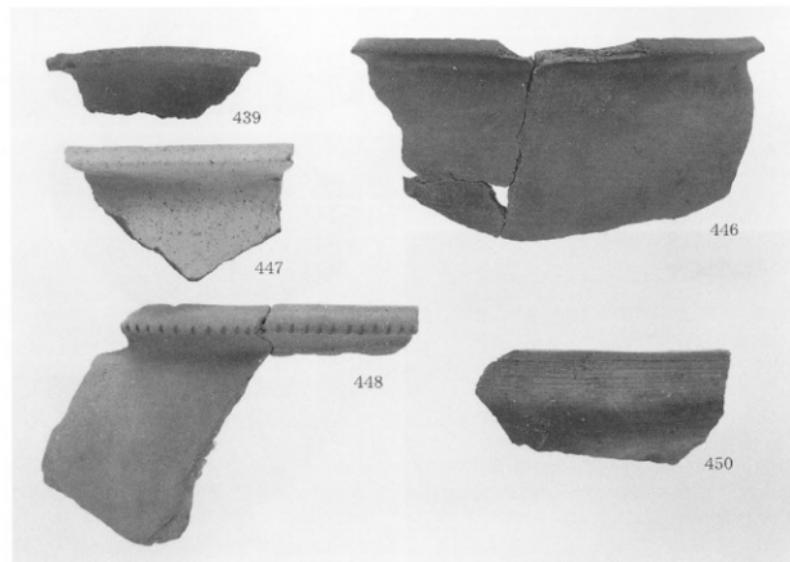


437

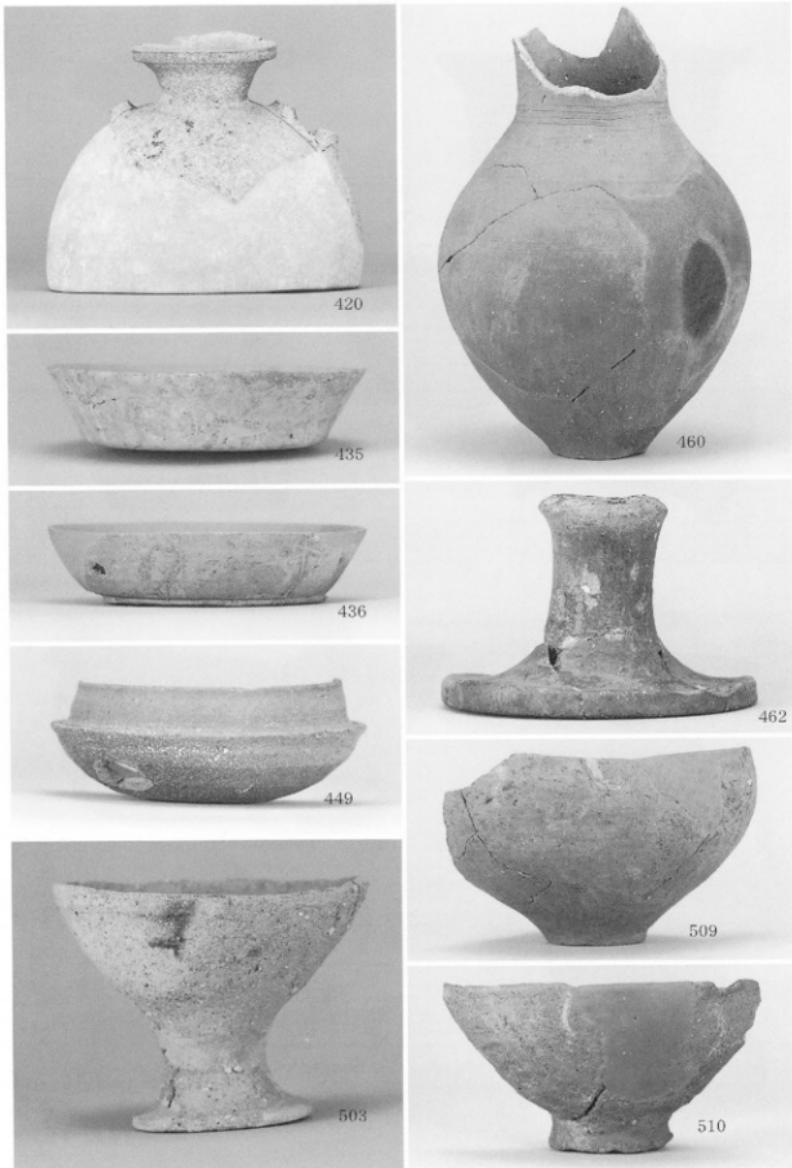
溝99出土 須恵器環蓋（429・432）環身（437・438）



井戸14出土 弥生土器甕 (440~443・445)



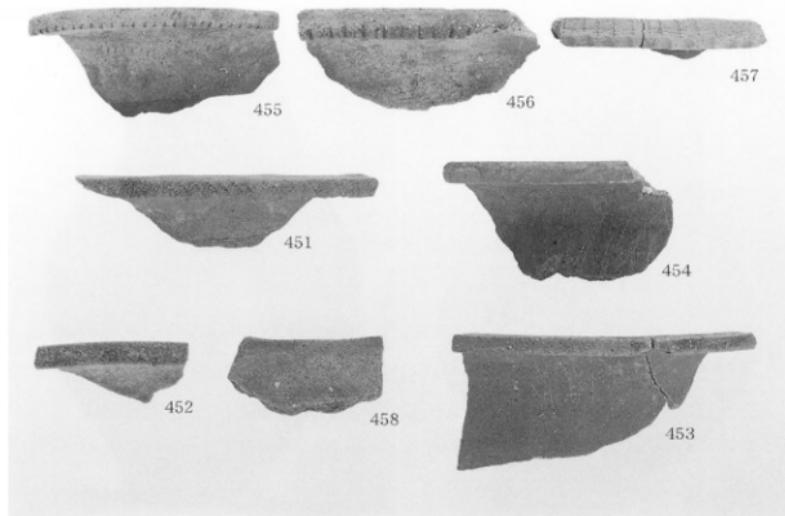
井戸14出土 弥生土器広口壺 (439)鉢 (446)甕 (447・448)、土坑6出土 弥生土器鉢 (450)



満33出土 須恵器提瓶（420）、満99出土 須恵器壺身（435・436）、土坑8出土 須恵器壺身（449）、
ト卜183出土 弥生土器壺（460）、ビット171出土 弥生土器高壺（462）、側溝出土 弥生土器台付鉢（503）
鉢（509・510）



土坑30出土 弥生土器壺 (459)、井戸14出土 弥生土器壺 (444)



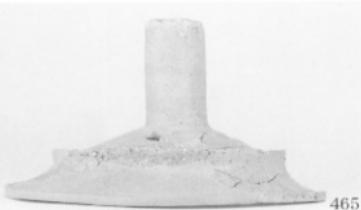
土坑30出土 弥生土器広口壺 (451~457) 無頬壺 (458)

図版
86

遺物



463



465



468



466



471

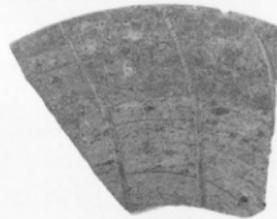
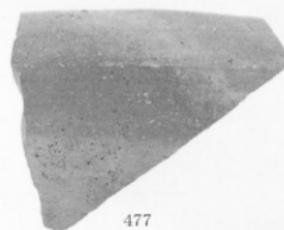


469

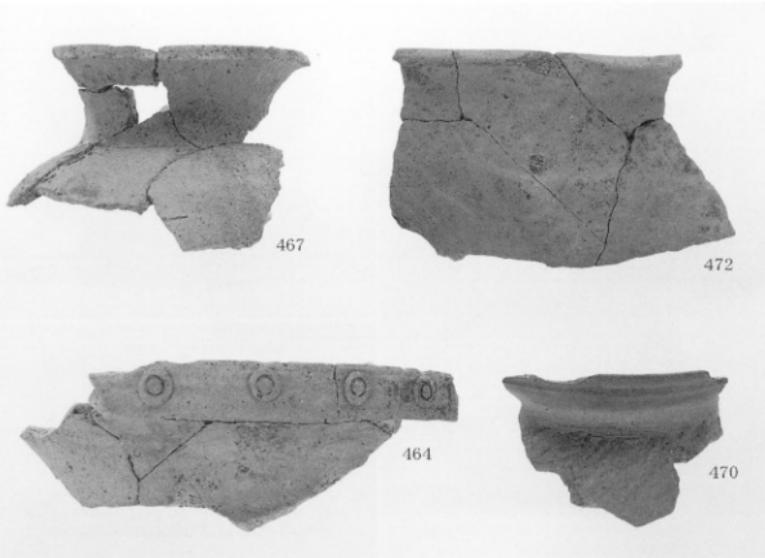
第4層出土 弥生土器広口壺（463・468）器台（465）甕（466）長頸壺（469・471）



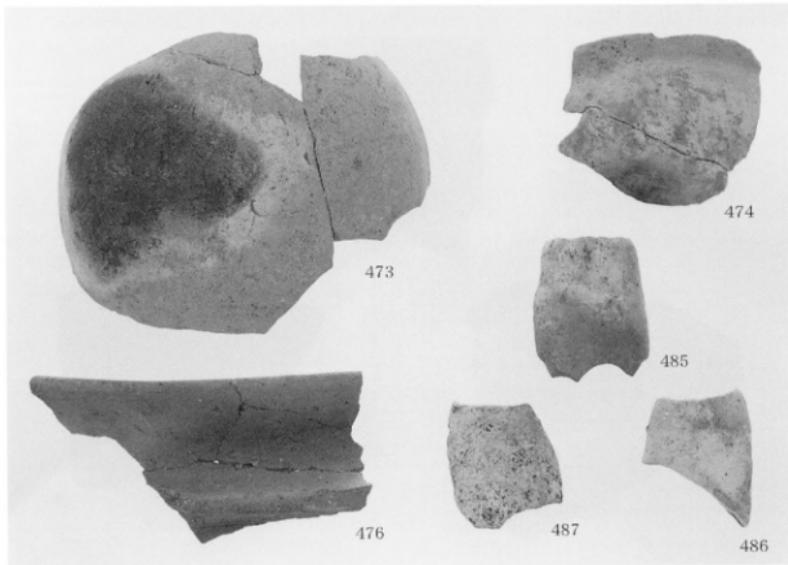
第4層出土 須恵器高坏 (478・482) 基(484)



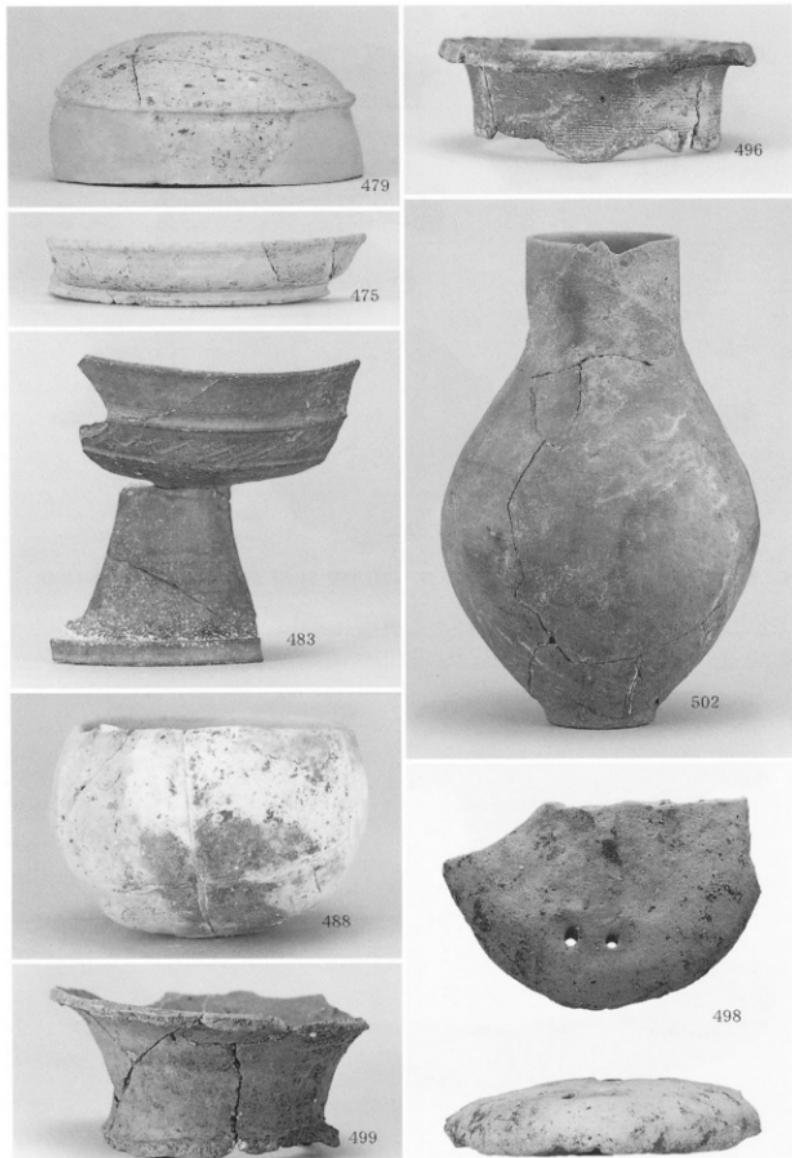
第4層出土 須恵器鉢 (477) 坯身 (480・481)



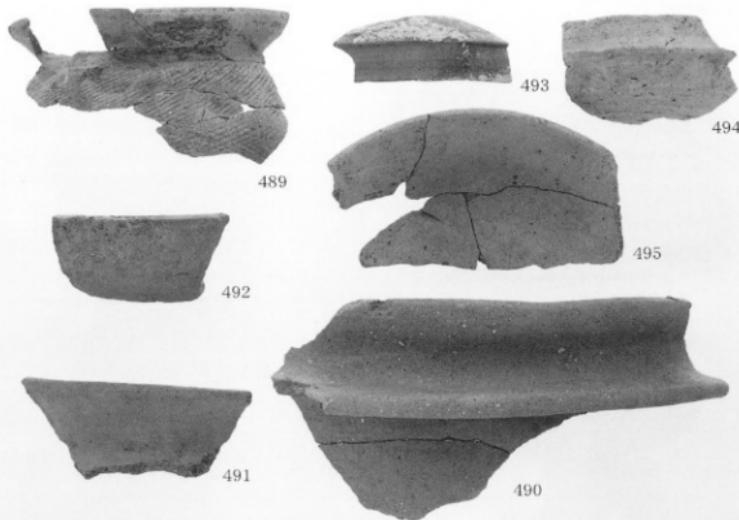
第4層出土 弥生土器広口壺（464・467）甌（470・472）



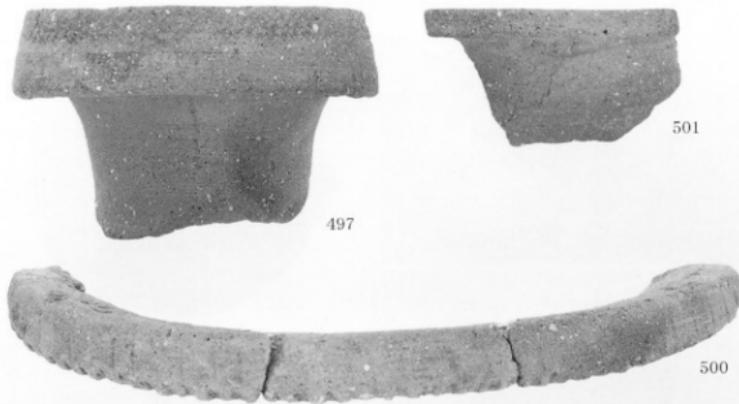
第4層出土 上師器坏身（473）小形丸底甌（474）甌（476）製塙土器（485～487）



第4層出土 土師器皿（475）須恵器壺蓋（479）有蓋高杯（483）製塙土器（488）、第5層出土 弥生土器壺（496）、第5～第6層出土 弥生土器壺蓋（498）広口壺（499・502）



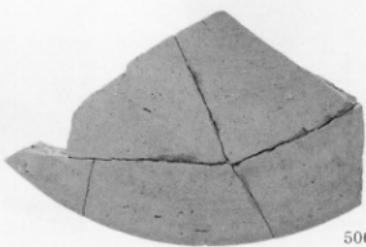
第5層出土 土師器甕 (489) 羽釜 (490・491) 鉢 (492) 壺身 (495) 須惠器壺蓋 (493) 壺身 (494)



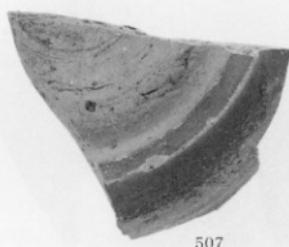
第6層出土 弥生土器広口壺 (497・501)、第5～第6層出土 弥生土器広口壺 (500)



461



506

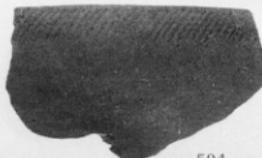


507

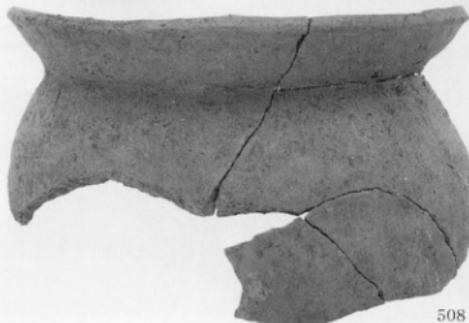
ピット136出土 須恵器坏身 (461)、側溝出土 須恵器坏蓋 (506) 壊身 (507)



505



504

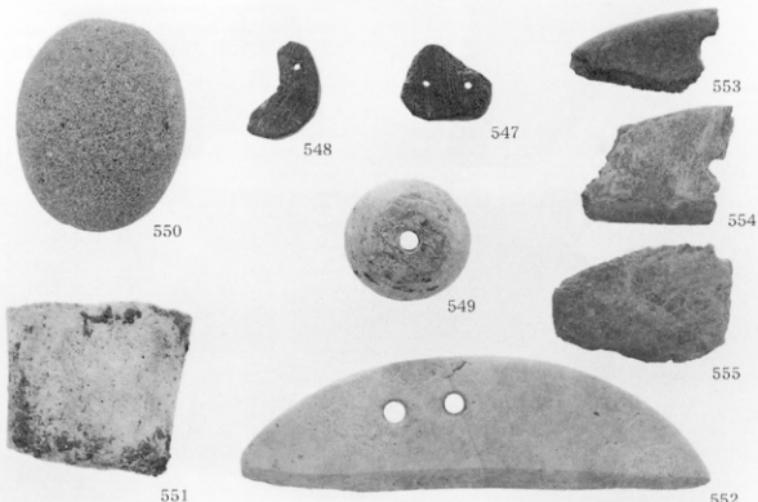


508

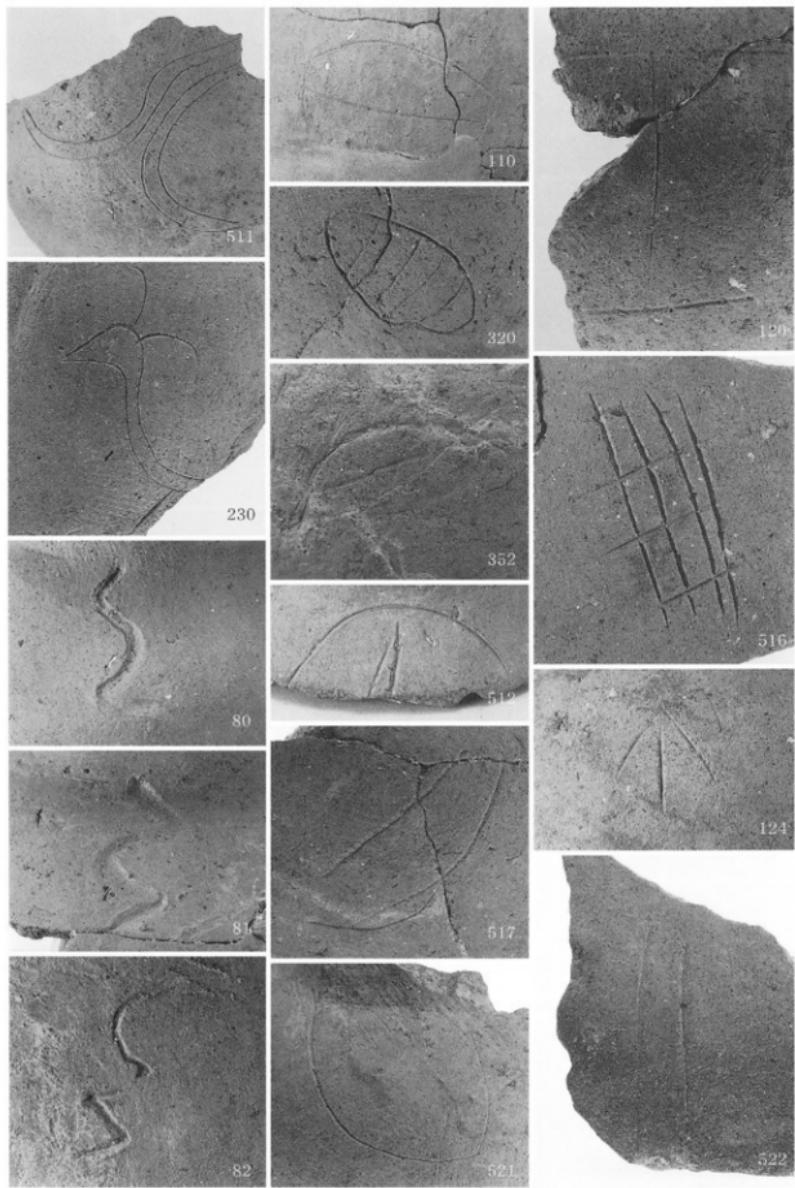
側溝出土 弥生土器高坏 (504) 瓢 (505・508)



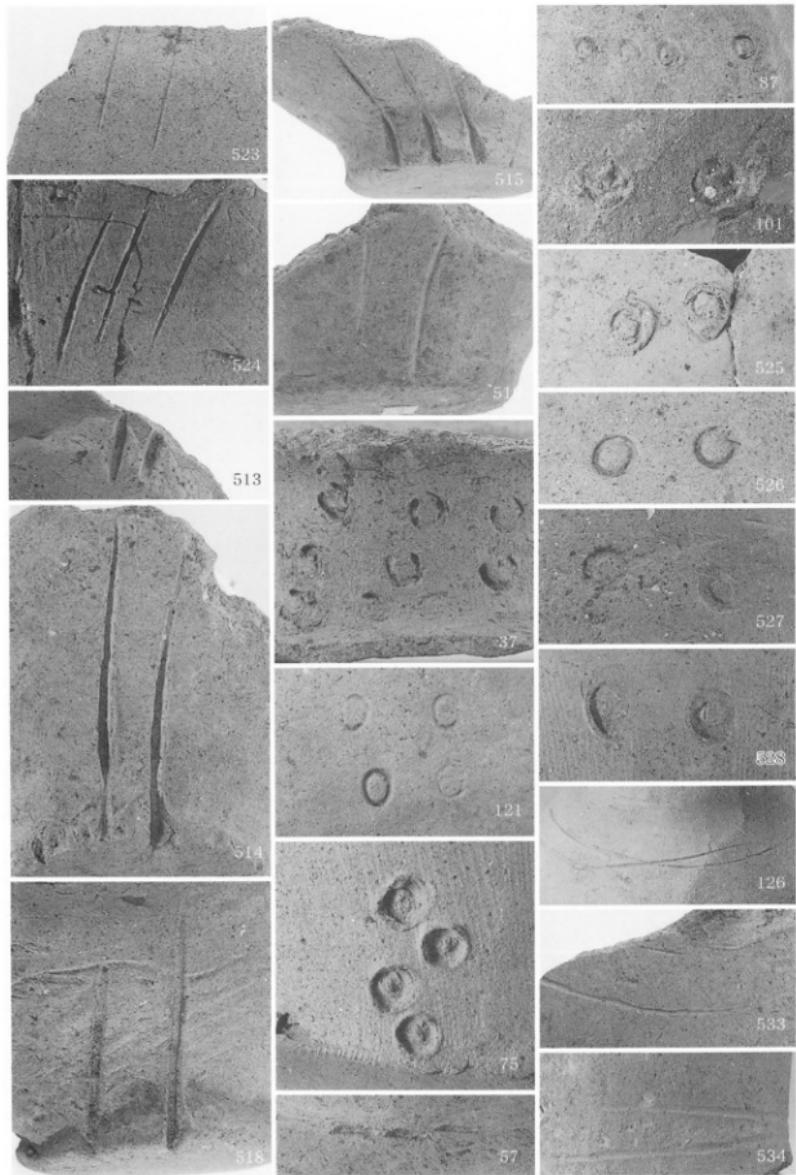
ピット139出土 石鏃 (541)、溝100出土 石鏃 (542)、第5層出土 石錐 (543)、土坑11出土 石錐 (544)、第7層出土 石槍 (545)、井戸14出土 石槍 (546)



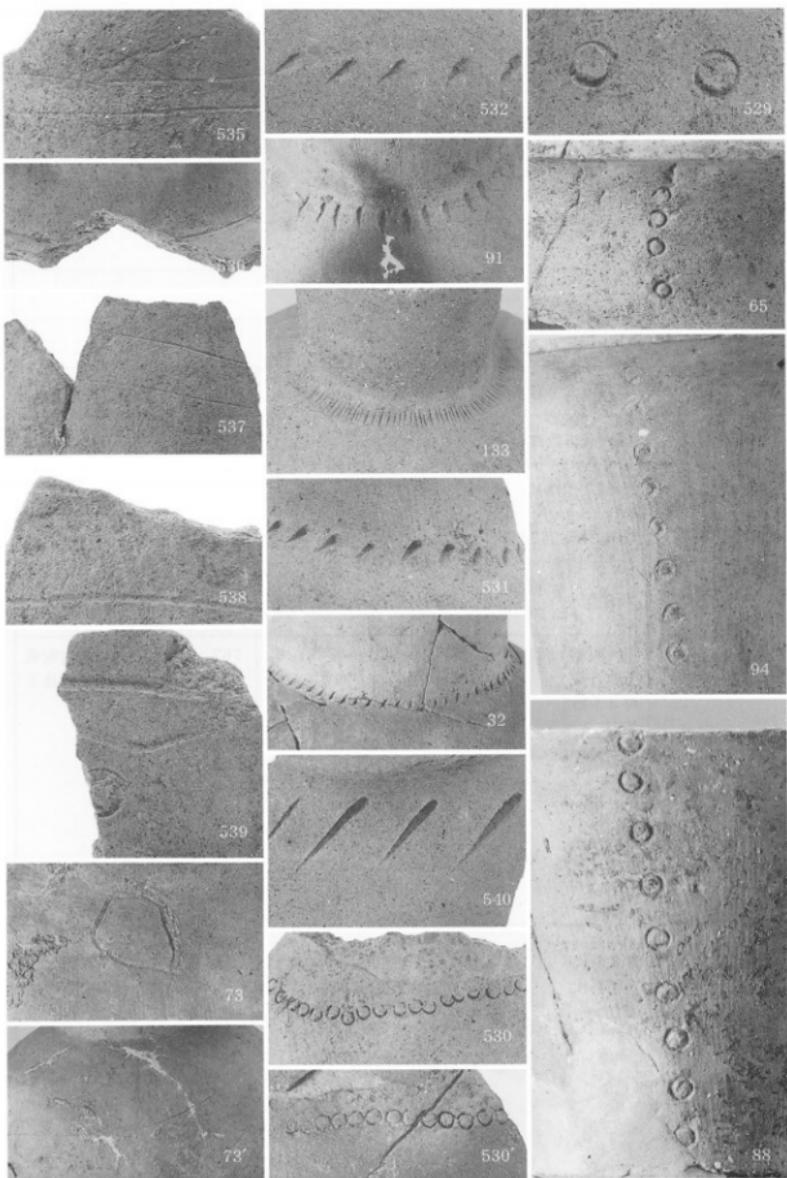
第4層出土 滑石製双孔円板 (547) 叩き石 (550) 砥石 (551)、溝99出土 滑石製勾玉 (548)、試掘溝出土 滑石製紡錘車 (549)、土坑16出土 石庖丁 (552)、溝100出土 石庖丁 (553~555)



絵画文・記号文のある土器



絵画文・記号文のある土器



絵画文・記号文のある土器

報告書抄録

ふりがな	だんのうえいせきだい12じはくつちょうさがいようほうこく						
書名	段上遺跡第12次発掘調査概要報告						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者	菅原章太 岩間俊之 横原美智子						
編集機関	東大阪市教育委員会						
所在地	〒577-0843 東大阪市荒川3丁目4-23						
発行年月日	2002年3月31日						
所収遺跡	所在地	市町村コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
段上遺跡	東大阪市下六万寺町3丁目地内	27227			平成12年10月1日～平成13年3月29日	767	主要地方道大阪東大阪線道路改良工事
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
集落	弥生時代 古墳時代 奈良～平安時代	溝 上坑 ビット 井戸	弥生時代中期の土器・石製品 弥生時代後期の土器 古墳時代以降の須恵器・土師器			溝100より出土した一括の弥生時代後期土器・絵画文土器	

段上遺跡第12次発掘調査概要報告

平成14年3月31日

発行所 東大阪市教育委員会

印刷所 グランド印刷株式会社

